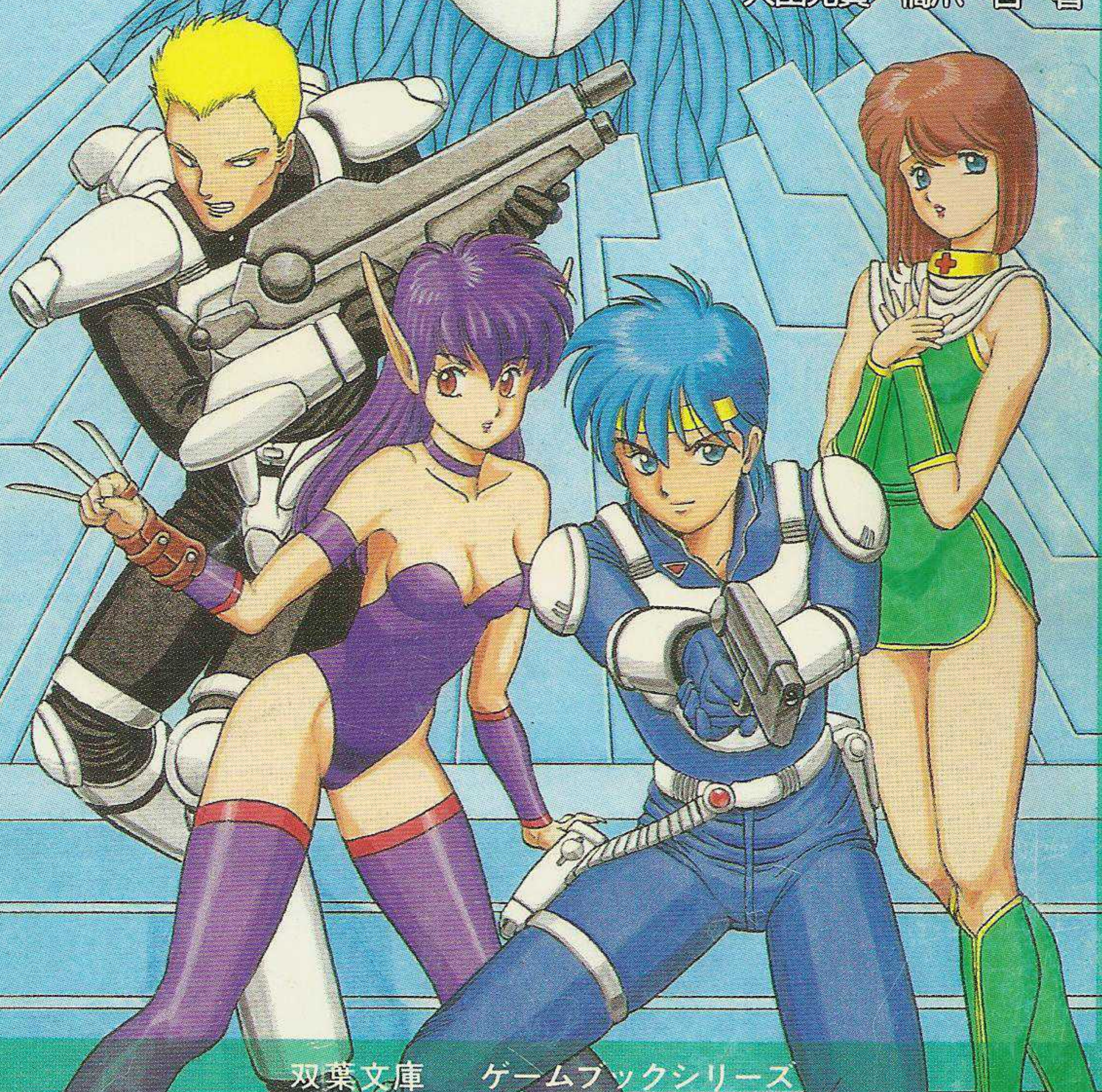


メガドライブ冒険ゲームブック

ファンタジースタ-Ⅱ

かえ
還らざる時
の終わりに

大出光貴 橋爪 啓 著



双葉文庫 ゲームブックシリーズ

ファンタシースター-Ⅱ

還らざる時の終わりに

大出光貴 橋爪 啓 著

双葉文庫
冒険ゲームブック

ファンタシースターII/還らざる時の終わりに

大出光貴・橋爪 啓 / S・ハード



双葉社



PHANTASY STAR II /The Last Battle

by Studio Hard Co., Ltd. and

Mitsutaka Ode Akira Hasizume

Copyright © 1989 Studio Hard Co., Ltd.

Illustrations by Hiroshi Yakumo Ken Tokunaga

Character and Licenser

© SEGA Enterprises

First Published by Futaba-sha Books Co., Ltd.

3-28 Higashi-Gokencho, Shinjuku, Tokyo, Japan

ファンタシースターII / ^{かえ}還らざる時の終わりに

CONTENTS

プロローグ.....	4
この本の遊び方...	10
パセオシティ.....	14
登場人物.....	16
ゲーム.....	20
エピローグ.....	282
行動記録紙.....	284
あとがき.....	286

プロローグ

闇と混沌の力によつてアルゴルを支配していたラシークを、アリサ、タイロン、ルツ、ミヤウの4人の戦いによつて倒してから、およそ千年の月日が流れた……。

その間アルゴルはさらに発展し続け、巨大なコンピュータ・マザーブレインがすべての星を管理し、平和で豊かな生活を築き上げるにいたつた。アルゴル太陽系2番目の星、モタビアも、マザーブレインの作った計画によつて、砂漠ばかりの星から緑いっぱい星になつた。バイオシステムによつて管理されたドームファームでは、あふれんばかりの作物が作られていた。

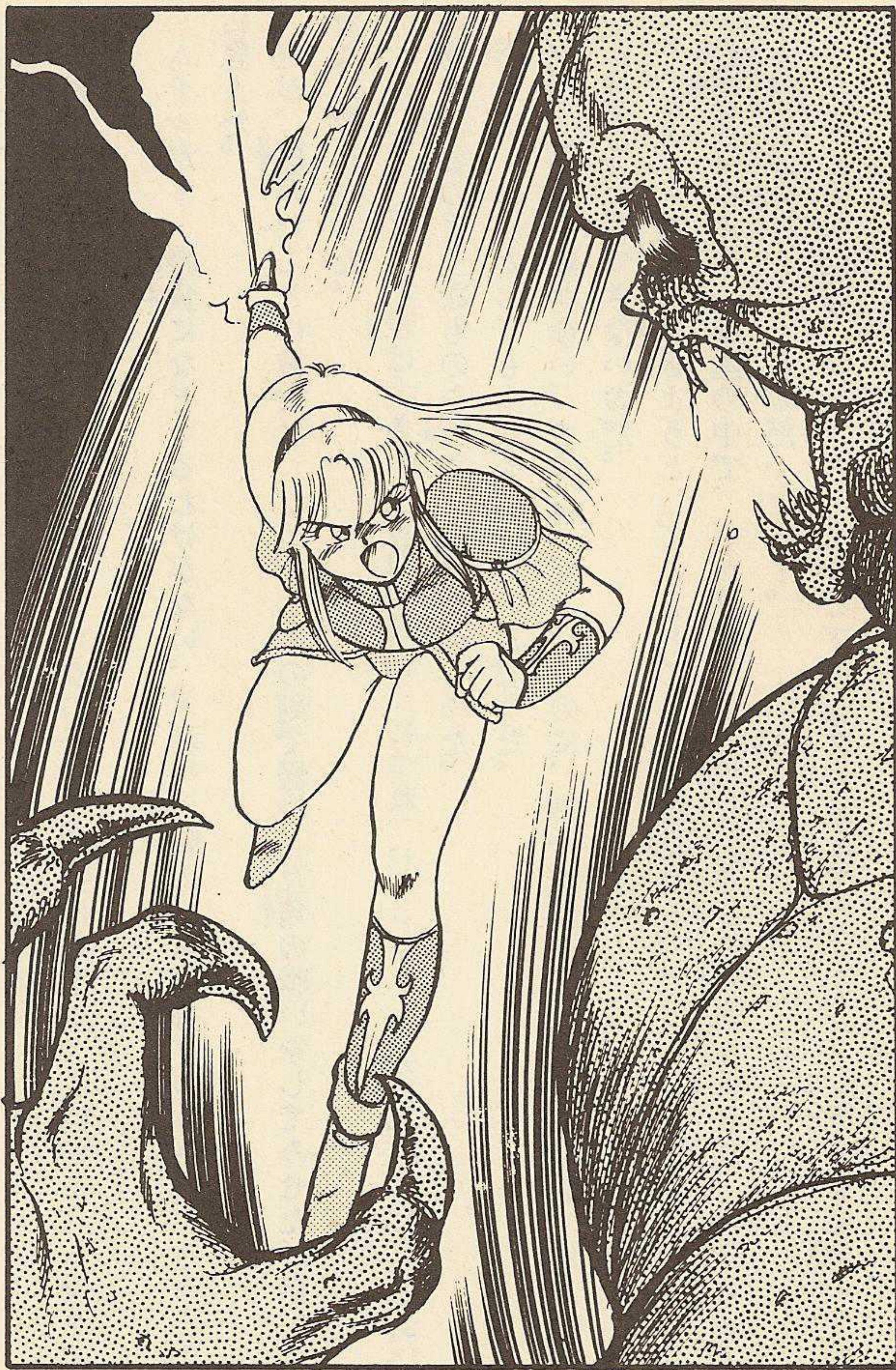
人々は平和な生活のなかで、戦いを忘れてしまつたかに見えた。アリサたち、アルゴルを救つた勇者たちの戦いの記憶までを……。

——だが、再びアルゴルに闇が押し寄せる！ アルゴルに隠された運命の謎を解きあかすのは、いつたい誰なのか？

そのころボクは、毎晩のように悪夢にうなされていた。

怪物が——それもこの世のものとは思えないような怪物が、暗闇の中からボォーと浮かび上がってくるのだ。機械と筋肉をからみ合わせたような不気味な姿だ。

プロローグ



そして、その悪魔あくまのような怪物と戦うのは、たったひとりの少女。

まだ15、16歳くららしいの、栗色くりいろの髪かみをした女の子だ。彼女は剣けんを持って怪物に立ち向かった。

ムチャだ！ 勝負しょうぶになどなるわけがない。少女は一瞬いつしゆんのうちに握りにぎつぶされてしまうかに思えた。

だが、驚おどろいたことに彼女は、たった1本の剣で怪物と互角ごかくの戦いをしてみせた。信じられない戦いだった。

しかし、パワーの差さは大きい。勝負が長引くにつれ、じりじりと少女は押されていった。怪物が稲妻いなずまのようなものを吐はき、少女を苦しめた。

ボクは、なんとしても少女を助けたいと思った。

だが、手足が動かない。すぐ近くだというのに、指一本動かすことができず、少女に声をかけることもできないのだ。

そして、少女が力尽ちからつきようとしていてるところで目が覚さめる。

夜明よあけのほの暗い部屋の中で、ボクは言いようのない悲しみにとらえられ、こみあげてくる涙なみだを必死ひつしにこらえるのだった……。

——ボクの名前は、ユーシス。モタビアの首都しゆとパセオで、エージェントとして働はたらいてい

プロローグ

ボクは首を振り、頭からいやな夢を追い払おうとした。

ナンセンスだ。マザーブレインという巨大なコンピュータが、世界を支配する現代において、夢などという曖昧なものに感傷的になるなんて……。世の中のあらゆるものは、すべてデジタルなデータに置き換えられるというのに。

ボクは窓を開け、朝の空気を吸いこんだ。すがすがしい空気が体の中を通り抜け、夢にとらわれていた自分が洗い流されていくような気がした。

「おはよう、ユーシス君。元気かね。私のもとで、キミが働いてもう2年近くになるかな」と、総督は改まったような口調で言った。

パセオの中心にある政府のセントラルタワー。いつものように出勤したボクは、いきなりモタビア総督の部屋に呼び出されたのだ。

「そうですね。ちょうど、バイオモンスターどもが現われたころだから、もう2年くらいになりますか」

「うむ。今日ここに来てもらったのは、ほかでもない。そのバイオモンスターに関係することなのだ」

バイオモンスターとは、バイオシステムが遺伝子を改造して作り出した悪性動物のことだ。何百という種類があつて、みんな凶暴な性質の持ち主。最初は、数もたかが知れてい

て、恐ろしいものではなかった。腕自慢の連中が、狩りの獲物にしていたほどだ。

ところが最近の様子が変わってきた。バイオモンスターの戦闘力が上がり、数もいつきに増えたのだ。いまや、モタビアのどこに行っても、バイオモンスターの姿を見ることが出来る。バイオモンスターの被害がひどい所では、街中の人が殺されたり、逃げだしたりしたため、ゴーストタウンのようになってしまったものもあるという。

「キミも知つてのとおり、このモタビアは不毛の地だった。それをこのような緑豊かな星に変えたのは、マザーブレインのたてた計画に基づき、灌漑の設備を整え、バイオシステムでモタビアの気候に合った生物を品種改良して作り出してきたからだ」

そんなことは、どの歴史の本にも載っている。モタビアのみならず、アルゴル全体がマザーブレインによって育てられてきたのだ。

「バイオモンスターの発生について、マザーブレインはなんと言っているんですか？」

「特になにも言っておらん。対策も現状のまままだそうだ」

「そんなバカな」

「私の総督としての仕事は、マザーブレインの計画が順調に進むようにすることだった。私はマザーブレインの行うことには、間違いはないと信じてきた。だが、バイオモンスターによる被害は、あまりにもひどすぎる。こうなればマザーブレインの手を借りず、我々だけの手でなんとかしなくてはならない」

プロローグ

「それが今回のボクの使命しめいというわけですか」

「そうだ。今からキミに頼たのむことは、これまでで最も大変な仕事になるだろう。バイオモンスターの発生源はっせいげんであるバイオシステムに行き、そこにあるシステム・レコーダーを回収かいしゅうしてきて欲しい」

「システム・レコーダーには、バイオシステムで何が起こったかが記録きろくされているわけですね」

「それを分析ぶんせきできれば、バイオモンスター発生の原因げんいんや対応策たいおうさくもわかるだろう。頼たのんだぞ、ユーシス君。このモタバアを救すくうことができるのは、キミしかない」

ボクは、総督と握手あくしゆをして部屋を出た。

やれやれ、大変な仕事をもらってしまった。

バイオモンスターなら、ボクも何匹かは退治たいじしたことがある。自分で言うのもなんだが、ボクは誰だれに教わったわけでもないのに、剣の達人たっじんなのだ。しかし、バイオシステムにいる怪物は、5匹や10匹ではあるまい。無事ぶじにボクは、もどってこられるだろうか？

この本の遊び方

1 ゲームの進め方

アルゴル太陽系は、突然現われたバイオモンスターによって、破滅の危機を迎えています。はたしてユーシスは事件の謎を解きあかし、謎の敵との戦いに決着をつけることができるでしょうか？

この本では読者の皆さんのために、いろいろな結末が用意されています。そのうち、ハッピーエンドにたどりつける確率はごくわずか。大半の人は、怪物にやられたりして、使命を果たせないまま終わってしまうでしょう。

ユーシスの運命を左右する分かれ道が文章の最後にあります。その方法は単純なルート選択だったり、アイテムの有無による振り分けだったりとさまざまです。そのつど指示に従って、自分の進むべき道を選択していってください。

2 行動記録紙の使い方

ゲームを進めていくうち、ユーシスのポイントや冒険の条件は次々と変化していきます。そのつど、行動記録紙に書き換えていってください。

■バトルポイント

この本の遊び方

はじめにバトルポイント（バトルP）を決めます。このポイントは、ゲーム中に遭遇するさまざまな敵との戦いに使います。また、うんだめ運試しに使用することもあります。

284ページにあるふたつのバトルP表のA～J欄らんにそれぞれ、0～9までの数字をいれます。続き数字でも、バラバラでもかまいません。ただし、ひとつの表の中で同じ数字を二度使わないでください。具体的ぐたいてきな使用方法については戦闘方法せんとうほうほうの欄で説明せつめいします。

■ ユーシスと仲間たちのポイント（各ポイントに上限じょうげんはありません）

● 戦闘ポイント（戦闘P）

ユーザーたちの、戦闘能力せんとうのうりよくを表わします。初期値しよきちは0です。武器ぶきを入手した時や敵を倒した時などにプラスされ、傷きずを負おった時にマイナスされます。

● ヒットポイント（HP）

ユーザーたちの体力を表わします。初期値は10です。体力増強剤ぞうきようざい（モノメイトやスターアトマイザーなど）を飲んだり病院に行くとプラスされ、敵にやられるとマイナスされます。0以下になっても死にません。

● テクニックポイント（TP）

ユーザーたちのテクニクちようのうりよく（超能力）の力を表わします。初期値は0です。敵を倒すとプラスされ（されない時もある）、テクニクを使うとマイナスされます。

※テクニックを使うのに必要なポイントと、実際に消費されるポイントは違います。本文の指示に従ってください。

●お金（メセタ）

アルゴル太陽系で使用されているお金の単位は、メセタといっています。スタート時の持ち金は100メセタです。敵を倒すと報酬として自動的に振りこまれ、支払いはカードを使っています。

■アイテムリスト

ユースは、旅の途中で武器やその他のアイテムを手に入れるでしょう。お金で買えるもの、交換して手に入れるもの、戦って手に入れるものなどいろいろです。入手したものは、みんなアイテムリストに記入してください。

■A～Fのアルファベット・チェック

ゲーム中、「Aをチェック」など、A～Fのアルファベットをチェックするという指示があります。そのときは、アルファベット・チェック欄のあてはまる記号に印をつけてください。このチェックには、重要なものが多いので、忘れずにやってください。

この本の遊び方

3 バトルの方法

まず敵の強さを出します。敵キャラクターのポイントに、バトルP（戦いのたびに指定してがあります）を足たした数値すうちがそれです。

次に、ユーシス（と仲間たち）の強さを出します。戦闘Pに、バトルPを足します。例をあげましょう。

バイテングアント3匹 2+バトルP（1のA）

この場合、バトルポイント表の1のAを見てください。仮に3とすると、2+3=5となり、5がバイテングアント3匹の強さです。

ユーシス 戦闘P+バトルP（2のF）

このときのユーシスの戦闘Pを見てください。それにバトルP表の2のFの数字を足します。仮かりに4+3=7とします。

5対7でユーシスの勝ち。「敵よりPが上」という項目こうもくに進みます。もし、同点の場合は、両者のバトルPをひとつずつずらしてください。AならB、FならGというようにです。もしJのときはAにしてください。

■何度も書いたり消したりしますので、記入は鉛筆えんぴつで行おこなってください。また、本ちよくせつに直接書きこむよりも、ノートなどを使ったほうが遊ぶのに便利べんりです。

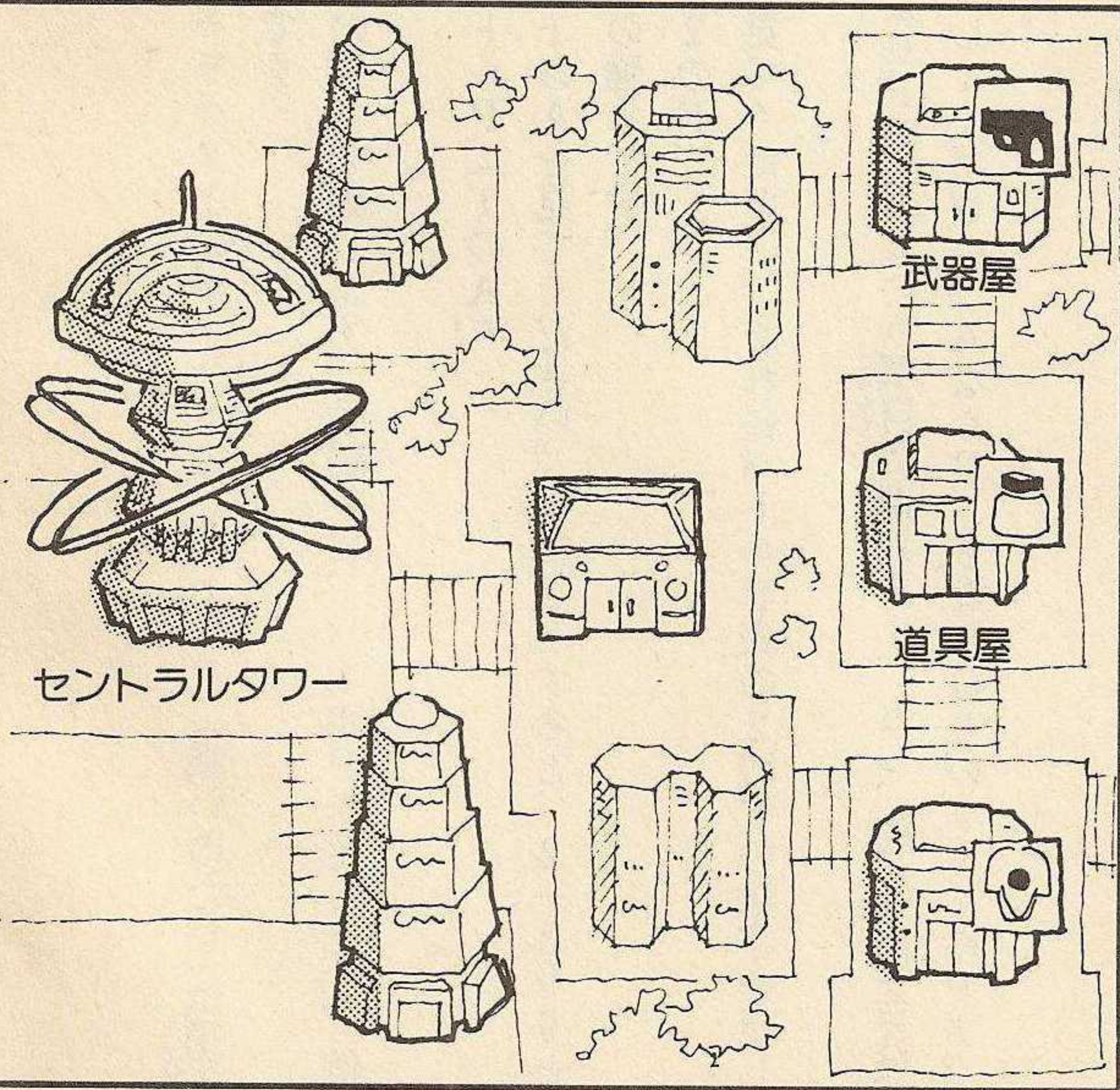
パセオシティ

セントラルタワー

パセオの中心にそびえ建つ高層ビル。モタビア星を統治する総督がいる。いわば、首相官邸のようなもの。総督室のほかにはライブラリイもあり、屋上にはなぜか宇宙船もあつたりする。ライブラリイ

セントラルタワーの中にある情報センター。モタビア星だけではなく、アルゴル太陽系のあらゆる情報を得ることが出来る。いろいろと手がかりを得ることが出来るが、もちろん最後の敵などは教えてくれない。

アルゴル太陽系第2惑星——モタビア最大の都市だ。ここで紹介する施設は、パセオだけではなく各都市にもある。



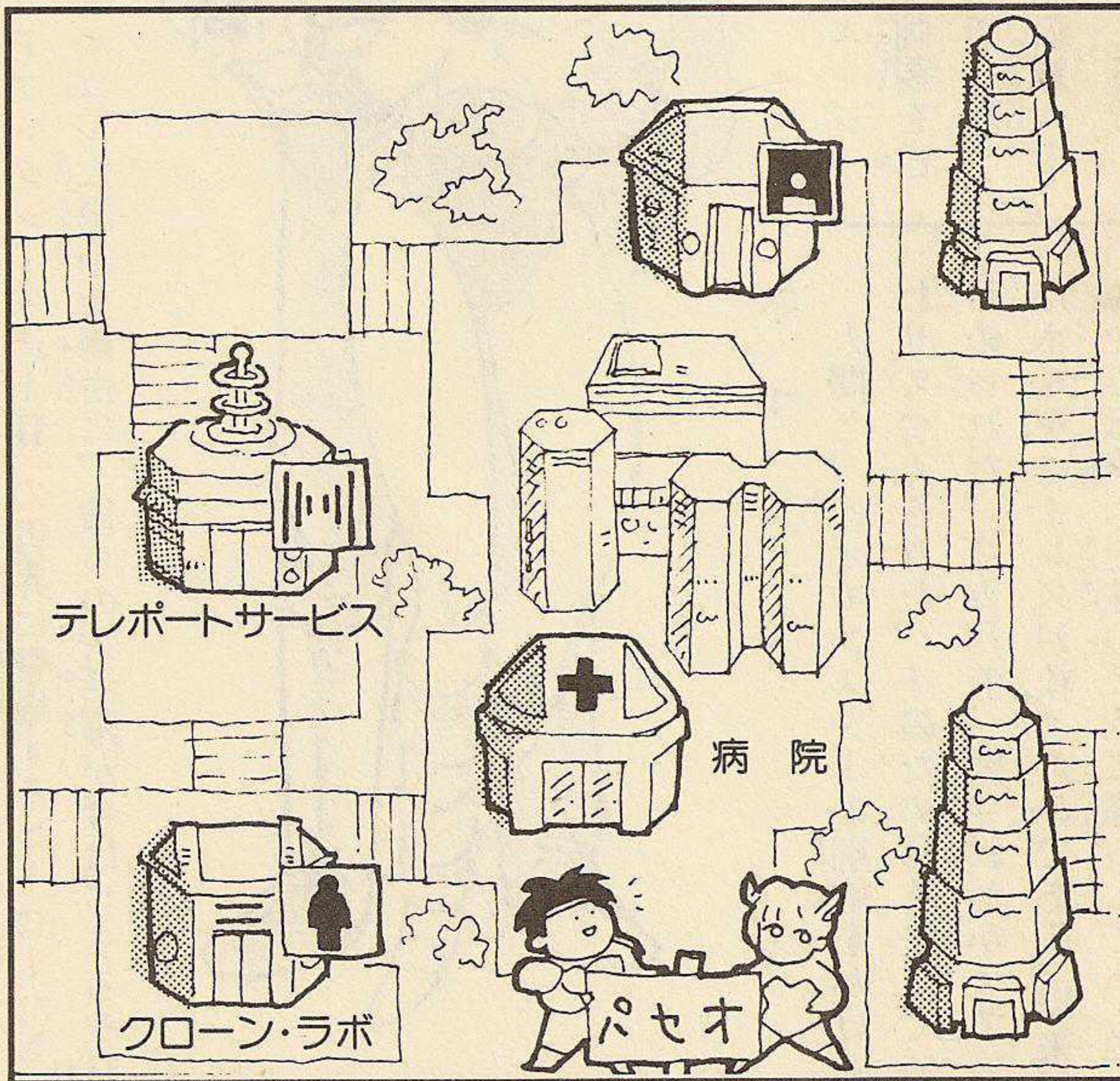
パセオシティ

テレポートサービス

物質転送装置によって、街と街の間をスピーディーに移動できる。なお、この装置は、行き先の光景を思い浮かべることによって作動するため、行ったことのない所へは行けない。このサービスが普及しているため、普通の乗り物は見当らない。

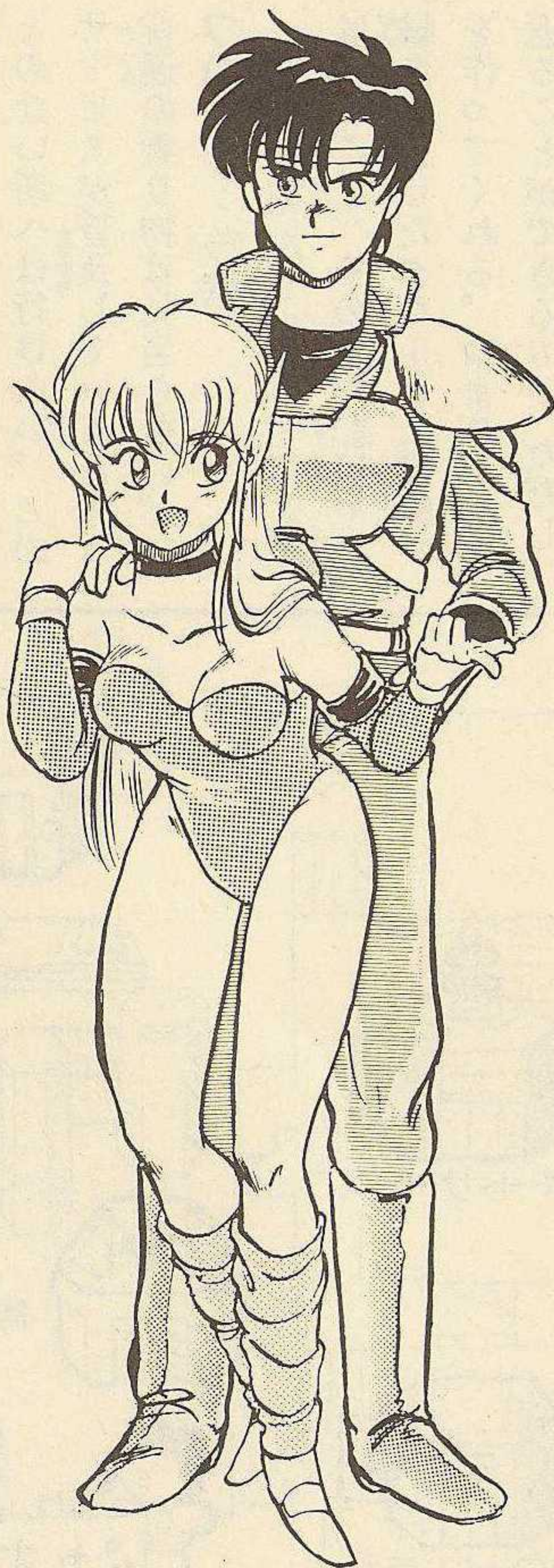
クローン・ラボ

仲間が死んでしまったときは、ここで、その人の記憶や経験を再生したクローン（複製）を作ってくれる。つまり、生き返ることができるのだ。ただし、生きた人間のクローンを作ることは法律で禁止されている。



登場人物

「フアンタシースターII」の世界に登場するヒーローたち。
アルゴル太陽系を舞台に、彼らの大活躍が今はじまるぞ!!



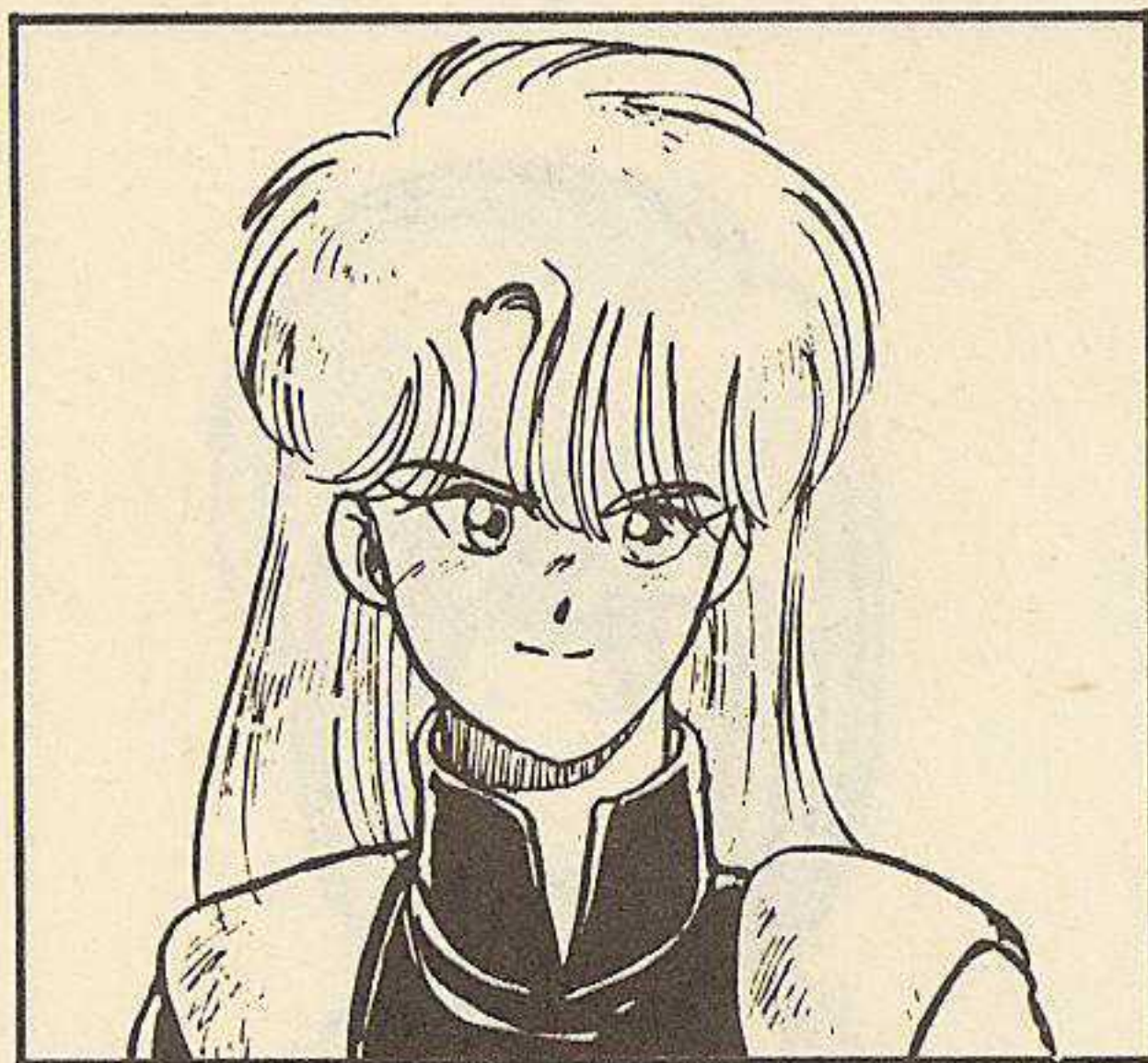
ユーシス

物語の主人公でモタビア政府のエージェント。10歳のとき、宇宙船事故で両親を亡くして、以来たったひとりで生きてきた。誰に教わったわけでもないのに剣の達人である。前世には謎が隠されている……？

ネイ

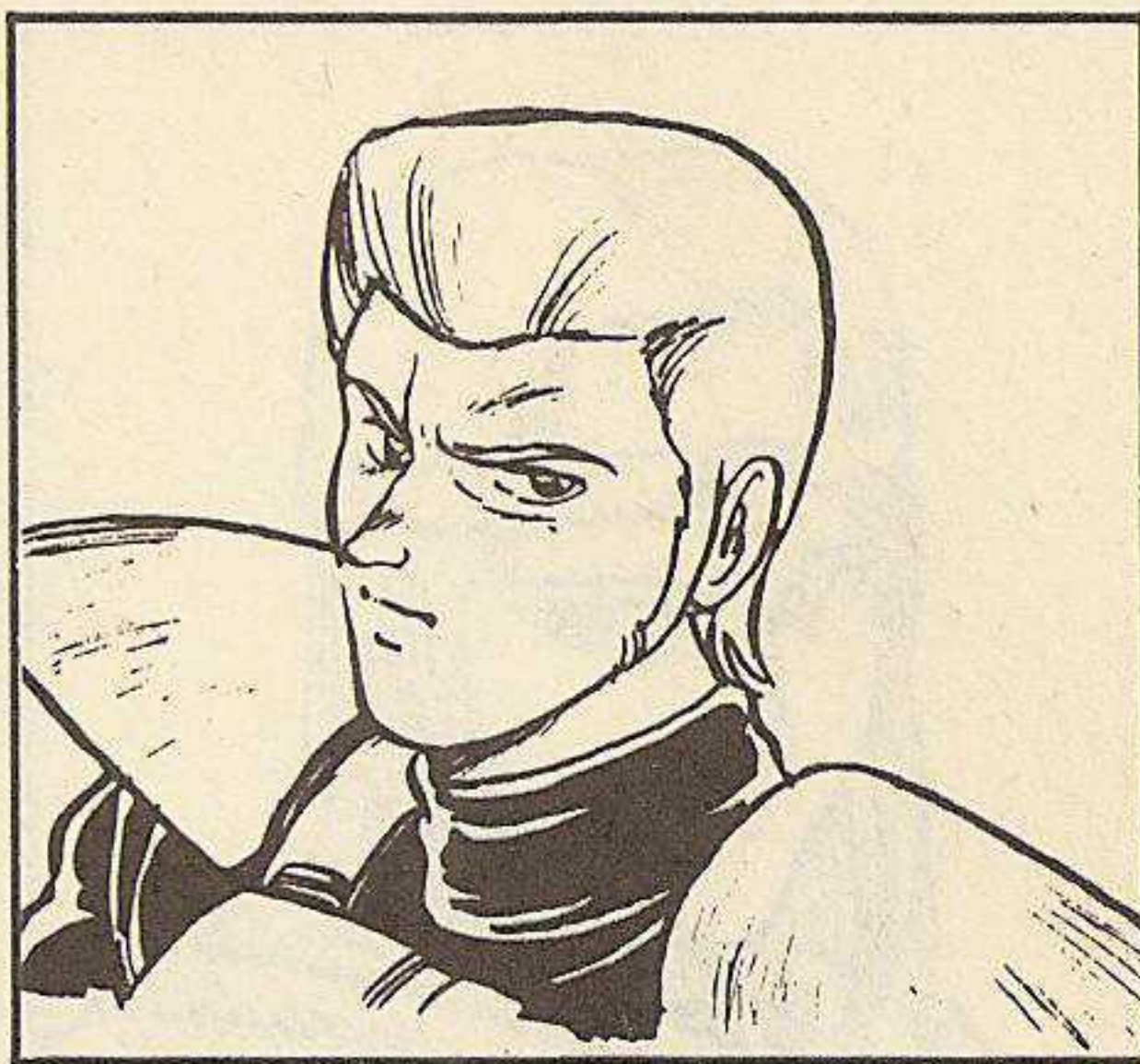
人間とバイオモンスターの細胞をかけあわせてつくられた。そのため行く先々でいじめられた。7カ月前、殺されかかっていたネイをユーシスが救ったのである。以来、ふたりは実の兄妹のように暮らしている。

登場人物



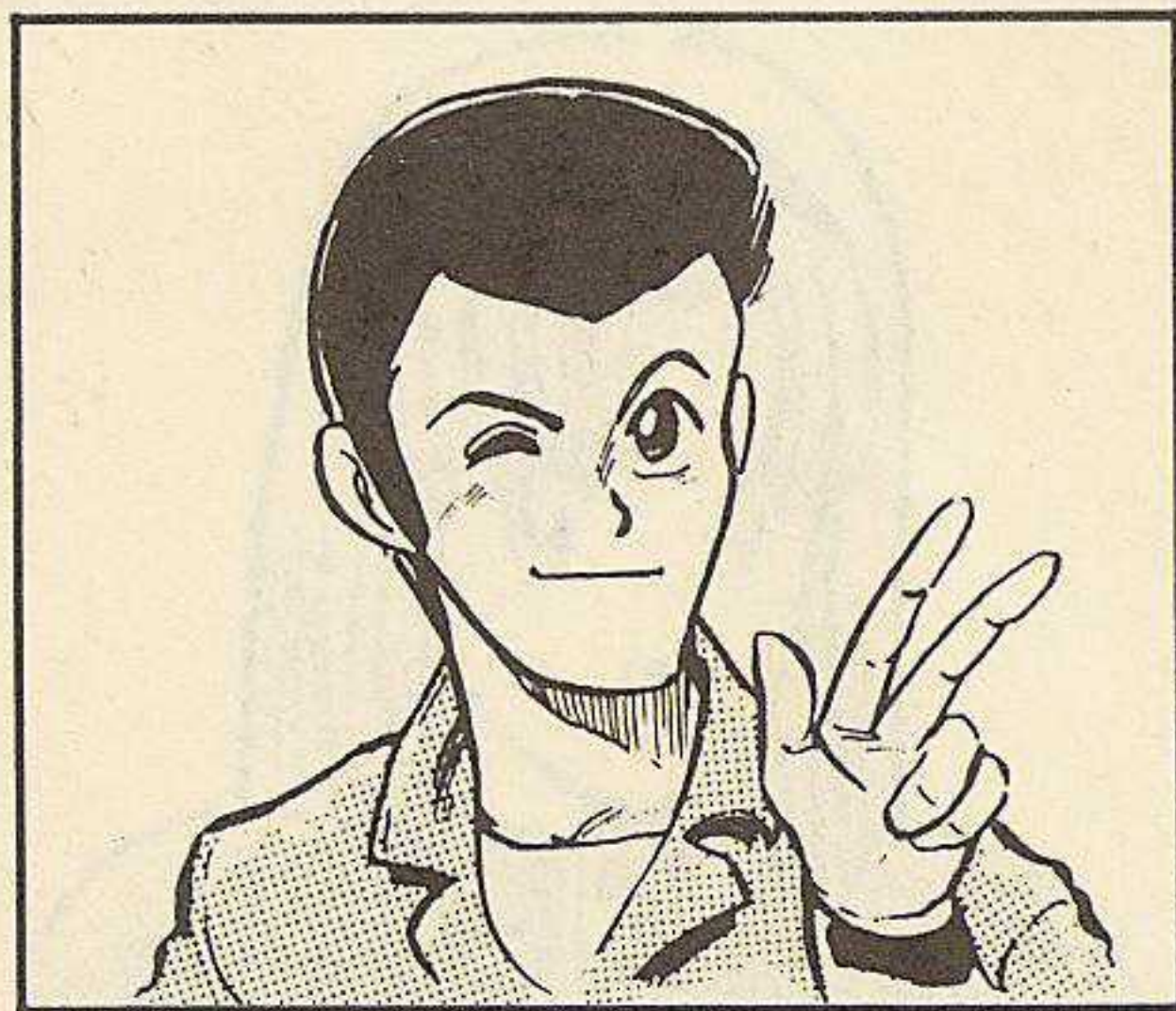
アーミア

悪いハンターを退治するカウンタ・ハンターだ。刃物を使わせたら彼女の右に出る者はいない。年齢不詳の美女。



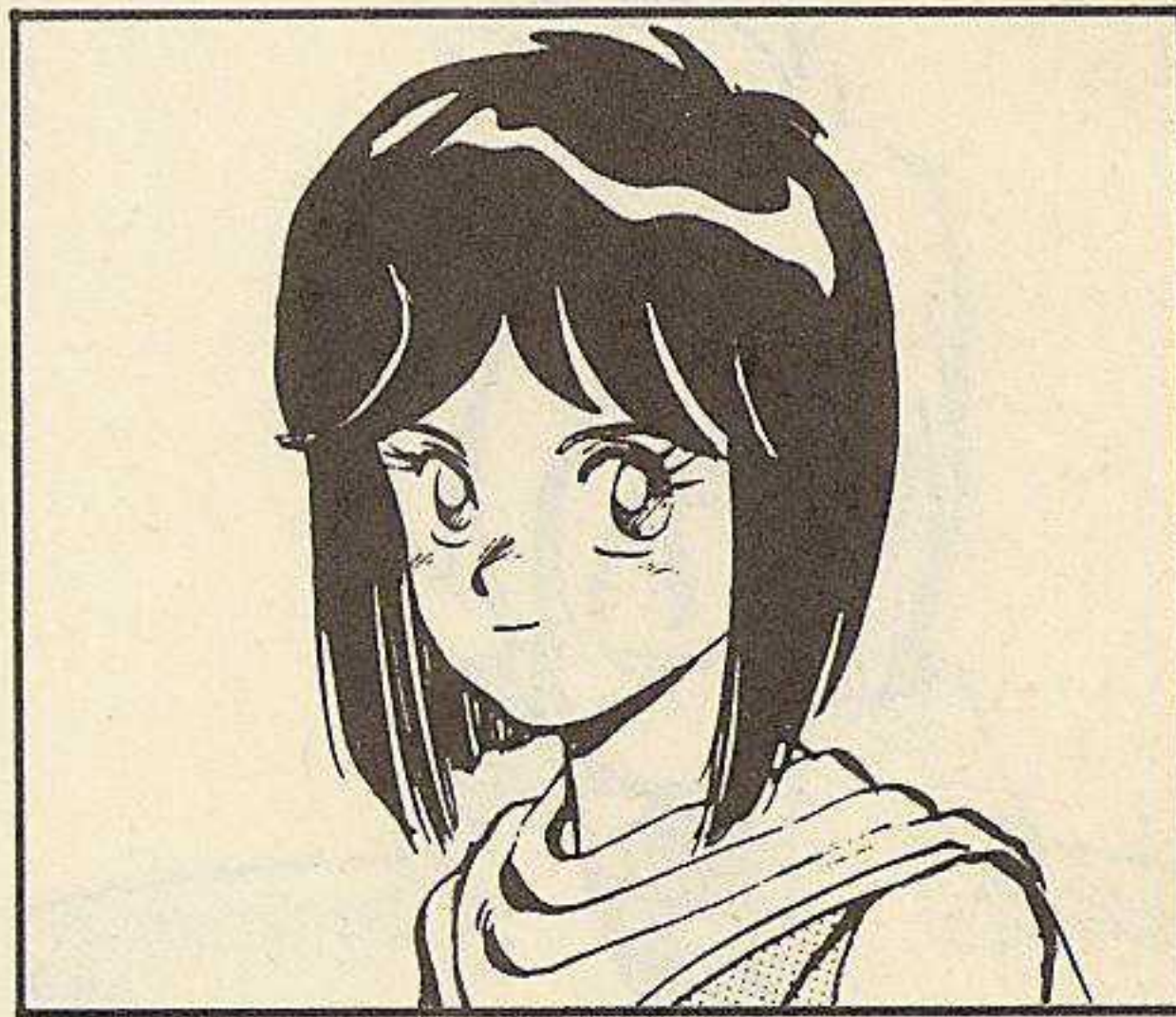
ルドガー

元軍人。バイオモンスターに妻子を殺されてから、ハンターとなった。あらゆる銃器類を使いこなすプロだ。



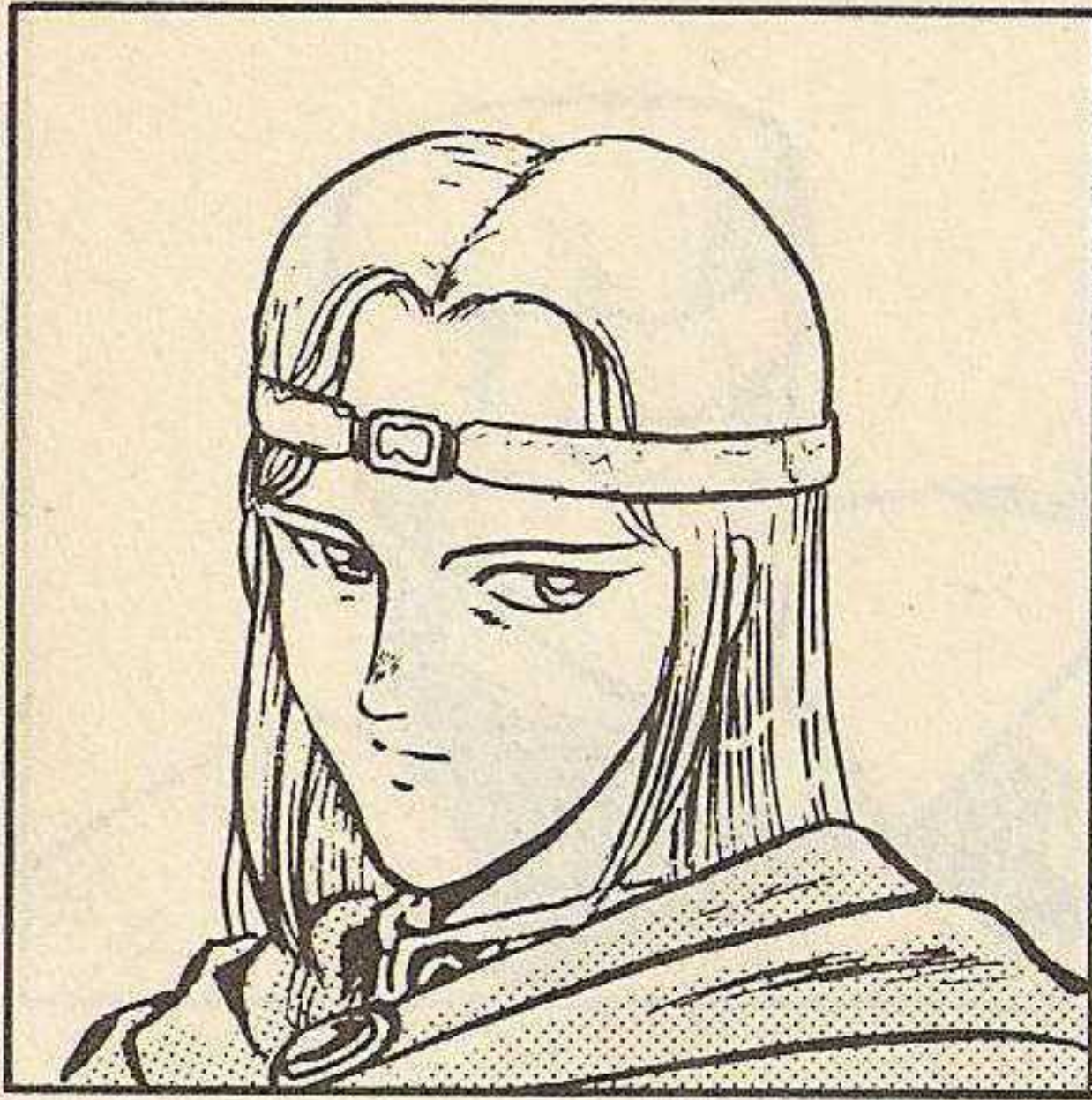
カインズ

メカ壊しの天才。エンジニア志望だけど、その力のためにジャンク屋(クズ屋)を。



アンヌ

学校を出たばかりの女医さん。心の優しい彼女は、傷の治療や解毒の専門家である。



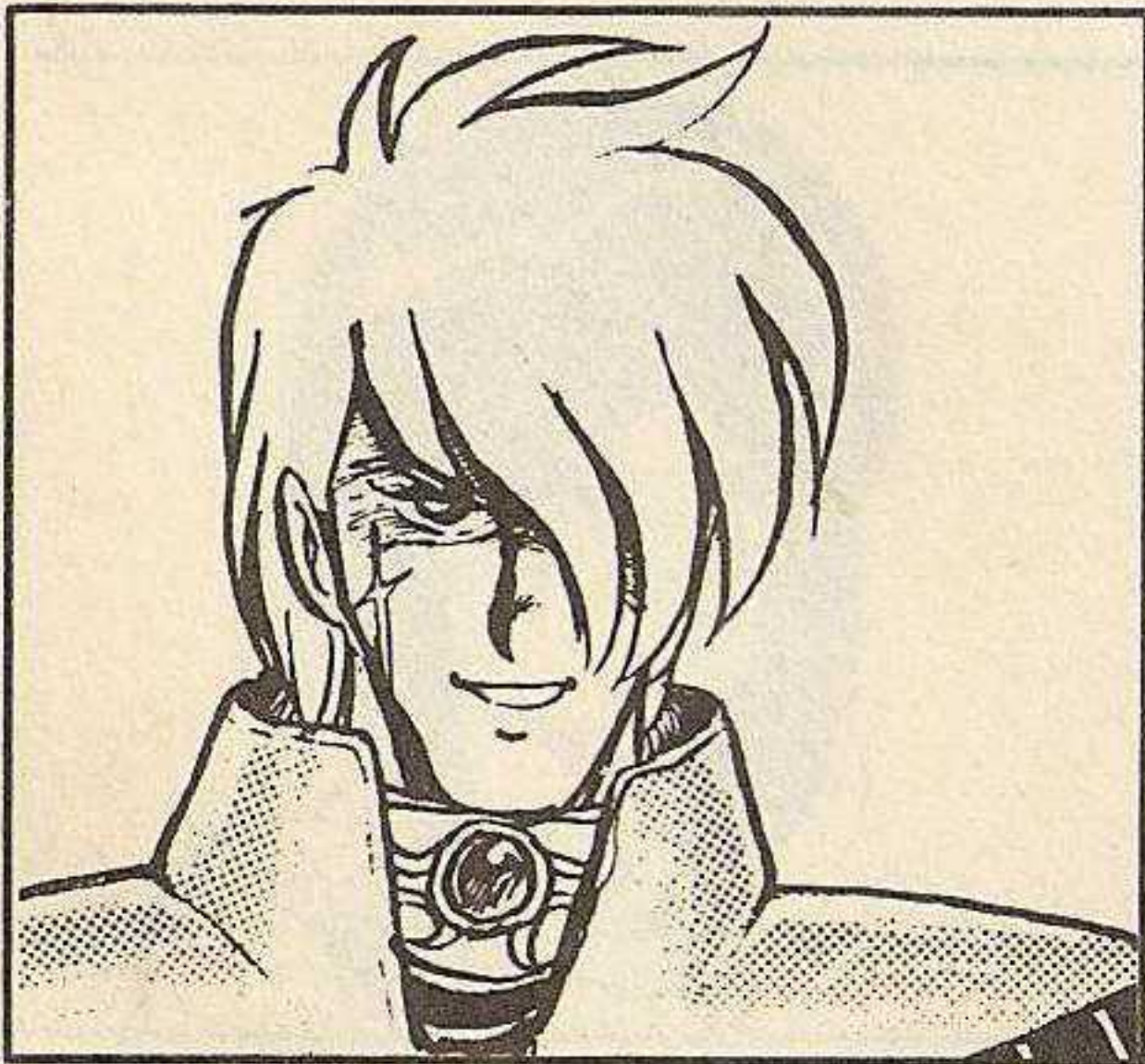
ルツ

アリサに協力してアルゴル
太陽系の平和を守った。あれ
から千年たった今、彼は…？



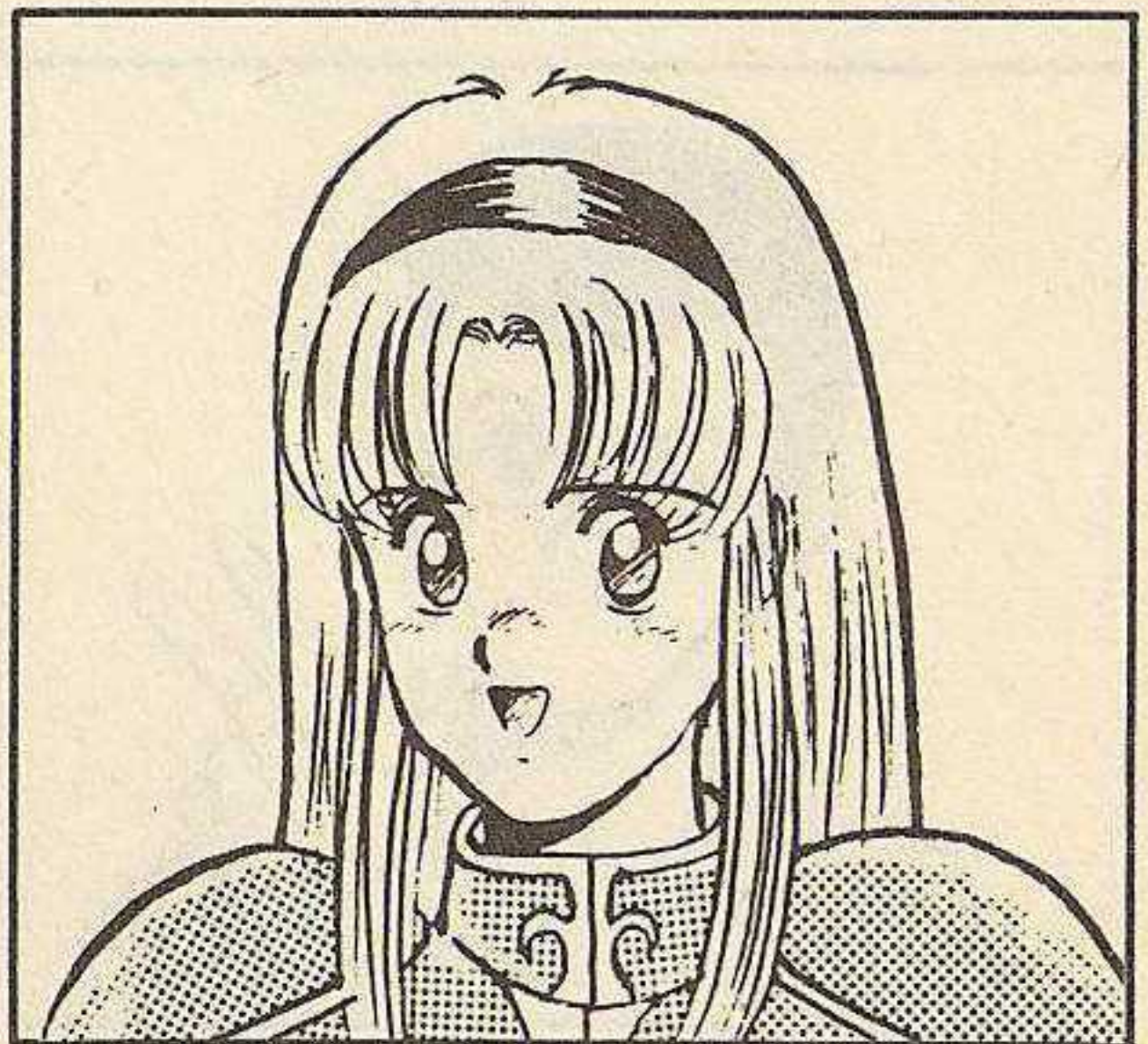
シルカ

「風のシルカ」の異名をもつ
女盗賊。勝手気ままな性格で、
時々姿を消したりする。



タイラー

宇宙海賊である。マザーブ
レインに支配されるのが嫌で
パルマ星を脱出した。



アリサ

千年前、15歳だった彼女は、
悪の怪物の手からアルゴル太
陽系を救った。そして、今？

ファンタシースターII

かえ
還らざる時の終わりに

さて、これからバイオシステムに向かつて出発だ。総督の言うとおりに、今やあらゆる街のまわりには、バイオモンスターがうようよしている。今回の旅もおそらく、危険なものになるだろう。

家にもどって旅の準備をしていると、奥の部屋からネコのような耳をした女の子が姿を見せた。妹のネイだ。なんだか心配そうな顔をしている。

「ネイ、しばらくの間お別れだ。ボクがいなくても、しつかりやっていくんだよ」

ネイは黙って、その大きな瞳でボクの顔を見つめていた。そういえば、初めてネイと会ったあの時も、こんなふうにはボクを見つめていたっけ。あれは、7カ月ほど前のことだったろうか……。

妹といつても、ボクとネイは血がつながっているわけじゃない。バイオモンスターと人間の細胞を掛け合わせる事によって生まれたネイは、人々からうとまれ、憎まれたあげく、殺されかかっていたのだった。

「ボクがネイを助けたときは、まだ小さかったけど、今はもうひとりでも大丈夫だろう？ それに、この旅はかなり危険なものになりそうだ。キミを危ない目にあわせたくないんだ。少しの間だったけど、キミみたいな妹がいて楽しかったよ」

そう言ってなだめても、ネイはドアの前に立ちだかかって、ボクを行かせまいとした。

「ユーシス、お願い！ ネイも連れてつて。ユーシスのためなら、なんでもするから！」
 ボクが袋ふくろを持ち、立ち上がった。でも、ネイはドアの前を動こうとしなかった。彼女の決意けついは堅かたそうだ。しかたがない。ボクは、ネイを連れていくことにした。
 バイオシステムに行く前に、まだいくつか準備が残っている。まずは、
 ●ライブラリに行く …… ↓ 3 2 へ ●武器店に行く …… ↓ 5 4 へ

2

十字路じゅうじろに来た。

●東に進む …… ↓ 1 0 0 へ ●西に進む …… ↓ 2 5 へ 21
 ●南に進む …… ↓ 7 8 へ ●北に進む …… ↓ 5 9 へ

3

モスキートを倒たおしてまもなく、ボクたちは橋はしの所にやってきた。ここを渡わたれば、バイオシステムの湖みづうみはもう目と鼻の先だ。

だが——その橋でボクらは、とんでもないヤツに会ってしまった。
 いかつい顔の大男。そいつが大きな刀かたなを持って、橋の真ん中に仁王立におうだしている。ここで
 通行人つうこうにんから金目かねめのものをいただこうと待ち伏せまちぶせしているんだらう。

さらに都合つごうの悪いことに、ヤツは7カ月前にネイを殺ころそうとしたヤツだ。これはちよつと厄介やっかいなことになりそうだ。ボクたちは、ヤツに見つかからないようにそつと引き返していった（Aをチエック）。

さつき話を聞いて気になつたアリマーヤに向かおう。

⇩98へ

4

「こうなりや、こいつを使うまでだ」

少々荒あらつぽいが、ボクはダイナマイトを使って、機械きかいの残骸ざんがいを吹ふつ飛ばした（ダイナマイトをマイナス1）。

「強引ごういんよ、ユーシス」

「いいからいいから。さあ、行つてみよう」

爆煙ぼくえんとホコリの中でボクたちは、通路つうろにぼつかりと開いた大穴おおあなを見つけた。

「ロープがある。反重力はんじゅうりよくを使った昇降しやうこうリフターじゃなくて、旧式きゆうしきのエレベーターの跡あとだな。昔、同じ物を見たことがある」と、ルドガー。

「ねえ、このロープを使って地下おに降りられるんじゃない」ネイが名案めいあんを口にした。

さつそくボクたちは実行じつこうに移うつした。ロープを伝つたって降りて行くと、ちようど十字路じゆうじろのど真ん中に着いた。

- 東に進む ↓76へ
- 西に進む ↓148へ
- 南に進む ↓48へ
- 北に進む ↓109へ

5

「ここはどこだ……?」

深い眠りからさめたボクの目に、レオタード姿のネイが飛びこんできた。

「良かった。思ったより早く再生したのね。ユーシス、あなたはクローン再生で甦ったのよ」

ネイはボクにしがみつくようにして言った。

そうか。ボクはフェイスリツカーの毒液を受けて死んだんだっけ。

話を聞くと、あの後ネイがフェイスリツカーを倒して、ボクとルドガーの体をひきずつ

て脱出。その足でパセオのクローン・ラボまでやってきたという。

正直言つてボクは驚いた。いくら普通の人間じゃないとはいえ、ネイにそれほどの力が

あろうとは……。

「ユーシス君も大丈夫そうだな」

一足先に再生したルドガーも、元気な顔を見せた。

このモタビア星では、クローン再生技術が発達していて、たとえ死んだ人間であろうと

一片の細胞が残っていれば復活できるのだ。もちろん、記憶もそのまま保存される。

4~5

(クローン再生の代金^{だいぎん}で、マイナス70メセタ。バトルポイント表をすべて書き換^かえることが可能^{かのう}です)

このままやられっぱなしというのはシヤクだ。ボクたちは、再びシュレーンの地下工場に潜^{せん}入^{にゅう}した。

⇩50へ

6

そう言^いつてティムは、父親^{ちやうじん}の写^{しゃ}真^{しん}をボクたちに見^みせた。

「これは！」

見^み覚^{おぼ}えのある顔^{かほ}だつた。あの橋^{はし}の上^{うへ}で野^や盗^{とう}を^していた男^{おとこ}が、ダラムだつたのか。

「それじゃ、すぐ^{あんな}に案内^{ない}しよう。ただし、ダラムを憎^{にく}む人は多^{おほ}いし、娘^{むすめ}のキミもひどい目^めにあ^あうかもしれない。人目^{ひとめ}につか^{つか}ないよう^{よう}に、これ^{これ}をかぶ^{かぶ}つてい^いくとい^いい」

ボクたちは、ティムの顔^{かほ}をベール^{べい}で隠^{かく}し、ダラムのいる橋^{はし}に向^{むか}つた。

⇩30へ

7

どこから漏^もれて^いるのか、ボクたちは水^{みづ}の音^ねを聞^ききながら進^{すす}んでい^いつた。やがて、L字^{しじ}形^{かたち}の曲^{まが}り角^{かく}に出^でた。

●東^{あづま}に進^{すす}む……………⇩116へ ●南^{みなみ}に進^{すす}む……………⇩36へ

8
 進んでいくと、十字路じゅうじろに出た。

●東に進む

.....
 ↓76へ

●西に進む

.....
 ↓148へ

●南に進む

.....
 ↓48へ

●北に進む

.....
 ↓109へ

9

「まだ行っていないけど。野盗やとうに荒あらされて何も無いんじゃないか?」

「そうかもしれないが、念ねんのため行ってみよう。あそこの武器店ぶきてんの親父おやじは古い知り合いでね」
 ルドガーに案内あんないされ、ボクたちはアリマーヤにもどった。

やはりめぼしい物はなかったが、店主てんしゆは残のこっていたガラスコートをタダでくれた。

「これだって、多少は身を守る役には立つさ」(戦闘Pプラス1)

その後ボクたちは、シュレーンの地下工場跡あとにたどり着ついた。かなり前に廃棄はいきされた工場で、中は相当そうとう広い。

隠れ家かくがにするには最適さいてきの場所だ。

地上の入り口はボロボロになっていたが、まだ昇降リフターは動くようだった。ボクたちは、それに乗って地下に降りた。

いろいろパイプが入り組んだ地下通路ちかづうろは、まるで迷宮めいきゆうのようになっていた。

●西に進む

.....

↓36へ

●南に進む

.....

↓273へ

●東に進む

.....

↓80へ

10

ルドガーはショットガンを発射した。2匹のポイズナーが吹っ飛ぶ。

「うっ！」突然の痛みに、ボクは足を押さえた。

ちぎれたポイズナーの首が、牙を突き立ててやがる。そいつを引きはがし、床に叩きつけた。くそ、目まいがしてきた。毒か……!! (戦闘Pマイナス1)

「ユースス！」ネイは、残っていたポイズナーをやっつけると、こちらに駆け寄ってきた。大丈夫。少しクラクラするだけだ」ボクは、心配げなネイにむりやり笑ってみせた。

この後、L字の曲がり角を、

●北に進む

.....

↓80へ

●西に進む

.....

↓273へ

11

ボクたちは、念のため武器店に寄ってみた。

「ひゃー！ い、命だけはお助けを」じいさんがカウンターの上で拝むような格好をした。

「慌てるな。ボクたちは、ならず者なんかじゃない。なにか、武器はないか？」

「ほとんど持っていていかれて、これくらいしかないだよ」そう言っただよいさんは、ぼうぎょよう防御用の
グラスコートを差し出した。

○グラスコート 40メセタ

（ねだん買う人は値段分を持ち金から引いて、きにゆうアイテムリストに記入。せんとう戦闘Pプラス！）
店を出たボクとネイは、シユレーンむに向かった。 ↓34へ

12

「パオーン！」

B地区たんさくを探索するボクらの前に、巨大なネオ・マンモスが現われた！

戦うか逃げるか、一瞬いつしゆんの判断はんだんミスが命取りになりかねない。どうする？

●ビルの中に逃げる …………… ↓266へ ●戦う …………… ↓241へ

13

パセオを出ると、見渡すかぎりの緑地りよくちが広がっていた。千年前、このモタバアが砂漠さばくだ
ったつてのは、まるでウソみたいな話だ。

このままのどかな旅たびが続くと思いきや、すぐに最初さいしよの敵てきが現われた。
緑の地平線ちへいせんの向こうから、蚊かが飛んできやがった。もちろん、タダの蚊なんかじゃない。

羽^{はね}を広げれば2メートルに達するという怪物^{かいぶつ}、モスキートだ！

モスキート 0+バトルP(1のE)

ユースたち 戦闘P+バトルP(2のB)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓29へ ●下 …………… ↓56へ

14

ボクたちは、病院に寄^よった。

治療^{ちりょう}コースはふたつある。

○20メセタを払^{はら}って、HPプラス2 ○40メセタを払^{はら}って、HPプラス4

このどちらかが可能^{かのう}。

「ちようど近^{ちか}くだし、家でちよつと休^{やす}んでいかないか」ボクとネイは、自宅^{じたく}にルドガーを案内^{あんない}した。

↓74へ

15

スピニンスファイアの体が膨^{ふく}れ上がり、電光^{でんこう}のようなものがほとばしった。

ボクは身を投げ出し、それをかわした。

待^{まち}ちかまえていたように、グラスキラがカマを振り降^ふろしてくる。



15●ニドの塔^{とう}に向かう途中^{むとちゆう}、グラスキラー^{おそ}に襲^{おそ}われた。カマキリを大きくしたようなひとつ目のバイオモンスターだ！

「うわっ」

ガシッ！ 間一髪、ネイのスチールクロウがそのカマを受け止めた。だが、彼女の細腕では受け止めるだけで精一杯だ。力比べの体勢になったネイは、じりじりとグラスキラに押されていった。

今度はこつちが助ける番だ。グラスキラの後ろにまわりこみ、ボクはカマの付け根を斬りつけた。怪物の前肢が、ボトリと落ちる。

いまだ！ ボクとネイは、前後からグラスキラを刺し貫いた！ カマキリの怪物は口から白い泡を吹き出し、地面に転がった。

銃声に振り向くと、ちようどルドガーがスピンスフィアを撃ち落としたところだった。球体生物はドロリとした液体を流し、小さくしぼんでいった（戦闘P、TPともに1プラス。プラス20メセタ）。

ジャマ者を片づけたボクたちは、ニドの塔に到着した。この塔は地下工場同様、廃棄されて何年にもなる。人の出入りもなく、何かを隠すには絶好の場所だ。荒れ果てた1階と2階を探してみたが、ネコの子1匹見当たらない。

「この昇降リフターはまだ動くわ」
乗ってみると、リフターは自動的に5階に止まった。通路がL字に曲がっているが……。

●東に進む

……………

⇩ 82 ⇨

●南に進む

……………

⇩ 2 ⇨

モタビアンが言っていたロロンに来てみた。

ゴミ捨て場は、海辺に建てられた半地下式の建物だった。中は生ゴミや壊れた電気製品でいっぱいだ。

「ねえ、ユース、なんでこんな所に来たの？」鼻の敏感なネイが、イヤな顔をして言った。

「なんとなく気になっただけ……お！ こんな所にも怪物がいるぞ！」

つぶれたテレビの山の間から、巨大なナメクジどもが現われた。シュライムゼレか。

シュライムゼレ 10 + バトルP (1のC)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 133へ ●下 …………… ↓ 158へ

昇降リフターのしやうこうのあるL字路の所に来た。

「このリフターは、前に使ったのと違うな」と、ルドガーが言った。

●リフターに乗りこむ …………… ↓ 38へ ●西に進む …………… ↓ 78へ

●北に進む …………… ↓ 100へ

どうもガスというのが気になる。

不吉な予感を覚えたボクたちは、早々に外に出た。外は雪がちらつきはじめていた。

「ブルブル、寒いなあ。早いところ、あつちのビルに入ろうぜ」

カインズに言われるまでもない。一行は駆け出すように、もう片方のノツポビルの中に入った。暖房が効いているわけじゃないが、雪をしのげるだけマシというものだ。

「ここも人がいないようだな」確認するようにルドガーが言う。

↓280へ

通路の暗がりには、男が倒れているのが見えた（Bをチェック）。

「死んでいる。この傷は……バイオモンスターにやられたのか」

その死体を調べてみると、ポケットから手紙が出てきた。その内容は――、

『ダラムさんよ、あんたのお嬢さんのタイムちゃんは、本当に良い子だねえ。ニドの塔で大切に預からせてもらってますよ。娘を殺されなくなったら、1カ月以内に5万メセタを持ってくるんだ！ いいな！』

「脅迫状か。ということは、この男はタイムをさらったならず者の一味だな。この脅迫状をダラムに届けようとして、ここでバイオモンスターに襲われたんだ」

●ニドの塔に行く……………↓70へ ●まだ地下工場をまわる……………↓80へ

20

フェイスリッカーは、背中のイボイボをこっちに向けた。そこから、赤い液体を飛ばしてくる。

ボクは、体をそらして液をかわした。なんてグロイ攻撃なんだ。

「気をつけて、あれは毒液よ！」

ならば近づくのは不利だ。ルドガーもとつきにそう判断したらしく、離れた所からショットガンを撃った。

散弾がフェイスリッカーどものどてつ腹に炸裂した！ 動けなくなった怪物ガエルどもにとどめを刺すのは簡単だった。

●東に進む……………↓93へ ●西に進む……………↓50へ

●南に進む……………↓61へ ●北に進む……………↓116へ

21

フェンサーは、膨れ上がった腹をくねらせると、尻から針を放ってきた。かわしたと思ったとたん、わき腹に鋭い痛みが走った！ ちくしよう、もう1匹のヤツ

が時間差攻撃をしかけてきやがった（HPマイナス1）。

「ユース！」ネイはそう叫ぶと、跳び上がりざま、フェンサーの背中をスチールクロールで斬り裂いた。一瞬のうちに2匹の羽がちぎれ飛ぶ。

たまらず怪物は地面に転がった。羽のないハチなんか怖くはない。ボクは地面に転がっているフェンサーどもにとどめを刺した（戦闘Pプラス1、プラス10メセタ）。

「サンキュー、助かったよ」

↓67へ

22

C地区——高層ビルもなければ、心なごむ自然もない。ただときおり風が吹き抜けていくだけの、さびしいところだ。

「おーい、このリフター、まだ動くぜ！」

カインズが、街はずれにある小さな建物の中で、地下へ降りるリフターを見つけた。

「よし、乗ってみよう」

リフターはガタンツと揺れてから、急降下でボクらを地下へと運んだ。

ガーツとドアが開くと、そこには巨大な地下街が……。

「何かあるかもしれないな。調べてみよう」

●東に進む

……………↓247へ

●北に進む

……………↓220へ

23

バイテングアントは、口から臭いにおのきつい液体えきたいを飛ばしてきた。ボクはそれをかわし、剣けんをふるった。

だが、剣は弾はじかれた！ くそ、なんて硬かたい体だ。

「ユース、ヤツらの関節かんせつを狙ねらうのよ！」

言うがはやいか、ネイは戦たたかっていたアントの首を斬きり落とした。なるほど、そこなら剣も効きくか。弱点じやくてんがわかればこつちのものだ。残のこった2匹の首は、ボクがはね飛ばした(T

Pプラス1、プラス10メセタ)。

「お見事みごと」再び、さっきの男の声こゑがした。

↓ 89 へ 35

24

先制攻撃せんせいこうげきとばかりに、ルドガーがショットガンを発射はつしゃした。

だが、キャリアは平気へいきで突つつこんでくる。皮膚ひふが硬かたいのか!?

「なら、そこは！」アンの投げたメスは、キャリアの目に突き刺ささった。さすがの怪物かいぶつもこれにはたまらず、体をのけぞらした。

今だ！ ボクはむきだしになったヤツの腹はらを狙ねらった。そこだけは柔やわらかく、剣けんはずぶりと突き刺さる。キャリアはうめき声をあげると、ひっくり返り動うごかなくなった。

●北に進む……………↓8へ ●西に進む……………↓88へ

25

進んでいくと、L字の曲がり角に出た。

●南に進む……………↓41へ ●東に進む……………↓2へ

26

マンカバーとバスカバーは、同時に触手を放ってきた！

すさまじい触手の威力が、ボクたちを地面に叩きつけた。だめだ！ 今までの戦いのダメージで、体がいうことをきかない。

く、くそお！ ここまで来て、こんなヤツらにやられるなんて……。

END

27

ヒルドは、カツと口を開けると、何かを吐き出した。火の玉だ！

いきなりそれを喰らい、ボクたちは吹っ飛ばされた（HPマイナス1）。

「ちっ！」ルドガーが、すかさず立ち上がった。だが、ヒルドの姿は消えている。

「もう逃げたのか。当て逃げみたいなヤツだ」

ボクたちは、さらに通路の奥へと進んでいった。

↓65へ

28

T字路に出た。だが、南側の通路は機械の残骸があつて、通ることができない。どうするか？

●西に進む

..... ↓84へ

●北に進む

..... ↓134へ

●南に進む(ダイナマイトを持っている人のみ可能)

..... ↓4へ

29

甲高いモスキートの羽音は、こちらの耳をくすぐるようだった。ヤツは、アツという間にボクたちの真上に達すると、細長い吸血管を伸ばしてきた。

そうはいくか！ ボクはその管をかわし、モスキートの胴体を斬りつけた。ヤツのトゲだらけの脚が何本か吹っ飛んでいった。

すかさず、ネイのスチールクロウが、モスキートの頭を引き裂いた。彼女はさらに原型をとどめないほどに、怪物の体をブーツで踏みじった。

「なにもそこまでやらんでも」

「ダメよ、このモスキーとってヤツは傷の再生能力があるんだから、徹底的にやらなきや、あとで逆襲されるわよ」

「はあ……」美少女がそう言いながら戦うのは壮絶なものがある。ボクは、思わず見とれてしまった（戦闘Pプラス1、TPプラス1、プラス10メセタ）。

↓3へ

30

ボクたちはティムを連れ、橋の所にやって来た。

こつそりと様子をうかがっていると、橋の向こうから刀を持った男が現われた。

「お父さんだわ……。あたしひとりで会ってきます。あなたたちは、ここで待っていてください」ティムはそう言うと、すたすたと歩きだした。

何か考えがあるんだろうか？　ボクたちは、息をひそめて様子をうかがった。

「おい、その女」

刀を持った男——ドラムがティムの前に立ちふさがった。ティムがフードをかぶっているため、自分の娘とは気づいていないようだ。

「なんででしょうか？」ティムは、フードを取らないまま答えた。

「あり金をみんなここに置いていけ。逆らえば斬るぞ」

「あなたなんかに出す物は、なにもないわ！」



30●ダラムは刀を振り降ろした。血に染まり、倒れるティム。自分の娘を斬り殺してしまったことを知ったダラムは絶叫した。

「なにい！ なめた口をききやがつて！」

ドラムが刀を振り降ろした。血に染まり、倒れるティム！

「あつ!!」ドラムが大声をあげた。彼女が倒れた瞬間、フードがはらりと落ち、ティムの顔があらわになったのだ。

「ティム!!」

「お父さ……ん。もう人殺しは……やめて……」ティムは死んだ。

「ぐわあああ、な、なんてことを！ 待っているよ、今、父さんも」言うが早いかドラムは爆弾を取り出し、橋のど真ん中で破裂させた。

アツという間の出来事だった。なんてことだ……。しかし、この悲劇ももとはと言えは世の中がすすんでいいるから起きたんだ。なんとか、早くバイオハザード（生物による災害）の原因を突き止めなくては……。 ↓ 52へ

31

途中、壁の右側に扉が……。この部屋に入るか、それともこのまま進むか？

●南へ進む …………… ↓ 238へ ●北へ進む …………… ↓ 249へ

●部屋に入る …………… ↓ 208へ

ボクたちは、街の中心にあるライブラリーに立ち寄った。ライブラリーには、アルゴル太陽系に関するあらゆる情報が集められている。ここでバイオシステムのくわしい位置や最新情報を知っておいたほうが、なにかと便利というものだ。

「なるほど、バイオシステムはこの湖の西か……」

ボクが地図で確認していると、電子新聞を見ていたネイが大きな声をあげた。

「ユース、大変よ！ アリマーヤが」

ボクもその新聞を見て驚いた。このパセオからいちばん近い街のアリマーヤが、ならず者の一団の襲撃をうけ、大変な騒ぎになっているという。話には聞いていたが、これほどとは……。

「どうするの、ユース？」

●バイオシステムに向かう …… ↓ 13 へ ●アリマーヤに向かう …… ↓ 98 へ

●武器店に向かう …… ↓ 77 へ

ルドガーも赤い毒液にやられて、床に転がった。ちくしよう。毒がまわってきたのか、足がふらついてきた。感覚もマヒしてきて、フェ

イスリツカーのゲコゲコというやかましい声だけが耳に響いた。

怪物ガエルが再び毒液を飛ばしてきた。ネイの盾になるように、それを受け止め、ボクは倒れた。

「ユーシス！」

「いいから、早く逃げろ！ おまえだけでも助かるんだ！」

ボクは、かすむ目でネイの後ろ姿を見続けた。

END

34

シュレインはアリマーヤの東、2キロほどの所にある。それほど距離ではないが、半分も行かないうちにバイオモンスターと遭遇してしまった。

地中から2メートル以上のアリが3匹も現われ、ボクたちの前に立ちふさがったのだ。

「気をつけな、そいつらはバイテングアントっていうヤツだ」

いきなり、後ろから男の声がした。だれだ!?

前方からはバイテングアントどもが、牙をカチカチ鳴らしながら迫って来る！

●バイテングアントを攻撃する ↓79へ ●声のしたほうを見る …………… ↓58へ

「ねえねえ、ユーシス。酸素ガムの研究だつて」ネイがボクの袖を引っぱった。

みんなで手分けしてライブラリー内の情報をあさっていると、さっそくネイがおもしろいものを見つけたようだ。

「なになに、これを噛んでいれば、水の中でも装備なしで潜れるだつて。あ、そうか、これを使えばアメダスの中にも入れるんだ。よくやったぞ、ネイ」

さいわい、この変な研究をしているクニヌ博士は、クエリスの人だ。ボクたちは住所を調べると、すぐに彼のもとを訪ねた。

「もともと、この辺の人たちは、酸素ガムを使って海で漁をしてたんですよ。ところが、50年ほど前にマザーブレインがすべての海を立入禁止にしてしまった。それで、この技術もすたれてしまったわけですよ」

クニヌ博士は予想していたよりずっと若い人だった。彼は親切に答えてくれた。

「それじゃ今はまだ完成していませんか？」

「うーん、この沖のほうにウーゾ島というのがあった。そこの山のとつぺんに生えているマルエラリーブさえあれば、なんとかなるんだけどねえ。でも、今じゃ誰も舟を持っていないし、行けたとしてもバイオモンスターに襲われちゃイチコロだろうし……」

「大丈夫！ ボクたちがなんとかしますよ」

「えっ、本当かい。でも、ムリしなくていいんだよ。危険だし」なんてことを言いながら、彼は本に載っているマルエラリーブの写真を見せてくれた。

これはもう行くしかないね。今、ボクたちが持っているのは？

●ボート……………↓128へ ●ジェットスクーター……………↓154へ

●どちらともない……………↓286へ

36

L字の曲がり角に出た。

●北に進む……………↓7へ ●東に進む……………↓50へ

37

スピンスファイアの体が膨れ上がり、電光のようなものがほとばしった。

うわっ！ まともに浴びたボクとルドガーは、武器を取り落とした。体がしびれる。

無防備のボクに、グラスキラが襲いかかった。必死になってかわすが、体が思うよう

に反応しない。カマがボクの脇腹をかすめていった（HPマイナス1）。

カマキリの怪物は、さらにボクの首を狙った。

「うわっ」

ガシッ！ 間一髪、ネイのスチールクロウがそのカマを受け止めた。だが、彼女の細腕では受け止めるだけで精一杯だ。力比べの体勢になったネイは、じりじりとグラスキラーに押されていった。

今度は、こつちが助ける番だ。ボクは剣を拾うと、グラスキラーのカマの付け根に斬りつけた。怪物の前肢が、ボトリと落ちる。

いまだ！ ボクとネイは、前後からグラスキラーを刺し貫いた！ 怪物は口から白い泡を吹き出し、地面に転がった。

「ルドガーは？」ボクは、振り返った。

ルドガーは落ちていた銃に飛びつくと、起き上がりざまにそれを発射した。銃弾をくらったスピンスフィアは、空中で破裂した！ (戦闘Pプラス1、プラス20メセタ)

ジャマ者を片づけたボクたちは、ニドの塔に到着した。この塔は地下工場同様、廃棄されて何年にもなる。人の出入りもなく、何かを隠すには絶好の場所だ。

荒れ果てた1階と2階を探してみたが、ネコの子1匹見当たらない。

「この昇降リフターはまだ動くわ」

乗ってみると、リフターは自動的に5階に止まった。通路がL字に曲がっているが……。

●東に進む

……………

⇩ 82 へ

●南に進む

……………

⇩ 2 へ

ズウウウーン。ボクたちが乗りこんだリフターは、自動的にふたつ上の階で停止した。「この階は1本道か……。あれ、すぐ行き止まりだ」ボクたちの行く手を灰色のドアがふさいでいた。しつかりロックされていて、押せども引けどもびくともしない。

●ダイナマイトがある …………… ↓57へ ●ない …………… ↓87へ

カギを使ってコンテナを開けた。中に入っていたのは、ダイナマイトだった（工場のダイナマイト入手。ただし、この項目に来るのが2回目の方は関係ありません）。

●東に進む …………… ↓61へ ●北に進む …………… ↓50へ

先手必勝！ 怪物がカプセルから出たところを狙って、ボクは斬りつけた。ズバツ。ミキサメーベは、真つ二つになった。

「やったか!? ——うわっ！」

ふたつになった怪物は、それぞれもとの形に復元した。ヤツはボクに斬られたんじゃない

い、ただ分裂ぶんれつしただけなんだ！

2匹になったミキサメーベは、いつきに飛びかかってきた！

「危あぶない！」

とつさにアンヌがメスを投げた。ミキサメーベに命中めいちゆう！ おかげで怪物どもの攻撃こうげきの夕イミングが狂くるった。

「今だ！」ボクはさらに剣けんをふるった。その後すぐに、ルドガーがショットガンを撃うちこむ。バラバラになったミキサメーベは、白い煙けむりをシュウシュウとあげて消えていった。

「今度こそくたばったか」

怪物を倒たおした後、L字路じろを、

●西に進む …………… ↓ 209 へ ●北に進む …………… ↓ 83 へ

41

ボクたちは、角の所で白い大きなコンテナを見つけた。

(工場で手にいれたカギを持っている人のみ、コンテナを開けて塔とうのダイナマイトを入手することが可能かのう。ただし、この項目こうもくに来るのが2回目にわいの人は関係ありません)

●東に進む …………… ↓ 78 へ ●北に進む …………… ↓ 25 へ

フェイスリツカーどもは、口から長い舌を伸ばしてきた。そのスピードたるや、まともに見えなかつたほどだ。たちまちボクたちは、舌に捕らわれてしまった。

「やん、この舌ベトベトする」

ネイはそんなことを言っているが、こちらはそれどころじゃない。ボクを捕らえているフェイスリツカーは、本気で締めつけてきやがった。男女差別だ（HPマイナス1）。

お、おのれー！ ボクは、むりやり腕を舌から抜きだし、剣で斬りつけた。ほかのふたりも助けだす。怪物ガエルめ、勝負はまだこれからだ。

フェイスリツカー 3匹 4 + バトルP (1のA)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のF) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓20へ ●下 …………… ↓63へ

ボクの放った攻撃は、バイテングアントに弾かれた。

「うわっ！」 驚いたスキを突かれ、怪物から液体を浴びせられる。毒性のギ酸だ！（HP

マイナス1）

「ユーシス、ヤツらの関節を狙うのよ！」

言うがはやいか、ネイはアントの首を斬り落とした。なるほど、そこなら剣も効くか。飛んでくるギ酸をかわし、ボクは剣をふるった。残った2匹の首が地面にゴロンと転がった（プラス10メセタ）。

「お見事」再び、さっきの男の声がした。

↓89へ

44

L字の曲がり角の所に来た。

●東に進む……………↓134へ ●南に進む……………↓84へ

45

フェンサーは、膨れ上がった腹をくねらせると、尻から針を放ってきた。危ない！ とつさにそいつを剣で弾き、ボクはヤツめがけて飛びかかっていった。一撃

でフェンサーの羽を切り落とす。

羽のないハチなんか、怖くはない。ボクは、地面に転がっているフェンサーにとどめを刺した。もう1匹のほうも、同じ戦法でネイが片づけていた（戦闘Pプラス1、プラス10メセタ）。

↓67へ

今までの戦いからしても、もっと強力な武器が必要だ。

ボクたちは、パセオ市内にある「イシャー」という名の武器店に寄ってみた。

「よく来たね。何が欲しい」

ライオンのような髪をしたねーちゃんが、奥のほうから面倒くさそうに出てきた。

「その大型のバズーカ砲なんかどうかな」

女店員は、鼻で「ふっ」と笑った。

「あんたが使うのかい。お笑いだね」

笑ってから言うんじゃないっての。ふん、どーせボクは銃砲類はうまく使えないよ！

「もっとじっくり選ばせてくれよ」

「勝手にどーぞ。決まったら呼んでおくれ」そう言って、店員はまた奥に引っこんでしま

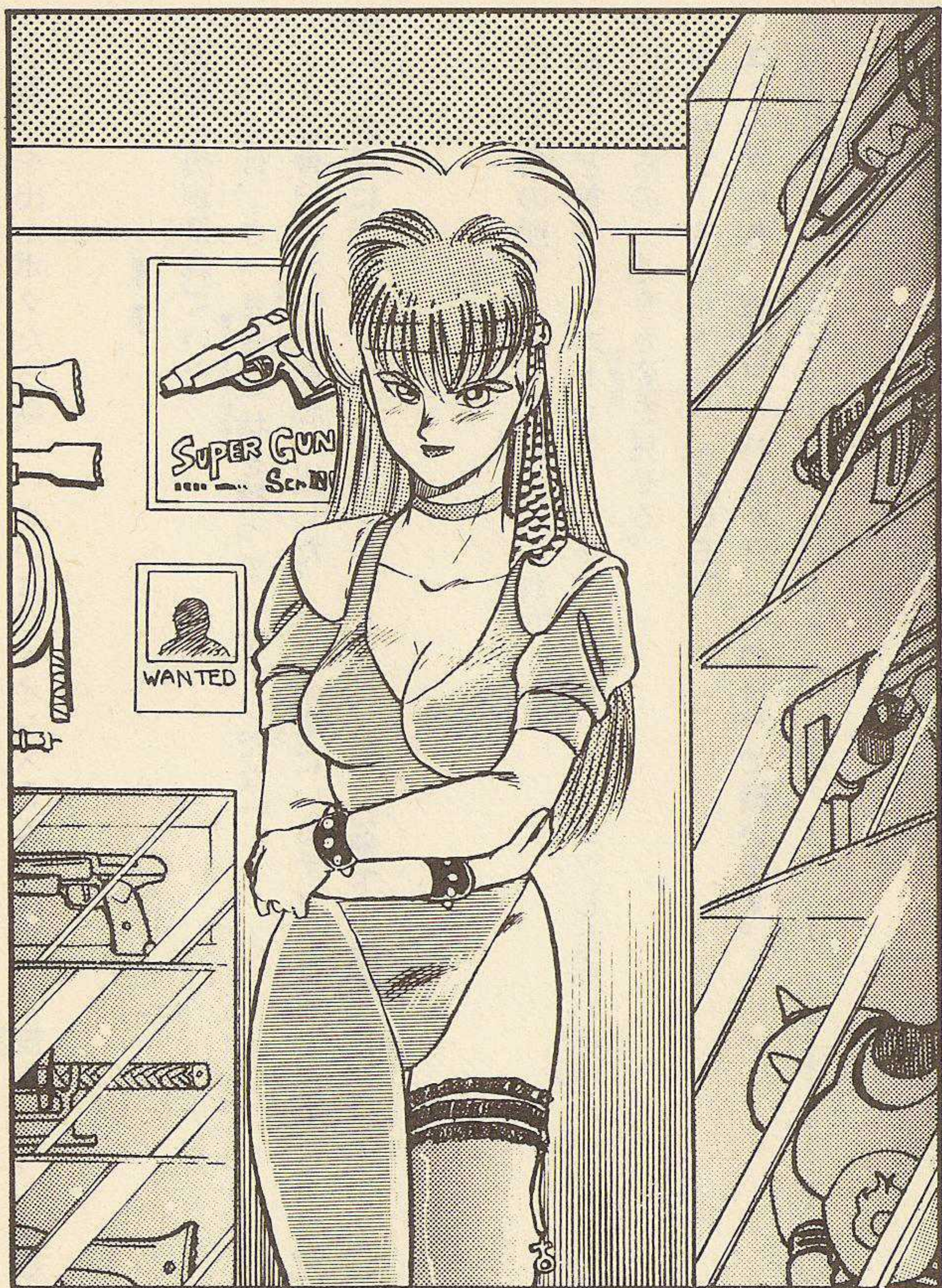
った。

○セラミックソード 60メセタ (普通のソードより威力がある)

○ポイズンシヨット 30メセタ (毒を含んだ弾丸を発射する。アンヌが使う)

○サイレントシヨット 40メセタ (薬物を発射し、敵をマヒさせる)

(買った物の値段を持ち金から引いて、アイテムリストに記入。ひとつ買うごとに戦闘P
プラス1)



46●イシャーの武器店。ワンレグのレオタードがこの店のコスチュームなのか？ しかし、愛想の悪いのが玉にキズ。

武器店を出たボクたちは、いよいよバイオシステムに向かつて旅出^{たび}った。 ↓96へ

47

通路^{つうろ}に男が倒^{たお}れていた。

「こいつは、さつき脅迫^{きょうはくじょう}状^{じょう}を持っていたヤツだな」

ボクは脅迫^{きょうはくじょう}状^{じょう}の内容^{ないよう}を思い出した。ニドの塔^{とう}にいるティムはまだ無事^{ぶじ}だろうか。

●ニドの塔に行く …………… ↓70へ ●まだ地下工場をまわる …………… ↓80へ

48

曲がり角の所で、またも敵^{てき}が現^あわれた。

ほとんど首がない大トカゲ——キヤリアだ。ゴツゴツした赤い尻尾^{しっぽ}を振り、培養^{ばいよう}カプセルの間からのつそりと姿^{すがた}を見せる。

キヤリア 8 + バトルP (1のE)

ユースたち 戦闘^{せんとう}P + バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓24へ ●下 …………… ↓62へ

49

フライングペドラが、まっ逆さまに襲いかかってきた。すかさず剣を抜いて、なぎはらう。ペドラの頭が吹っ飛び、壁にぐしゃりとへばりついた。胴体のほうはしばらく床をはねまわっていたが、やがて動かなくなった。この後、T字路を、

- 南に進む ↓17へ
- 北に進む ↓82へ
- 西に進む ↓2へ

50

昇降リフターのあるT字路の所に来た。

- 西に進む ↓36へ
- 南に進む ↓273へ
- 東に進む ↓80へ

51

「さて、これからどっちに行こうか？」

- ゼマの隣りにあるクエリス ↓108へ
- ロロンのごみ捨て場 ↓16へ
- アメダスへ（ボートを持っている場合のみ可能） ↓144へ

52

橋での悲劇の後、いったんパセオのライブラリーに寄ってみた。しかし、バイオモンスターに襲われたという事件のニュースばかりで、特に手がかりになるような情報はなかった。

マップでバイオシステムの位置を確認し、ボクたちはライブラリーを出た。

●病院に行く……………↓14へ ●自宅にもどる……………↓74へ

53

T字路に出た。レコーダーは、どこにあるんだ？

「表示板くらいあればいいのに」(ぜいたく)

●東に進む……………↓83へ ●西に進む……………↓97へ

●南に進む……………↓163へ

54

「よく来たね、何が欲しい」

武器店に入ると、すぐにパンクっぽいおねーさんが声をかけてきた。剣や防具の並んでいるショーケースを指さす。

○ソード 50メセタ

○カーボンベスト 20メセタ

（買った人は、それぞれの値段ねだんを持ち金から引き、アイテムリストきんゆうに記入きんゆう。それぞれ戦闘せんとうPプラス1）

「それにしても、ひどい世の中になつたねえ。バイオモンスターだけでも迷惑めいわくだつてのに、アリマーヤじゃ、ならず者どもが街まちを荒あらしまわっているそうだよ」

「アリマーヤが……？」

↓98へ

55

「こんなところで手間てまどつてるわけにはいかないんだ！」

ボクは一步飛びのくと、ダークサイドひだりむねの左胸ひだりむねめがけて剣けんを投げつけた。

剣は、まるで闇やみを裂さくかのように、ダークサイドの体りようだんを真まつ二つりようだんに両断りようだん！

シューつと、まるで煙けむりのようにダークサイドは消えてしまった。

ふうつ。今度はどつちに進んだらいいんだろう。

●西に進む

……………↓236へ

●南に進む

……………↓297へ

モスキートは、アツという間にボクたちの真上まうえに来ると、細長い吸血きゆうけつかん管を伸ばしてきた。そうはいくか！ ボクはその管をかわし、モスキートの胴体どうたいを斬りつけた。ヤツのトゲだらけの脚あしが何本か吹っ飛ぶ！ やったぞ！

「危あぶない！」ネイの声と、それは同時だった。ヤツはまだ生きていて、ボクの腰こしに吸血管を突き刺してきたのだ！（HPマイナス1）

見れば、切ったはずのモスキートの胴体からは新しい小さな脚が生えようとしていた。

「やーっ！」ネイのスチールクローがモスキートの頭を引き裂いた。さらに原型げんけいをとどめないほどに怪物かいぶつの体をブーツで踏みふみにじった。

「なにもそこまでやらんでも」

「ダメよ、このモスキートつてヤツは傷きずの再生さいせい能力のうりよくがあるんだから、徹底的てつていきにやらなきゃ」

「はあ……」美少女がそう言いながら戦うのは壮絶そうぜつなものがある。ボクは思わず見とれてしまった（戦闘せんとうPプラス1、プラス10メセタ）。

⇩ 3 へ

よし、こいつを使おう。ボクはダイナマイトを取り出し、ドアの下に置いた。点火てんかすると、できるだけ離はなれて床ゆかに伏ふせた。心の中で数を数える。5、4、3、2、1……。

轟音^{ごうおん}とともに、ドアが吹^ふっ飛んだ！（ダイナマイト1本マイナス）

「やったぞ……。む、あれは!？」

爆煙^{ぼくえん}の向こうに、何かうごめくものがあつた。バイオモンスターか！

そいつは、長い体をくねらせていた。大蛇^{だいじゃ}の怪物^{かいぶつ}——ヒルドだ。

ヒルドの体には無数^{むすう}のドアの破片^{はへん}が食^くいこみ、血^ちが流れていた。ドアのすぐ近くにおいて爆発^{ぼくはつ}に巻きこまれたようだ。

「気をつけろ、まだヤツはくたばっちゃいないぞ」ルドガーが銃^{じゆう}をかまえて言った。

ヒルド 4十バトルP（1のB）

ユーシスたち 戦闘^{せんとう}P十バトルP（2のG）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓107へ ●下 …………… ↓27へ

58

とつさにボクは後ろを振り返つた。

後ろにいた男は、ショットガンを持っていた。野盗^{やとう}の一味^{いちみ}か!?

「伏^ふせろ、ネイ！」

そのとたん、ショットガンが火を吹^ふいた！ 思わず身を堅^{かた}くしたが、なにも異常^{いじよう}はない。起き上がってみると、穴^{あな}だらけになったバイテングアントどもの死骸^{しかい}が転^{ころ}がっていた。

「驚かして失礼した」と、ショットガンの男が言った。

↓89へ

59

さつき使ったリフターの所にもどってしまった。

●東に進む

.....↓82へ

●南に進む

.....↓2へ

60

突然、キャリアの背中が裂けて、黄色い触手が何本も飛び出した！

怪物の裂け目はますます広がり、巨大なカサのようなものが突き出してきた。

「こいつは、ただのキャリアじゃない！ラストロットだ！」ルドガーが叫んだ。

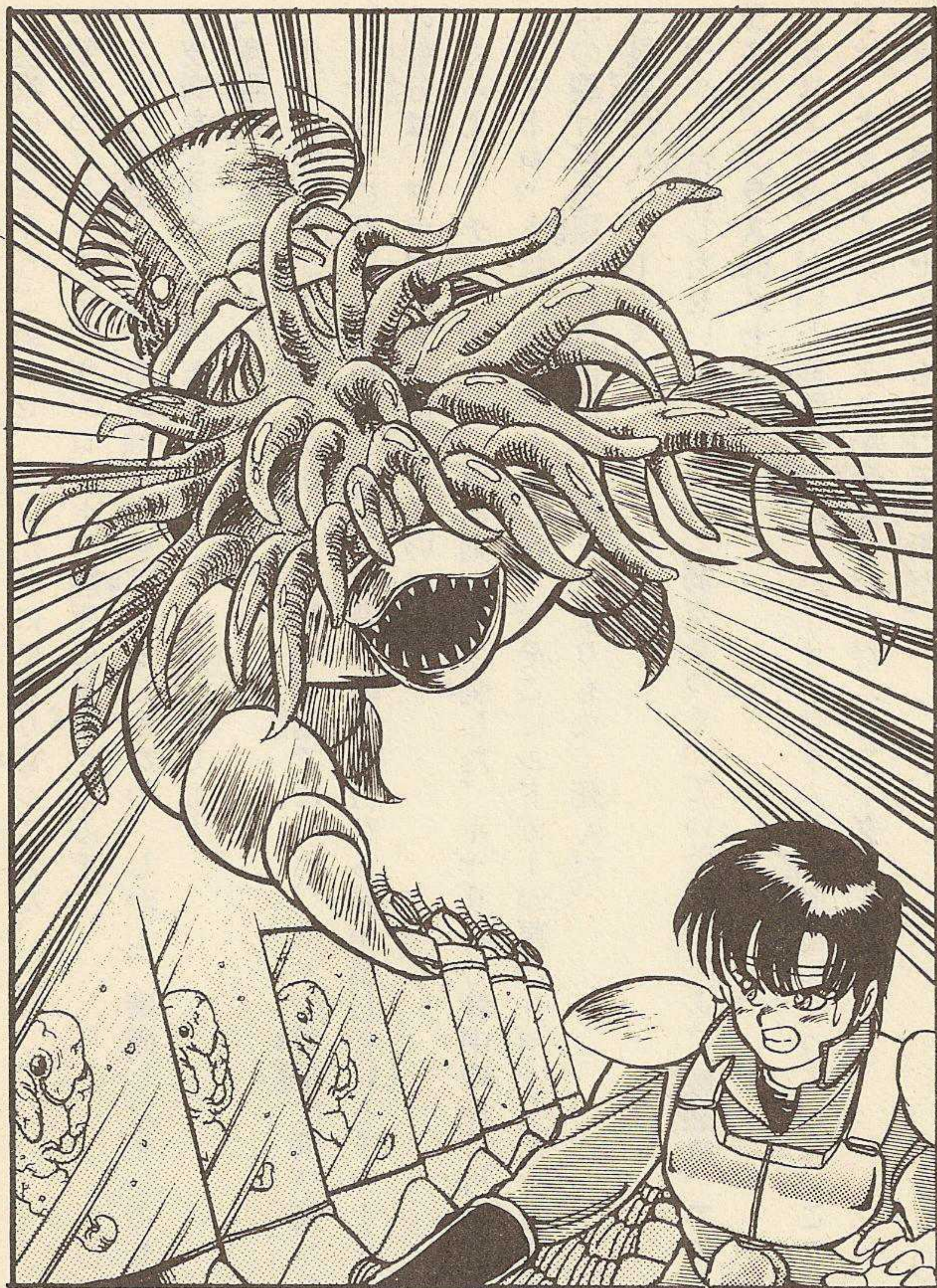
そういえば聞いたことがある。キャリアの体に別のバイオモンスター、チョーキンロットが棲みついて、よりパワーアップしているという怪物のことを。それがこいつだったのか！

「ルドガーさん、こいつの弱点は!?」

「わからん。私も戦うのは初めての相手だ」

ルドガーはショットガンを発射した。だが、怪物の皮膚は散弾を弾き返す。

「まるでヨロイだな。もともとキャリアの皮膚は硬いが、よけい強化されているようだ」



60●キャリアの背中が裂けて、触手が何本も飛び出した！ ただのキャリアじゃない。共生モンスターのラストロットだ！

怪物は触手をうごめかせ、ボクたちになじり寄ってきた。

「気をつける、チョーキンロットの触手には毒があるぞ」

こいつを倒すには、あの触手を突破するしかない。しかし、突破したとしても、あの硬い皮膚をどうやって打ち破るか。——いや、待てよ！

「援護をよろしく！」

ボクは怪物めがけて飛びかかった。触手を剣ではらい、ヤツの背中に飛び乗った。確かにキャリアの背中は硬い。だが、その背中の裂け目から顔を出しているチョーキンロットの部分は、クラゲのように柔らかいのだ！

くらえ！ チョーキンロットに剣を突き刺した。キャリアの背中の裂け目まで貫く！

ラストロットは、のたうちまわった。そこにルドガーが再びショットガンを発射！ 背中の裂け目を狙われた怪物は、ひとたまりもなく死んだ。

「見事だな、ユーシス君」

「ヤツら合体したせいで、かえって弱点をつくっていたんですよ」(戦闘P、TPともにプラス1。プラス50メセタ)

ラストロットがいた通路の奥は、バイオシステムの制御室になっていた。ここでボクたちは、ようやくレコーダーを発見したのだ(レコーダー入手)。

よし、早くパセオにもどって分析だ。

パイプの陰かげから、細長い物が飛び出してきた。毒蛇どくへびモンスターモンスターのポイズナーだ！
 「向むこうにもいるぞ！」ルドガーの指さすほうからも、2匹が姿すがたを現わした。

ポイズナー3匹 3+バトルP(1のA)

ユースたち 戦闘P+バトルP(2のH)で戦います。

●敵よりPが上……………↓95へ ●下……………↓10へ

キヤリアがいきなり突進とっしんしてきた。

ルドガーがショットガンを発射はっしやしたが、ヤツは平気へいきだ。なんて硬い皮膚ひふなんだ。

ボクたちはその硬い怪物かいぶつに、まともに体当りをくらった。うわっ！アツという間に、
 床ゆかに叩たたきつけられる。すごい威力いりよくだ(HPマイナス1)。

アンヌは、倒れたおぎわにメスを投げた。キヤリアの目に命中！怪物もこれにはたまらず、
 体をのけぞらした。

今だ！ボクは、むきだしになったヤツの腹はらを狙ねらった。そこだけは柔やわらかく、剣けんはずぶ
 りと突き刺ささる。キヤリアは、うめき声をあげると、ひっくり返り動かなくなった。

●北に進む……………↓8へ ●西に進む……………↓88へ

フェイスリツカーは、背中のイボイボをこつちに向けた。そこから噴き出す赤い液体！
「なんだ、これは？」

ボクは体に付着した液体の臭いを嗅いだ。

「ユース、だめ！ それは猛毒よ！」ネイが叫んだ。

そんなこと言われたって、もう遅い。ボクの目は急速にかすんできた……。

●持ち金が70メセタ以上……………↓5へ ●69メセタ以下……………↓33へ

チョーキンロットが飛び上がり、触手を広げてきた！ その包囲の中に取りこまれたア
ンヌとネイが倒れた（HPマイナス1）。

「どうした!？」

「電流よ、近づかないで」

「そうはいくか」

剣で触手をなぎはらい、ボクは彼女たちに近づいた。触手に触れるたびにビリビリしたが、動きがとれなくなるほどのものじゃない。ネイたちが軽装すぎるのだ。

彼女たちを助け出すと、ボクはチョーキンロットの本体めがけ剣をふるった。ちようど

急所を貫いたらしく、怪物は動かなくなつた。

その後、L字の曲がり角を、

●南に進む

..... ↓ 28へ

●西に進む

..... ↓ 44へ

65

「誰か倒れているぞ！」

通路の奥でボクたちは、女の子を発見した。

「大丈夫、ケガはないみたいよ」ネイが抱き起こすと、その娘の目がゆっくりと開いた。

「あなたはタイムね」

「ええ……。どうしたのかしら、あたしをさらつた男たちが急にいなくなつて……」

「みんな、バイオモンスターに殺されたらしい」ボクは、ならず者が持っていた脅迫状をタイムに渡し、事情を説明した。

「と、父さんがあたしのために人殺しや強盗を……」脅迫状を持つタイムの手がぶるぶる震えた。

「早くやめさせなくちゃ。あたしを父さんの所へ連れて行って」

●Aにチェックがある..... ↓ 6へ ●ない..... ↓ 85へ

マンカバーの体から長い触手が伸び、ボクたちをなぎはらった！

「うっ！」見かけによらず、すごいスピードだ！ おまけに電流まで流れてやがる（HP マイナス3）。

マンカバーとバスカバーは、ごろんと転がって位置を変えた。もう1回くるか!?

●HPが8以上 …………… ↓118へ ●7以下 …………… ↓26へ

フエンサーを倒してまもなく、ボクたちはアリマーヤに到着した。

街の中に足を踏み入れて、ボクはびつくりした。想像以上のひどさだ。ビルの窓という窓はみんな割れ、道路のいたる所に爆発の跡のような穴があいている。それに見かけるのは女、子ども、老人ばかりだ。大人の男は、どこにいったんだ？

「あなたたちは、どうしてこの街にきたの？ ここはひどい所よ」

事情を聞こうと思つて声をかけたら、女の人にこう切り返されてしまった。

「いったい、どうして？」

「この街では、ドラムというハンターくずれがボスをやっていたんだけど、新しくできた若手のグループがドラムを追い出してしまったのよ。あいつらは、ケダモノだわ。なにか

という街の人に暴力をふるって、略奪を繰り返しているのよ。もうこの街の食料倉庫は空っぽ。それに抵抗した人たちはみんな殺されてしまったし……」

「ダラムっていうのは、今なにを？」

「橋の上で野盗をするまでに落ちぶれたみたいよ。もつとも、娘のタイムを人質にとられているんじゃない、手も出せないでしょうけどね」

なかなか事態は深刻なようだ。ボクは、ならず者のアジトがこの街の東——シュレーンの地下工場跡にあることも聞き出した。

●シュレーンに向かう …… ↓34へ ●武器店に行く …… ↓11へ

68

フライングペドラが、まっ逆さまに襲いかかってきた。

すかさず剣を抜いて突き上げる。切っ先がもろにペドラの口を貫いた。

だが怪物はすぐに死なず、剣にからみついて暴れまわった。尖った尻尾が、ボクの腕を傷つけた（HPマイナス2）。

くそっ！

ボクは、ペドラを思いきり床に叩きつけてやった。怪物はしばらく床をはねまわっていたが、やがて動かなくなった。

この後、T字路を、

- 南に進む ↓17へ
- 北に進む ↓82へ
- 西に進む ↓2へ

69

「さつき寄ったばかりですよ。野盗に荒らされていて、めぼしい物はなかつたけど」
「そうか……。あそこの親父は古い知り合いでね。なにか武器を調達しようと思ったのだが、それならば仕方あるまい」

ボクたちは、シュレーンの地下工場跡にたどり着いた。もうかなり前に廃棄された工場
で、中は相当広い。隠れ家にするには最適の場所だ。

地上の入り口はボロボロになっていたが、まだ昇降リフター（エレベーター）は動くよ
うだった。ボクたちは、それに乗って地下に降りた。

いろいろパイプが入り組んだ地下通路は、まるで迷宮のようになっていた。

- 西に進む ↓36へ
- 南に進む ↓273へ
- 東に進む ↓80へ

地下工場を出たボクたちは、その足でニドの塔とうに向かった。あの脅迫状きようはくじように書いてあったことが本当だとしたら、ティムという娘むすめがいるはずだ。

「急ごう。ニドの塔も工場のようにバイオモンスターが入りびたっているかもしれない」
「ティムさえ無事ぶじもどれば、ドラムも野盗やとうをやめるでしょうね」

「だと良いが……。む、あれは！」

ルドガーが叫ぶさけのと、怪物かいぶつどもが現われたのは同時だった。木の陰かげから現われたひとつ目のカマキリのようなバイオモンスター、グラスキラ。そして、空中くうちゆうを漂ただよう球体生物きゆうたいせいぶつスピンスファイア。

「来い、怪物め！」

グラスキラとスピンスファイア 5+バトルP (1のH)

ユースたち 戦闘P+バトルP (2のC)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓15へ ●下 …………… ↓37へ

「錠じようがかかっているな」ルドガーがいろいろやってみたが、コンテナは開かなかつた。

「どこかにカギがあるに違ちがいないわ」

「とにかく、もう少ししまわってみよう」

●東に進む ↓61へ ●北に進む ↓50へ

72

「い、いえ、けっこうです」アーミアは断ことわった。

残ったボクたちも首を振ふった。

「なら、わてが食くうで。こんなにおいしいのに」と言いって、モタビアンはムシヤムシヤと
ケーキを食べてしまった。 ↓137へ

73

ゼマを出るわけだが、Cにチェックは？

●ある ↓51へ ●ない ↓179へ

74

あー、やっぱり家は落ちつくなあ。

おや、だれかがドアをノックしている。

「失しつれい礼れいします。ユーシスさんですね」

入ってきたのは、茶色の髪をした小柄な女性だった。

「はじめまして。わたしの名前は、アンヌ・サガ。学校を卒業したての医者です。ユーシスさんが、バイオモンスターの謎を探っていると聞いて、おじやましました。ぜひ、仲間に加えてください」

「でも危険な旅になりますよ」

「かまいません。わたしは、人々がこれ以上、バイオモンスターに苦しめられるのを見ていられないんです。武器を持って戦うのは苦手ですが、戦いで傷ついた人をいやすことならできます。ぜひ」

「そこまで言うのなら、わかりました、仲間に加えましょう。ちようど、傷の手当てができる人が欲しかったし……」

（アンヌは、傷の治療とHP回復のテクニックを使える。まだ病院に行っていない場合に限り、今回だけタダでHPプラス4）

これからボクたちは、

●バイオシステムへ直行 …… ↓ 96へ ●武器店へ行く …… ↓ 46へ

75

ルドガーがパンツアアントに向けて銃を発射した。銃声とともに、土ぼこりが舞う。怪



75●アーミアの手から、スライサーが飛んだ！ その必殺の武器
は、一撃^{いちげき}でグラスアサシンの首を切り落としてしまった。

物アリの姿は消えていた。

「地中に潜ったか！」

グラスアサツシンのほうは、ボクめがけてまっしぐらに襲いかかってきた！ 3メートルもの高さから巨大なカマを振り降ろしてくる。

ガチッ！ ボクは、その攻撃を剣で受け止めた。

しめた。こいつ、大ききのわりにパワーがないぞ。

ボクは、グラスアサツシンのカマをはねのけ、胴体を斬りつけた。怪物は奇怪な声をあげて飛びすさった。

後退しながらも、グラスアサツシンはカマを投げてきた！

うわっ！ 鋭い刃が、ボクの頭をかすめるように飛んでいった。

アーミアが前に出たところを狙って、怪物はもうひとつのカマを投げてきた。

「危ない！」

だが、彼女はすつと首をそらすだけで、その攻撃をかわした。

「わたくしの前でそんな技を使うのは、10年早くてよ」

アーミアの手から、三日月型をした刃物が飛んだ！ スライサーだ！ その必殺の武器は、一撃でグラスアサツシンの首を斬り落とし、彼女の手にもどってきた。

振り向けば、ちようどルドガーとネイが地中からパンツァアントを引きずり出し、しと

めたところだった（戦闘Pプラス1、TPプラス2、プラス50メセタ）。

↓190へ

76

L字路じろの所で、ピシヤツと何かが落ちてきた。首の後ろに手をやると、赤い液体えきたいがついていた。ヒリヒリと痛みはじめる。

いきなり、その液体が天井てんじょうからボタボタと降りふはじめた。

「いけない！ 何かの廃液はいえきだ。毒どくだぞ、これは！」（戦闘Pマイナス1）
ボクたちは慌あわてて、

●北に進む

.....↓132へ

●西に進む

.....↓8へ

72

77

装備そうびをもつとマシンなものにしようと、ボクは武器店ぶきてんに入った。ところが、ぎつちよん。めぼしい物はすべて売り切れ。残っているのは、実戦じっせんでほとんど役に立たないものか、高くて手が出せない物ばかり。

「おあいにくさま。いい物はすぐに売り切れちゃうのよ。こんな物騒ぶつそうな世の中だからね。またおいで」と、武器店のおねーさんは言った。

しかたがない。武器は旅たびの途中とちゆうでなんとかするさ。

●バイオシステムに向かう …… ↓ 1 3 へ ●アリマーヤに向かう …… ↓ 9 8 へ

78

^{ちゆうい}注意して進んでいくと、T字路じろに出た。

「タイムはどこにいるのかしら」ネイが心配しんぱいそうにつぶやいた。

●東に進む …… ↓ 1 7 へ ●北に進む …… ↓ 2 へ

●西に進む …… ↓ 4 1 へ

79

まずはモンスターどもを片づけるのが先だ。

バイテングアント3匹 2+バトルP (1のー)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP (2のF)で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓ 2 3 へ ●下 …… ↓ 4 3 へ

80

^{うすぐら}薄暗い所に出た。なんだ？ 暗がりから、ゲコゲコいう不気味ぶきみな声が聞こえてくる。

巨大なカエルどもが、ノドを鳴らしながら姿すがたを見せた。

「リックカー? いや、もつと凶暴なフェイスリックカーだ!」ルドガーが叫んだ。

フェイスリックカー3匹 4+バトルP(1のJ)

ユースたち 戦闘P+バトルP(2のC)で戦います。

●敵よりPが上 ↓20へ ●下 ↓42へ

81

モタビアンに近づいて、ボクは「しまった」と思った。臭い! 鼻が曲がりそうだ。すごく変な臭いが、モタビアンから漂ってくる。

「やあ、あなたたち、ゴミがぎょうさんある所を知りまへんか?」

「ゴミだって」

「そう。ボクたちは、ゴミいじりが大好きなんや。この街の北にあるロロンのゴミ捨て場に行ってみなはれ。ボクたちの仲間がいっぱいいるよつて」そう言うと、モタビアンは、またゴミを求めて路地裏に消えていった(Cをチェック)。

●道具屋に寄る ↓126へ ●武器店に寄る ↓152へ

●ゼマを出す ↓73へ

82

し字の曲がり角に出た。

●南に進む

.....⇩100へ

●西に進む

.....⇩59へ

83

し字の曲がり角に出た。

●南に進む

.....⇩102へ

●西に進む

.....⇩53へ

84

「また同じ所に来たんじゃない」

ネイの言うとおりでた。入り口近くのリフターの所にもどってしまったようだ。

●北に進む

.....⇩44へ

●東に進む

.....⇩28へ

●リフターに乗る

.....⇩140へ

85

そんなことを言われても、こっちはダラムの居所いしころを知らない。そこでボクたちは、アリ
マーヤにもどり、そのことを探さぐって見た。ところが、みんなダラムのことを恐おそれて、なか

なか教えてくれない。

しかたがない。こうなれば、街の情報屋に金を払って聞くか。

「ドラムか……。たしか、パセオの北側の橋の上で荒稼ぎしているって聞いたな。ほら、湖のそばにある橋だよ。——おつ、その顔を隠している女の子は……」

「よくわかったよ。それじゃ」それ以上詮索されないうちに、ボクたちは金を払って立ち去った（マイナス20メセタ）。

↓30へ

86

突然、キヤリアは足を止めた。ブルブルとヤツの体が震えはじめる。

「様子が変よ」

「かまうもんか、今のうちに攻撃だ」

ボクはキヤリアの顔めがけて斬りかかった。——だが、思わぬ衝撃を受け、逆に吹っ飛ばされる。まるで、ムチで打たれたような感じだ（HPマイナス2）。

な、なんだ？ ヤツは1歩も動いていないというのに。

「見て、キヤリアの背中を！」アンヌが叫んだ。

●HPが7以上

……………

↓60へ

●6以下

……………

↓142へ

「よし、なんとかぶち破るんだ」

ボクとルドガーが一緒になつて、ドアに体当りをした。3回目でドアはきしみ、5回目でついにそれは開いた。

ドアの向こうに突つこんだたん、そこで思いがけない衝撃を受けた。ムチのようなものが、ボクたちに襲いかかったのだ（HPマイナス1、戦闘Pマイナス1）。

バイオモンスターだ！ 待ち伏せしていやがった。

そいつは、長い体をくねらせていた。大蛇の怪物——ヒルドだ。ボクたちを打ちすえたのは、ヒルドの尻尾だった。

「気をつけろ、またしかけてくるぞ」ルドガーが銃をかまえて言った。

ヒルド 6 + バトルP (1のD)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2の1) で戦います。

●敵よりPが上 ↓107へ ●下 ↓27へ

進んでいくと、曲がり角に出た。

●北に進む ↓148へ ●東に進む ↓48へ

「キミがユーシス君だね」

ボクはうなずいた。——この男は何者だろうか？ ボクは、改めてその男の姿を観察した。全身黒ずくめの格好。鋭い目つき。タダ者ではなさそうだ。

「私の名はルドガー・シュタイナー。昔はモタビアの軍人だったが、妻と娘をバイオモンスターに殺されて以来、ハンターをやっている。ユーシス君とネイ君がバイオモンスターの謎を追っていると、ウワサに聞いた。できれば、探索の旅に参加させて欲しい」

ボクは、すぐにOKした。これで頼もしい仲間ができた。

「ところで、アリマーヤの武器店にはもう行ったかな？」と、ルドガーが言った。

●行った ↓69へ ●行っていない ↓9へ

アルゴル太陽系の第3惑星デゾリスは、雪と氷に覆われた星だ。

タイラーの船は、この星の首都スクレの郊外に着陸した。

「あんたらの持ち物は、『ガイラ』で取り返しておいた。全部あるだろ？ ——それじゃ、

気をつけてな。シルカも元気で」

吹雪の中、船は再び飛び立ち、垂れこめた雲の中に消えていった。

「デゾリスといつても広すぎるわ。どこから手をつけるの？」

「まず、このスクレからだな。手がかりになりそうなことを聞いてまわろう」

だが、ボクたちは、すぐにそれどころじゃないことに気づいた。なんと、スクレには、人っこひとりいなかったのだ！

「どうなっているんだ？ 仮にもここは、デゾリスの首都しゅとだろ。ここが、ゴーストタウンになっっているなんて、どこのニュースにもなかったぞ」

「少なくとも、モタビアのニュースではね。ボクたちの知らない裏うらの世界せかいで、何かおが起こっているに違ちがいない……」

ボクたちは、スクレの中央広場ちゆうおうひろばにやってきた。ガランとした広場に、ぽつんと標識ひょうしきが立っていた。スクレは、A、B、Cと3つの地区ちくに分かれているようだ。

どこから探さぐるか？

●A地区 …………… ↓111へ ●B地区 …………… ↓12へ

●C地区 …………… ↓22へ

91

ボクたちは、モタビアンに案内あんないされてゴミの山の中を歩いていった。あちこちでほかのモタビアンたちが、ゴミを掘ほり起おこしているのが見えた。



91● 「ところで、ケーキ食わんか、ねーちゃん」モタビアンが、
ケーキを差しだした。うーむ、これはいったい……!?

「本当にあなたたちは、ゴミが好きなのね」と、アーミアが半分あきれたように言った。「もちろんや。こんなにいい臭いにおがするものはほかにないねん。それに、ゴミは資源しげんの宝ほう庫こや。わてらの手にかかれば、ゴミから何でも作り出せるんやで。——ところで、ケーキ食くわんか、ねーちゃん？」

●もらって食べる …………… ↓ 114 へ ●断ことわる …………… ↓ 72 へ

92

「苦くるしいときのテクだのみ。よし、プロセダンを使うぞ！」

カインズはそういうと、バンブーとミゾランガンマの前に躍おどり出て、あらゆるメカを破は壊かいする、プロセダンのテクニックを使った。

G A、G A G A G A、T Y U D O M !

2体のロボットは、狂くるったようにのたうちまわると、自爆じぼくして果はてた(TPマイナス4)。一刻いっごくも早く、コントロール装置そうちを解除かいじよしたいところだが…………。

●カードを持っている …………… ↓ 200 へ ●持もっていない …………… ↓ 231 へ



93

Bにチェックがあるか？

●ある ↓47へ ●ない ↓19へ

94

ヒュンツ！

影かげのような怪物かいぶつ、ダークサイドが、いきなりライト・セーバーで斬きりかかってきた！

「まったく、脅おどかしやがって。あいさつしてもんを知らねえのか！」

カインズの言う通りだぜ！

ダークサイド 20+バトルP (1のF)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP (2のG) で戦せんとういます。

●敵よりPが上 ↓55へ ●下 ↓262へ

95

ルドガーがショットガンを発射はつしゃ。1匹がズタズタになって吹ふっ飛んだ。ショットクでちぎれたパイプから、猛烈もうれつな勢いきおいで水が噴ふき出す。

2匹目おそがその水の向こうから、ルドガーに襲おそいかかった。

「危ない！」

ネイが跳んだ。空中でポイズナーの頭を引き裂く。並の人間では真似のできない技だ。よし、こっちも負けちゃいけない。最後に飛びかかってきたポイズナーを、ボクは一刀両断のもとに叩き斬った！

この後、L字の曲がり角を、

●北に進む …………… ↓80へ ●西に進む …………… ↓273へ

96

湖のほとりにそびえる白い建物——それが、バイオシステムだ。

かつて砂漠だったモタビア星。それが緑豊かな星になることができたのは、マザーブレインが建造したバイオシステムとアメダスのおかげだった。バイオシステムが作物を作り、アメダスが気候をコントロールすることによって緑を茂らすことに成功したのだ。

ところが、ある日突然、バイオシステムは作物の代わりに怪物（バイオモンスター）を作りはじめた。事故か、それとも何者かのしわざか？ システムは完全自動性で、人間は

いないはずだが……。事件の真相を知るためには、バイオシステムの活動を記録しているレコーダーを分析することが必要だ。ボクの使命は、そのレコーダーを回収することだ。

「さつそくジャマ者が現われたみたいよ」ネイがバイオモンスターどもを発見した。色違いの巨大な肉塊がふたつ、入り口をふさぐようにしている。バスカバーと、それより強力なマンカバーだ。

バスカバーとマンカバー 7+バトルP (1のG)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓118へ ●下 …… ↓66へ

97

この階も培養カプセルが並んでいた。人間の手を借りずに、システムが勝手に動いているというのには不気味だ。ずっと昔からそういう光景は見慣れているはずなのに、そんな気がしてきた。

L字の曲がり角で、急にネイが跳びすさった。

「ユーシス！ 来ちゃだめ」

「なんだって——うっ！」

遅かった。ボクたちは赤い水たまりの上を歩いていたのだ。急に足に痛みが走った。有毒物質だ！（戦闘Pマイナス1）

急いでボクたちは、

●東に進む

..... ↓53へ

●南に進む

..... ↓117へ

98

ボクたちは、アリマーヤの街まちに向かった。ならず者がどんなふうおどに街を脅かしているか、興味きょうみを持ったのだ。

「ユーシス、何か近づいてくるわ！ 変な音が聞こえる」

ネイの耳が、敵てきの接近せつきんをとらえた。彼女の耳は、並なみの人間にんげんより何十倍も鋭するどいのだ。茂しげみの中から、大きな黒い塊かたまりがふたつ飛び出してきた。1メートル以上もある巨大きよだいなハ

チ——フェンサーだ！

フェンサー2匹 1+バトルP (1のD)

ユーシスたち 戦闘せんとうP+バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上

..... ↓45へ

●下

..... ↓21へ

99

パセオのライブラリイ。ここで総督そうとくとボクたちは、レコーダーの分析結果ぶんせきけつが出るのを待まっていた。

「私は今までマザーブレインの行うことは、絶対ぜったい正しいと信しんじていた」と、総督が言った。

「我々の生活は、マザーブレインによって守られていると」

「それはモタビア——いや、アルゴル太陽系の大部分の人が思っていることですよ」

「だが、マザーブレインのもとで、我々はなんとひ弱ななまけ者になつてしまつたんだらう。バイオモンスターの前に、ほとんどの人間はただ逃げまどうだけだ……」

総督もこの事態を重く考えているようだ。

「分析が終わりました。こちらへ」メガネをかけた女性技師が、ボクたちをコンピュータ室に案内した。

「バイオシステムの事故の原因は、あまりに多くのエネルギーがシステムに送りこまれたためです。その結果、生物は突然変異を起こしました。生み出された生物は、自然のサイクルからはずれたもので、存在してはならないものです。そして、それらのモンスターを解き放つたために、すべてのサイクルが狂つたのです」

「それでは、そのエネルギーはどこから流れこんだのかね」総督が聞いた。

「おそらくはアメダスでしょう。ここ数年、気温は上昇し、雨の量は低下しています。本来、そういったものの調節に使われるエネルギーが、バイオシステムに流れたんです」

「しかし、アメダスもマザーブレインによって完全にコントロールされている。人間などひとりもおらんはずだが」

「何者かが忍びこんで、工作をした可能性もあります」

「むう……。ユーシス君、悪いが今度はアメダスに行ってくれたまえ」 □124へ

100

広いT字路に出たとたん、怪物のうなり声が響きわたった。黒く細長いものが、空中で波打っている。フライングペドラという空飛ぶヘビだ！

フライングペドラ 5+バトルP (1のJ)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP (2のE) で戦います。

●敵よりPが上 …………… □49へ ●下 …………… □68へ

101

L字路に出ると、そこには昇降用リフターがあった。

●西へ進む …………… □263へ ●南へ進む …………… □202へ

●リフターに乗る …………… □131へ

102

パリーン！ 何かが割れる音が響きわたった。並んでいた培養カプセルのひとつが倒れ、中からドロリとしたものが出てきた。

「誕生たんじょうしたばかりのバイオモンスターってわけか」

「ミキサメーベよ、あれは」

ミキサメーベ 8+バトルP(1のD)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP(2のA)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓40へ ●下 …………… ↓138へ

103

チヨーキンロットが飛び上がり、触手しよくしゆを広げてきた！ その間をすり抜け、ネイが跳びすさった。

「気をつけて、電気が流れているみたいよ」

「OK！」

ボクは剣けんで触手をなぎはらい、突っこんだ。それでもからみつこうとする触手は、防具ぼうぐでブロックする。ビリビリしたが、動きがとれなくなるほどのもんじゃなかった。

「いやーっ！」ボクはいつきに飛び上がって、剣を振り降おろした！ チヨーキンロットのカサ頭がぱっかりと割れ、怪物かいぶつは動かなくなった。やったぞ！

その後、L字の曲がり角を、

●南に進む …………… ↓28へ ●西に進む …………… ↓44へ

「アメダスについて何か知らないか」

「いや、行ったこともないね。あそこで何かあったの？」

「だいたいにおいてこんな感じで、住民はあまり関心がないようだ。「すっかりなまけ者になつた」という総督の言葉が思い出される。

「あれ？ あそこにいるのモタビアンじゃない」と、アンヌが指さした。

「ホントだ。珍しいな。街の中で見るのは」

モタビアンというのは、何千年も前からこの星に住んでいる原住種族だ。1メートルほどのネズミが、2本足で立っている姿を想像してもらえばいい。

●道具屋に寄る …………… ↓ 126へ ●武器店に寄る …………… ↓ 152へ

●モタビアンに話しかける …………… ↓ 81へ ●ゼマを出す …………… ↓ 73へ

地上と空から攻めてくる2匹の敵に、ボクらは苦戦をよぎなくされた。

おまけに、長い急斜面を登ってきたため、ただでさえ疲れきっているっていうのに。

「くふうつ」突如、アーミアがうめいた。

額には脂汗がにじみ、それは上気した頬を伝い、さらに白い胸元にツウと落ちる。美し



105●「くふう」ゴロゴロおなかをこわしたアーミアは、その場にしゃがみこんでしまった。美女だけにこいつは屈辱だくつじやく（？）。

い眉間みけんには苦しげなシワが……。呼吸こきゅうは乱れみだ、そして、身をよじるようにしては、「くうっ」とまたうめく。

「あぶない、アーミアさん！」

バーンウルフの放電ほうでんからアーミアをかばう！

「いったいどうしたっていうんです」

彼女の体が小刻こきざみに震ふるえている。

「それが……。私、下腹部かぶくぶが……。ああッ、そこはかとなく……。ああ、ダメ！」

赤面せきめんしつつ、もじもじするアーミア。いったい彼女になにが起おこったというんだ。

「この非常時ひじょうじに……。ハッキリ言っってください！ おなかでもすいたんですか」

「わ、私、おなかをこわしてしまっただけですのお」

それだけ言うと、アーミアは、その場にしゃがみこんでしまった（戦闘せんとうPマイナス1）。

「つまり下痢げり……。あ、いや、っ、つまり、下腹部が痛いわけですね。そうか、例れいのケーキのせいだ。わかりました、アンヌから薬をもらったら、危険きけんですからマルエラリーブの陰かげで休んでいて下さい。こいつらはボクらがなんとかするから」

うーん、美女だけに、こいつは屈辱くつじやくだ。

⇩ 166 へ

いきなりドアがひしやぎ、向こう側から赤い塊かたまりが飛び出してきた！ 体当りを喰くらい、ボクたちはなぎ倒たおされた（HPマイナス2）。

そいつは、トカゲをずんぐりさせたような怪物かいぶつだった。バイオモンスターのキャリアだ。

キャリア 10 + バトルP（1のA）

ユーシスたち 戦闘P + バトルP（2のD）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓60へ ●下 …………… ↓86へ

ヒルドは、ネイに向かって火の玉を吐はき出した。

突然とつぜんの攻撃こうげきだったが、ネイは飛び上がってそれをかわした。彼女はごてごてした装備そうびを嫌きらうかわり、とてつもないスピードをもっている。

ヒルドの後ろにまわりこんだネイは、スチールクロウをヤツの頭に突つき刺さした。またすばやく、そこから飛びすぎる。

「よし、今だ！」 ルドガーの銃じゆうが火を吹ふき、ヒルドはズタズタになった（戦闘P、TPともにプラス1。プラス20メセタ）。

ボクたちは、さらに通路つうろの奥おくへと進んでいった。

↓65へ

108

クエリスの街まちに到着とちやく。このライブラリイで、ボクたちは耳じようほうよりな情報じようほうを得たえ。アメダスの設備せつびはドーナツ湖この島なまの内部ないぶにある。そこに入るには、水中から行くしかないそうだと。となると、湖みずうみに潜もぐれる装そう備びをそろえないとな。

(ここで、この街の病院に行くことが可能かのうです。行く人は、次の2つのコースがあります。

○30メセタはら払はらって、HPプラス2。○60メセタ払はらって、HPプラス4)

●道具屋どうぐやに行く……………↓145へ ●さらに情報を集める……………↓35へ

109

L字の曲がり角に出た。さて……………

●南に進む……………↓8へ ●東に進む……………↓132へ

110

なんとか迷宮めいきゆうをクリア。ボクらは、コントロール装そう置ちのある所までたどりついた。キシーン、キシーン、キシーン。

突然、頭が痛くなるような金属音きんぞくおんを発し、バンブーが現われた。

まさにその名のとおり、竹バンブーを組み合わせてできたようなロボットだ。

「さっさとかたずけてコントローラ装置を解除するんだ！」

だが、敵はバンブーだけではなかつた。

戦車せんしゃのようなボディから円盤状えんばんじょうの頭をもたげたミゾランガンマが、背後はいごから現われた。巨大きよだいなマニピュレーターが、ボクらを狙ねらっている。完全に挟はさみ打ちうちにされてしまった。

バンブーとミゾランガンマ 16 + バトルP (1のJ)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 170へ ●下 …………… ↓ 147へ

1111

A地区に向かうボクらに、大きな影かげが襲おそいかかってきた！

毛むくじゃらの体はまるで大ザル。額ひたいの3つ目には、邪悪じあくな光が浮かんでいる——ハン

グリーンエイプだ！

ハングリーンエイプ 15 + バトルP (1のA)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のI) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 210へ ●下 …………… ↓ 232へ

112

ネオニルソニアの枝がスルスルツと伸び、ネイを捕らえた！

「ネ、ネイ！」

助け出そうにも、敵のビーム攻撃の前に近寄ることができない（HPマイナス1）。

「おしりは触るわ、人質は取るわ、せこいモンスターですこと！ 許さないわ！」

ビームなにするものぞと、アーミアが果敢にスライサーでアタック！

次々と敵の枝葉を落とす、ついにはその巨木を、真つ二つに切り倒した。

宙に放りだされたネイを、ボクはがっちりとキャッチ（戦闘Pプラス1）。

「さ、まいりましたよう」

アーミアが先頭をきって歩きだした。

↓201へ

113

「なんとか突破するんだ！」

潜水艇は最大スピードを出した。何度もシーシザースのハサミが触れそうになったが、

その度に急旋回し、危機を脱出した。

「ふう。なんとか逃げきったな……。お、あれがアメダスの入り口か」

ボクたちを乗せた潜水艇は、島の水中部分に開いた洞窟の中に入っていた。その奥は

水中ドックになつていた。

潜水艇を降り、近くにあつた昇降リフターで上の階に出た。さつそく通路が2本あるが。

●西に進む ↓ 1 7 5 へ ●南に進む ↓ 1 5 3 へ

1 1 4

アーミアは、そのケーキをぺろりと食べた。

「おいおい、大丈夫かい？」ボクは、そつと彼女に耳打ちした。

「平気よ。パセオのケーキ屋にも負けない味だわ」(Dをチェック)

やれやれ。こつちの思い過ぎなのか、それともアーミアの胃が特別製なのか。

↓ 1 3 7 へ

1 1 5

T字路に出た。

●南に進む ↓ 1 3 5 へ ●北に進む ↓ 1 5 3 へ

●西に進む ↓ 2 2 9 へ

ボクたちは、思わず立ち止まった。ちょうど曲がり角の所で、男たちが折り重なるように倒れていたのだ。

ならず者どもの死体だった。バイオモンスターにやられて、まだそれほど時間はたっていないようだ。床に流れた血は、まだ半分くらいしか固まっていない。

ルドガーは職業柄そうした死体を見慣れているのか、平然とした顔でそこに近づいていった。頭をつぶれた男のそばで何かを拾うと、こっちに放ってよこした。

「カギだよ。街のウワサじゃ、こいつらは大事な物をコンテナに入れて持ち歩いているじゃないか」(カギを入手、アイテムリストに記入。ただし、2個目は関係ない) 曲がり角をボクたちは、

●西に進む……………↓7へ ●南に進む……………↓80へ

し字の曲がり角に出た。

●東に進む……………↓163へ ●北に進む……………↓97へ

いきなりマンカバーが飛び上がった。空中から触手を伸ばしてくる。

ネイもすばやく反応し、跳んだ。触手をかわし、その根元をクローでえぐり取った。

そこが弱点だったらしく、地面に落ちたマンカバーはドロドロに溶けはじめた。

弱点がわかれば怖くはない。残ったスカバーの触手攻撃を剣で弾き、ボクは突進した。

触手の根元を思いっきり突き刺した！

スカバーは体をブルブル震わしていたが、やがて仲間と同じように溶けて死んだ（戦

闘P、TPともにプラス1。プラス30メセタ）。

ジヤマ者を片づけたボクたちは、バイオシステムの建物の中に入った。

培養カプセルが両側に並ぶ通路を進んでいく。カプセルの中には、いろいろな生き物の

組織が青い液体の中に浮かんでいた。なんか不気味な感じだ。

やがて、昇降リフターのあるL字路に出た。

●北に進む ↓44へ ●東に進む ↓28へ

●リフターに乗る ↓140へ

気がつくのと、みんなが心配そうにボクの顔をのぞきこんでいる。

「ここは天国か？」

「なに言ってるの、ユーシス。あなたは助かったのよ」

アンヌがリバーサーのテクニックを使って、ボクを復活させてくれたのか（TPマイナス6）。

「アーキドラゴンは？」

「なんとかやり過ぎしたわ。さ、今度は左のクレバスにそって行きましょう」

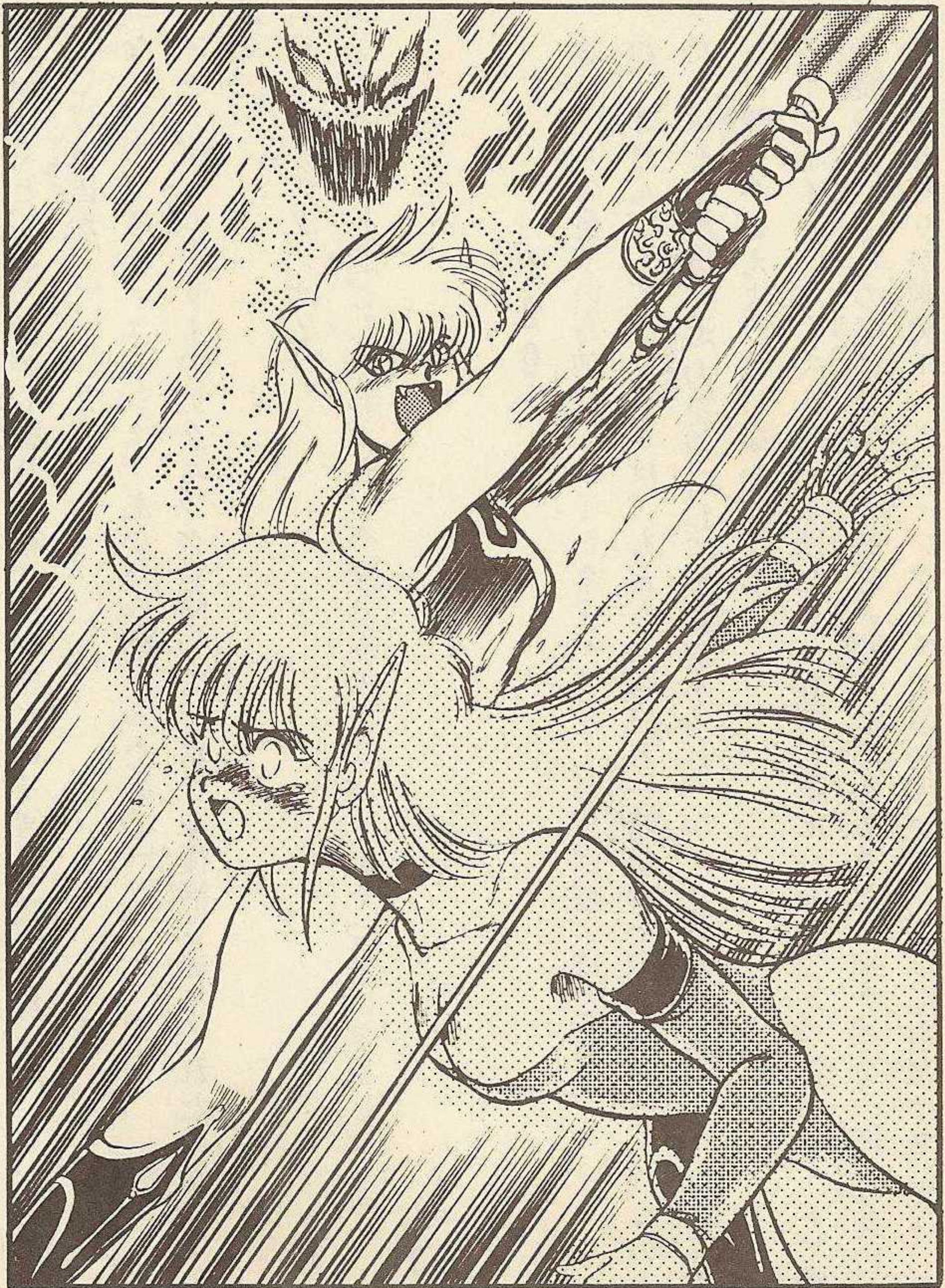
↓325へ

120

ボクたちの見ている前で、ネイとネイ・ファーストは戦いはじめた。

ね、姉さんだつて!? ネイは、もともと自分と一緒にだった姉と戦おうというのか! ボクたちはその異様な迫力を前にして動けなかった。かたきをやっと思ついたらルドガーにしても、銃をかまえようとしなかった。

ネイとネイ・ファーストは、1秒たりとも同じ所にいなかった。猛スピードで跳び、鋭い特製の爪で互いの喉笛を狙う。並の人間では捕らえることができない超高速の戦い! 空中でふたりが激突! ネイ・ファーストの右手から、クロウが弾け飛んだ。さらに着



120●^{しまい}姉妹どうしの^{おそ}恐るべき^{たいけつ}対決！ ネイ・ファーストは、^{かく}隠し持
っていたライト・セーバーで、ネイを^き斬りつけた！ ああ！

地の体勢をくずすファースト。

チャンスだ！ すかさず、後ろから攻めるネイ！

だが——悲鳴をあげ、倒れたのはネイだった。

振り向いたファーストの右手には、光る剣——ライト・セーバーが握られていた。

「ネイ!!」ボクは、彼女のもとに駆け寄った。

「ユーシス……。お願い、姉さんを……。ネイ・ファーストを倒して……。彼女は、悪魔よ。

人間を皆殺しにするまで……。バイオモンスターを作り続ける気だわ」

「ふふふふ、その小娘の言うとおりに。みんな、死ぬがいいわ！」

「おのれ！」ボクはネイ・ファーストをにらみつけた。

ネイ・ファースト 14 + バトルP (1のG)

ユーシスたち 戦闘P (現在の戦闘Pから3を引く) + バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 141へ ●下 …………… ↓ 215へ

121

バンブーの殺人ビームの前に、ボクはなすすべを失い倒れた。

ネイ……。今……。行くから……。ね。みんな……。どうか無事で……。

END

1 2 2

進んでいくと、がっちりとロックされたドアにぶちあたった。向こうには、何があるんだ？ 調べてみよう。ダイナマイトは？

●ある ↓167へ ●ない ↓106へ

1 2 3

ルドガーが銃をかまえたたたん、ボートがぐらりと揺れた。シーシザースの体当たりだ。そのスキにカイトカインドが急降下！ ヤツの鋭い爪が、ボクたちを襲った！（HPマインス！）

くそ、このボートの上じゃ、ろくに反撃もできやしない。

シーシザースの体当たりはさらに続き、ボクらのちっぽけなボートは転覆してしまった。ボクたちは必死になって泳いで、なんとか岸にたどりついた（ボートを失う。アイテムリストからボートを消す）。
↓197へ

1 2 4

やれやれ今度はアメダスカ。出発する前にボクは、仲間を連れて自宅にもどった。家で体を休めていると、だれかが訪ねてきた。

「お会いしたかったわ、ユーシスさん」戸口に立ったのは、長い金髪きんぱつの美女だった。

「わたくしは、アーミア・アミルスキー。ユーシスさんの仲間くわに加えてくださらない？」

「え？　しかし、危険きけんな旅たびですよ」

「大丈夫だいじょうぶだよ。彼女は、ただ者ただものじゃない」意外いがいなことにルドガーが口をはさんだ。「彼女は、カウンタ・ハンターだ。——バイオモンスターを狩かるはずのハンターが、いつの間まにか金目当てひとごとろで人殺ひところしさえ行いうようになってしままう。そういつた連中れんちゆうを逆さかに始末しまつするのが、彼女の仕事しごとさ。『刃物はもの使いのアーミア』といいええば有名ゆうめいだ」

「そういうあなたはルドガーさんね。お目めにかかれて光栄こうえいだわ」

「どうやら、ふたりともその世界よでは有名人ゆうめいじんらしい。新あらたな旅たびを前まへにして、心強こころづよい味方みかたができたといいうところか。」

（出発しゅつぱつの前に、病院びやういんに行くことことが可能かのう。行く場合ばあひは、次つぎのどちらどちらかを選えらぶこと。）

○20メセタを払はらいHPプラス2　　○40メセタを払はらいHPプラス4

さあ、アメダスに向むかって出発しゅつぱつだ。

⇩146へ

125

「フーッ！」

「ミギヤギヤギヤ！」

モジックハットをかぶったボクに、ネコたちが襲いかかってきた。顔を引つかくもの、足にかじりつくもの、首筋をなめるもの、シツポで鼻をパフパフするもの……。

「うわあ、助けて……誰かなんとかしてくれ！」

アーミアがモジックハットを取りさつてくれて、やっとネコ軍団の攻撃がおさまった。しかし、ボクの体には、無数の傷が……（戦闘Pマイナス1）。ネコたちをよけるようにして今度は……。

●東に進む

……………

⇩94へ

●南に進む

……………

⇩321へ

126

「いらつしやいませ。何をお求めですか？」

「念のため聞くけど、ボートなんてないだろうね」

「ボートですか。うーん……あ、そういうば、倉庫でひとつホコリをかぶっていたなあ。それより、ほかの物も見ていったださいよ」

○ボート 90メセタ

○モノメイト 50メセタ（HPをアップさせる）

○スターアトマイザー 120メセタ（HPとTPをアップさせる）

（買った物の値段を持ち金から引き、アイテムリストに記入）

- 武器店に行く……………↓152へ
- 街で聞きこみをする……………↓104へ
- ゼマを出す……………↓73へ

127

「カン違いしないでね。あなたを警察に売ったりなんかしないわ」彼女は、にっこりと微笑んだ。「わたしは、シルカ。人は、わたしのことを『風のシルカ』と呼ぶわ。マザーブレインに縛られる暮らしが嫌で、このタイラーの所でやっかいになっているのよ」

「はあ……」

「ニュースでは、あなた達がマザーブレインを狂わせた犯人だと言っていたけど、そんなことはできやしないでしょ？」

「もちろん。ボクラには、マザーブレインの本体がどこにあるかもわからないんだ」

「デゾリス星へは行ったかい？」タイラーが口をはさんだ。

「ウワサで聞いたんだが。あそこにはマザーブレインが、もつとも苦手とする力を持った人物がいるそうだ。案外、そいつが真犯人かもしれない」

「タイラー、この人たちをデゾリスに連れて行ってやりなよ」

「ははは……そうくると思った。実はもうデゾリス行きの軌道に船をのせているのさ。すべては、このタイラー様の予定どおりだ」

——ところが、そのタイラーにも計算違いがあつたようだ。デゾリスに着いたとたん、シルカが船を降りると言い出したのだ。

「おいおい、どうしたんだい？　せつかく、うまくいつていたのに」

「いつも言っているでしょ。わたしは、なにものにも捕らわれないって。ただ宇宙にいるより、こっちの冒険のほうが刺激的だわ。それに、ユース君ってかわいいし……」
うーむ。また奇妙な仲間ができてしまったようだ。

↓90へ

128

ボクたちはボートで出発した。ウーゾ島までは5キロ程度だが、オンボロボートのエンジンの調子が悪く、ちょうど中間で敵に捕まってしまった。

巨大なハチの怪物——エムゴフェンサーが、海面すれすれに飛んできた。

「上にもいるわ！」

オレンジ色の光る球体が、その姿をゆらめかせて降下してきた。ビジョンスファイアだ！

エムゴフェンサーとビジョンスファイア 11+バトルP（1のー）

ユースたち 戦闘P+バトルP（2のD）で戦います。

●敵よりPが上

……………↓199へ

●下

……………↓173へ

129

なんとかネオ・マンモスをやり過ぎしたボクらの前に、ひとつの影が！
 自然と剣を持つ手に力が入る。

「アタシよお、アタシ！」

「シルカ！ いったいどこへ行っていたんだ、みんな心配してたんだぞ」

「チャハハ、メーongo。でも、おみやげ盗んで……ううん、持ってきたから許して」

シルカは指先でくるくると回していた帽子を、ヒョイと放ってよこした。

帽子のタグには、魔法の帽子マジックハットと書かれている（マジックハット入手）。

無事シルカももどってひと安心したところで、地図をたよりに……？

●アウクバルへ行く……………↓310へ ●アルテプラノへ行く……………↓300へ

130

昇降リフターのある曲がり角に出た。リフターは、さつきドックから上がった時に使ったヤツだ。

●南に進む……………↓153へ ●西に進む……………↓175へ

1 3 1

リフターでボクらは上の階へ。

リフターを降りると、そこはL字路になっていた。

●西に進む

.....⇩2 3 9へ

●北に進む

.....⇩2 2 4へ

1 3 2

また曲がり角に出た。

●西に進む

.....⇩1 0 9へ

●南に進む

.....⇩7 6へ

1 3 3

シユライムゼレは、口から毒液どくえきのようなものを吐はき出してきた。ボクたちは、慌あわてて近くのガラクタの陰かげに飛びこんだ。ゴミもたまには役やくに立つさ。

反撃はんげきだ！ ボクの剣けん、ネイのクローが向かってくるヤツを切り裂さき、ルドガーの銃じゆうが逃げようとするヤツにとどめを刺した（戦闘せんとうP、TPともにプラス1、プラス50メセタ）。

「あんさん方がた、何やってんのや？」

ゴミの山の上から、モタビアンたちが顔を出した。

⇩9 1へ

「あの角に怪物が待ち伏せているわ……」ネイが立ち止まりつぶやいた。彼女の感覚は、普通の人間より何十倍も優れている。

ルドガーが角に向かって、ショットガンを発射した。

「ぐげええええええええええつ！」

怪物が転がるように姿を現わした。カサのような頭と多くの触手を持ったヤツだ。体のあちこちから血が流れていた。

散弾が壁に跳ね返ることを計算したルドガーの射撃。さすがプロのハンターだ。

「チョーキンロットか。気をつけろ、諸君！ これくらいでくたばるような怪物ではないぞ」

そのとおりだった。チョーキンロットは、すぐに体勢を立て直し、襲いかかってきた！

チョーキンロット 7 + バトルP (1のB)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のJ) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 103へ ●下 …………… ↓ 64へ



L字の曲がり角に出た。

●東に進む …………… ↓162へ ●北に進む …………… ↓115へ

「ユ、ユーシス……」ネイが消え入りそうな声で言った。

「わたしは、もうダメ……」

「何を言うんだ！ まだ大丈夫さ」

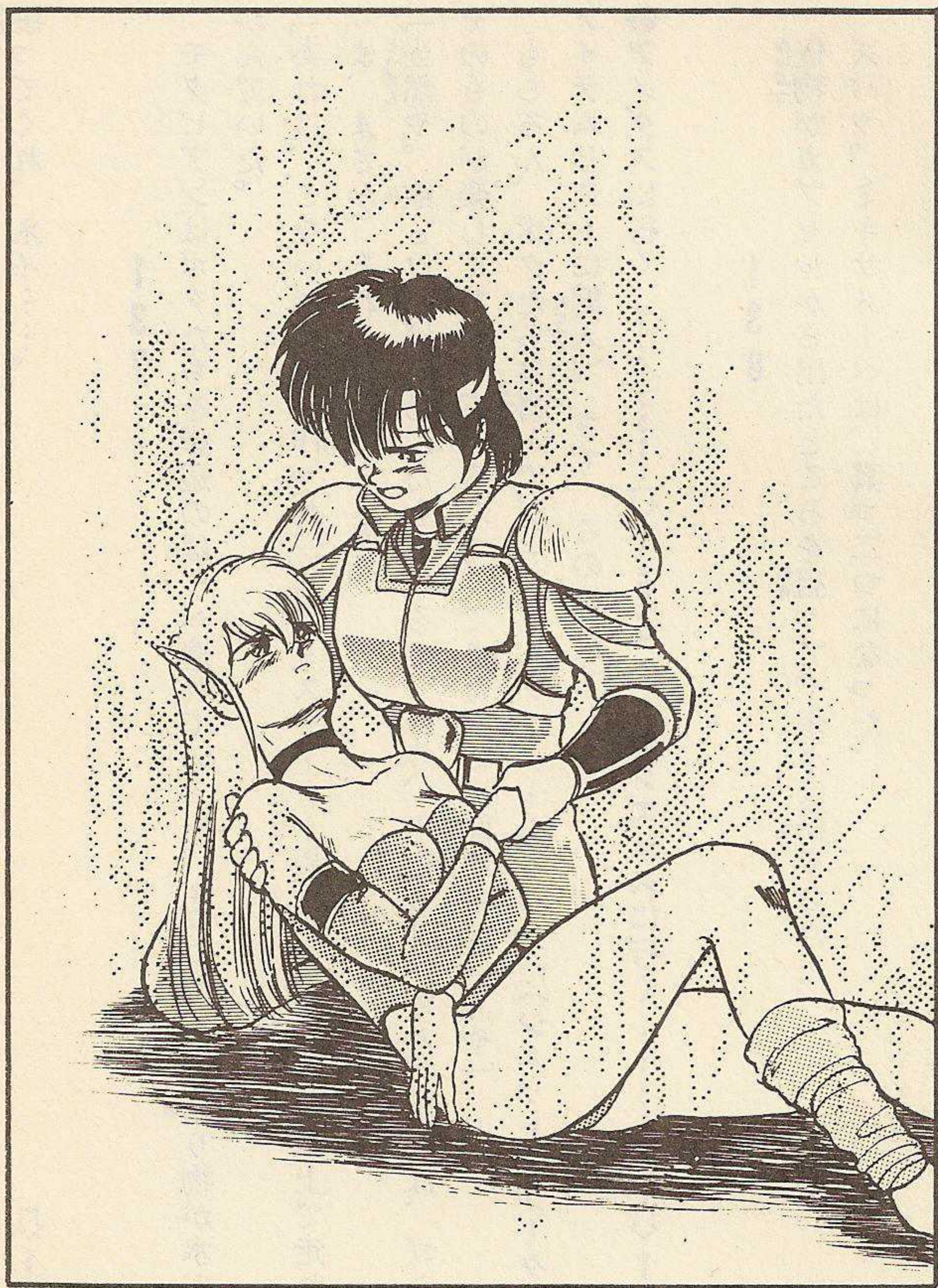
しかし、ネイはこちらの声が聞こえないようだった。目がうつろだ。

「ユーシス、お願い。わたしたちみたいな悪魔あくまを、二度と作らないって約束やくそくして。わたしも姉ねえさんも、自然しぜんにはありえない生き物。特殊とくしゆな細胞さいぼうのため、クローン再生さいせいもできないわ。だから、生き返らそうなんてしないで、このままモタビアの土うに埋めてね……。平和なアルゴルで、みんな幸せになつてね……」

「ネイ!!」

だが、彼女は2度と返事をしなかった。

ネイ……ネイ。ボクは、何度もその名前を口にした。たった7カ月の間だったけど、彼女はボクの妹いもうとだった。家族かぞくのいないボクにとって、たったひとりの肉親にくしんだった。安らかに



136●ネイは2度と返事をしなかった。彼女はボクにとって、たったひとりの肉親にくしんだった。安らかに眠やすってくれ……ネイ。

眠^{ねむ}つてくれ、ネイ……。

↓159へ

137

モタビアンはボクたちを岸^{きし}辺^べのほうへ連れていった。そこには赤い乗^のり物が水の上に浮^うかんでいた。

「あれは、こないだわてが作ったジェットスクーターや。水上を100キロ以上で走れるで」
「ま、まさか、あれもゴミで……？」

「当然^{とうぜん}や。欲^ほしければ、あんたらにやるで。いや、別に金はいらん。わいは、ゴミいじりそのものが楽しくてやっっているんで、できた物には関^{かん}心^{しん}がないんや」

もちろん、ボクたちは喜^{よろこ}んでジェットスクーターをもらった(ジェットスクーター入手。
アイテムリストに記^き入^{にゅう})。さて、この後は、

●アメダスに行く……………↓156へ ●クエリスに行く……………↓108へ

138

怪物^{かいぶつ}がカプセルから出たところを狙^{ねら}って、ボクは斬^きりつけた。
ズバツ。ミキサメーベは、真^まつ二つになった。

「やったか!? ——うわっ!」

ふたつになつた怪物は、それぞれもとの形に復元した。ヤツはボクに斬られたんじやない、ただ分裂したただけなんだ!

2匹になつたミキサメーベは、いつきに飛びかかってきた! うわっ! 毒でもあるのか、こいつらの体に触れたとたん、手足がしびれた(HPマイナス2)。

「ユーシスさん!」

アンヌがミキサメーベにメスを投げた。おかげで怪物どもが離れた。

そこにルドガーがショットガンを発射! バラバラになつたミキサメーベは、白い煙をシュウシュウとあげ消えていった。

「サンキュウ。怪物め、今度こそくたばつたか」
その後、L字路を、

●西に進む……………↓209へ ●北に進む……………↓83へ

139

「おそろく、あそこには」ルドガーが、床に伏せながら銃を撃つた。

女神像の背後にある彫刻が砕け散った。女神像の姿が一瞬消え、また姿を現わした。

「やはり、エネルギーの投射装置があつたか……。しかし、バックアップがすぐに働くよ

うだな。みんな、あの辺りを攻撃するんだ」

さらにルドガーは、撃ち続けた。

「や、やめろ！ わたしをこれ以上怒らせるな！」

「怒らせると、どうなると言うんだ」

唐突に女神像の体が、空洞になった。そして、そこには——宇宙が！ アルゴルの3つの惑星の姿があった！

マザーブレイン 36 + バトルP (1のJ)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 3 3 1 へ ●下 …………… ↓ 3 9 7 へ

140

ボクたちの乗ったリフターは、2階で止まった。

「この階止まりか……」リフターを降りると、すぐにL字の曲がり角になっていた。

●東に進む …………… ↓ 1 6 3 へ ●北に進む …………… ↓ 9 7 へ

141

アーミアがスライサーを放った！ 宙返りでそれをかわしたネイ・ファーストは、大き

く左手を振り上げた。

ヒュツ！ 風をきって飛んでくる爪！

ボクたちはバラバラに散って、それをかわした。

だが、敵はそんなじよそこのザコじゃない。すかさず、ボクの真上に飛び上がっていた。そして、その手には必殺のライト・セーバーが！

「死ね！」

ネイ・ファースト 14 + バトルP (1のB)

ユーシスたち 戦闘P (現在の戦闘Pから3を引く) + バトルP (2の1) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 207 へ ●下 …………… ↓ 161 へ

142

キャリアの背中が裂け、黄色い触手が何本も飛び出した。それが、いきなりボクたちを捕らえた。さつきボクを打ったのは、この触手か。

「こいつは、ラストロットだったのか！」ルドガーが叫んだ。

そういえば聞いたことがある。キャリアの体に別のバイオモンスター、チョーキンロットが棲みついて、よりパワーアップしているという怪物のことを。それがこいつだったのだ！

いかん、目がまわる！ この触手には毒があるようだ。体の自由を奪われたボクたちは、ラストロットの強力な牙の犠牲になった。

END

143

ヒュンツ！ 怒りに燃えたアーミアのスライサーが、ネオニルソニアの枝葉を落とす。敵もビームを放ってくるが、アーミアはおかまいなしにスライサーを投げ続ける。彼女、怒らせると結構怖いんだよな。

「とどめよ！」

ついにネオニルソニアは、アーミアの猛攻の前に、ただの木片になってしまった（戦闘Pプラス1、TPプラス1、60メセタ入手）。

「さ、すつきりしたところでまいりましょ」

ボクらは、ちよつとばかりあきれつつアーミアに続いた。

⇩201へ

144

ボクたちはボートでドーナツ湖に乗り出した。ボートは道具屋の言うとおりオンボロだった。スピードは出ないけど、水がもれないだ

けマシつていうところか。

「あの島ですか、アメダスがあるのは？」と、アンヌ。

「そのはずだけど……。変だな、あんな小さな島にアメダスの設備が収まるのかな？　まあ、行ってみればわかるか」

「その前に、あのぶっそうなお迎えをなんとかしなくちゃね」アーミアが空を見上げた。凧のような翼を広げた怪物が、上空をくるくるまわっていた。カイトカインドというバ
イオモンスターだ。

水面には、シーシザースというエビの怪物の姿が見える。こいつはまずい。

カイトカインドとシーシザース 12+バトルP (1のH)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓171へ ●下 …… ↓123へ

145

「潜水用具をお探して？　お客さん方、運が良いですよ。ちょうど昨日、潜水艇が手に入
ったばかりでさ」道具屋のお兄さんは、もみ手をして言った。

「潜水艇だつて？」

「もちろん本物ですぜ。モタビアンが作ったもんですけどね。今ならたったの150メセ

タ。どうですか？ 安い買い物だと思えますがね」

●買う……………↓168へ

●買わないで、ほかに情報を集める……………↓35へ

146

テレポルト・センターを利用して、パセオからゼマ郊外に飛んだ。アメダスに行くには、こつちが近道だ。もつとも、アメダスの正確な位置はわからないけど、それはゼマ市内のライブラリイで調べられるはずだった。

ボクたちはテレポルト・センターのある緑地帯を抜け、市内に通じる小道を進んだ。ちようど橋を渡った所で、またしてもバイオモンスターが現われた。

地面の中から、巨大な灰色のアーリー——パンツァアント。立ち木の間から、やはり2メートルを越すカマキリ——グラスアサシンが姿を見せた。

パンツァアントとグラスアサシン 10バトルP（1のJ）

ユーシスたち 戦闘P+バトルP（2のF）で戦います。

●敵よりPが上……………↓75へ ●下……………↓169へ

147

「まるで栄養失調だな」

カインズが言ったように、バンブーはヒョロ長いだけで、強そうには見えない。よし、まずはこいつから片づけよう。

ボクは全身に力をみなぎらせると、バンブーの胴体めがけて斬りこんだ。

ところが、思ったより強敵だ。ヤツはその体に似合わず、何度打ちかかっても、ビクともしない。

ぎらり。ヤツの目が赤く光ったかと思うと、殺人ビームが飛び出した！

「くわあっ」全身に衝撃が走る！（HPマイナス2）

●TPが9以上ある ↓92へ ●8以下 ↓121へ

148

また分かれ道だ。

●南に進む ↓88へ ●北に進む ↓122へ

●東に進む ↓8へ

「長引けば不利だ、テクニックを使おう！」

ボクはシビれる体をなんとか立て直すと、ギグラブトを使った。

メキメキメキ！ 異常な重力を生み出すギグラブトに耐えきれず、バーンウルフの体が地面にめりこむ。

ぼてっ！ アツという間にレプタイルカイトも地面に叩きつけられ、巨大な押し花ならぬ、押し翼竜ができあがった（TPマイナス2、戦闘Pプラス1、60メセタ入手）。さあ、博士のもとへ急いで帰ろう！

↓243へ

デホがビームを放ってきた。

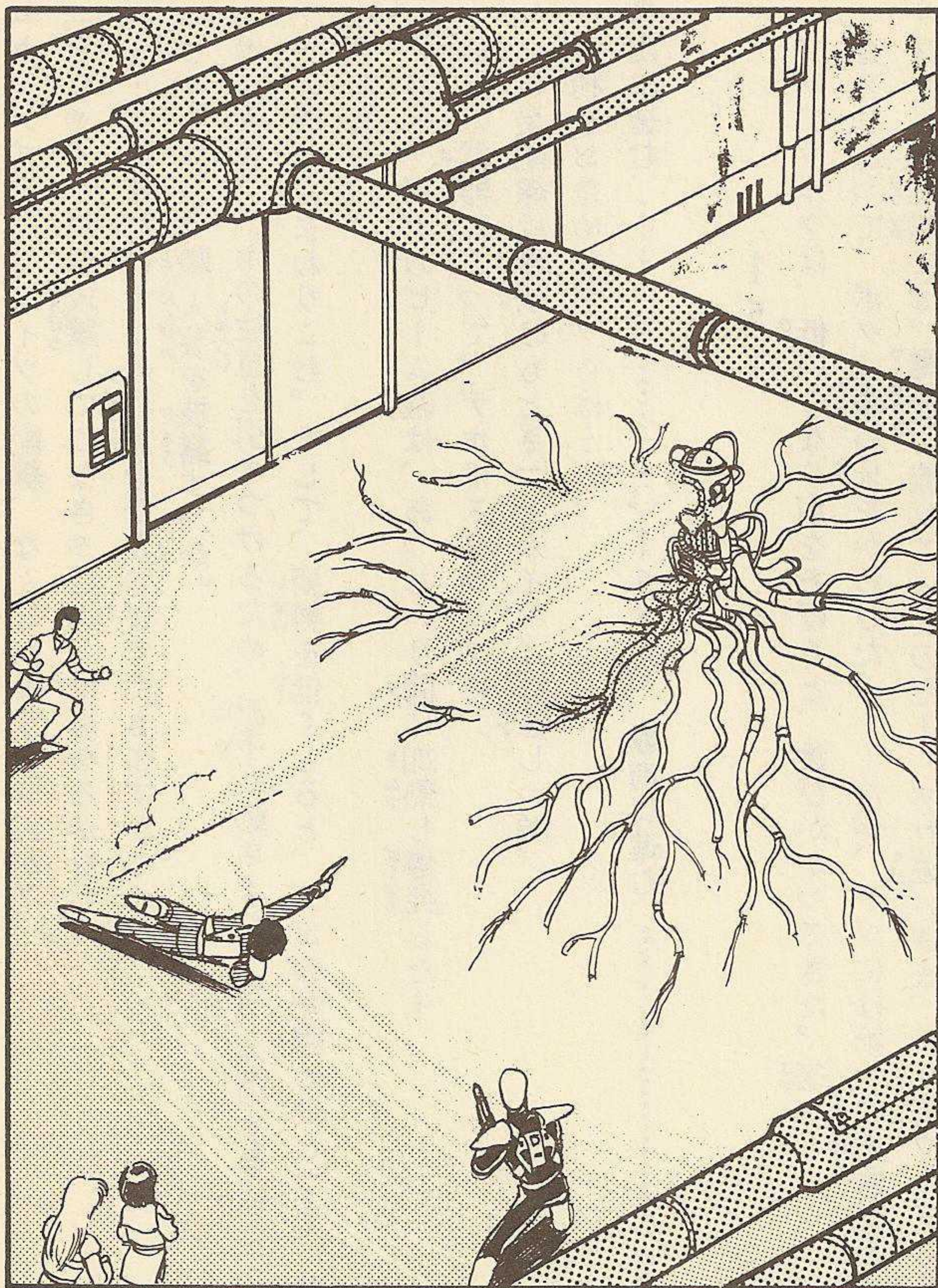
ボクたちの周囲に、何本ものビームが降りそそいだ。

1発でも当たれば命はない。どうする？

『ユースス……』

ネイの顔がよぎった。そうだ、彼女の死をムダにしないためにも、こんなところでぐずぐずはしてられない。

あのヤツの配線さえ切ってしまえば……そうだ！



150●デホが放ってきたビームを、横っ飛びでかわした。ヤツの注^{ちゅう}意をそらしているうちに、カインズが近づいていく。

「カインズさん、アイツの配線、なんとかありませんか？」

「そりゃ、ヤツが攻撃してこなきやなんとでもなるがな」

「……できるだけヤツの注意をひきつけておきますから」

「しやーない。職人芸を披露すつか」

ボクらは、デホの注意を引きつけるため、派手に動きまわった。そのすきにカインズは、ヤツの後ろにまわりこむ。そして、姿勢を低くとると、デホの配線のひとつを、サつとつなぎかえた。

すると、デホのビーム砲は、あつという間に加熱し爆発した！

自らの武器によって、デホはスクラップに。

「タコ足配線は事故のとき」とカインズは涼しい顔。

勝利をおさめたボクらは……。

●西に進む …………… ↓ 198 へ ●南に進む …………… ↓ 278 へ

151

フレアウルフは、低いうなり声をあげると、跳びかかってきた。速い！

身をひねって、ボクは鋭い牙をかわした。——だが、ヤツには第2の武器があった。フ

サフサした尻尾には、電流が流れていたのだ！ すれ違いざま、フレアウルフはそれを叩

きつけてきた（HPマイナス1）。

「うわっ！」

倒れたボクめがけて、怪物がまた跳んだ。

「ユース、危ない！」ネイも跳んで、空中で怪物を捕らえた。フレアウルフの腹にクロ
ーを突き刺すが、体重差で弾き飛ばされる。

「来い、おまえの相手はボクだ！」

立ち上がるや否や、ボクはフレアウルフの頭を叩き斬った！ ヤツは血を噴き上げ、そ
の場にくずれ落ちた。

「大丈夫かい、ネイ」ボクは妹を抱き起こした。

「ええ」彼女はにっこりと微笑んだ。

この先、ボクたちは、

●西に進む……………↓193へ ●北に進む……………↓223へ

152

「いらっしやい。何が欲しいの？」

○レーザークロー 60メセタ（ネイ用の武器）

○レーザースライサー 80メセタ（アーミア用の武器）

○レーザーショット 80メセタ (ルドガー用の武器)

(買った物の値段ねだんを持ち金から引くこと。ひとつ買うごとに戦闘せんとうPプラス1)

●道具屋どうぐやに行く……………↓126へ ●街まちで聞きこみをする……………↓104へ

●ゼマを出す……………↓73へ

153

進んでいくと、T字路じろに出た。

●南に進む……………↓115へ ●東に進む……………↓174へ

●北に進む……………↓130へ

154

ウーゾ島はクエリスの沖おき、約5キロにあつた。ジェットスクーターのスピードをもつてすれば、目と鼻の先だ。

途中とちゆう、海と空からバイオモンスターの襲撃しゆうげきがあつたが、なんなくそれらを突破とつぱし、ボクたちはウーゾ島に上陸じようりくした。

↓227へ

155

T字路じろに出た。

●東に進む

.....

⇩198へ

●南に進む

.....

⇩217へ

●北に進む

.....

⇩180へ

156

それから間まもなく、ボクたちはドーナツ湖この中央ちゆうおうにある島とうちやくに到着した。途中でバイオモンスターこうげきの攻撃があつたが、ジェットスクーターは矢やのようなスピードで走り、軽くヤツらをぶつちぎってしまった。とてもゴミからできた代物しろものとは思えない性能せいのもうだ。

「ねえ、本当にこの島にアメダスがあるの？」

「そのはずだけど……おかしいな」

ボクたちは、それらしきものを探さがしまわった。しかし、建物たてものはおろか、洞穴ほらあなひとつ見つかからない。目ざすものが見つかからないだけならいいが、その島にいたバイオモンスターの奇襲きしゆうを受けて、ボクたちはダメージをくらってしまった（HPマイナス2）。

「これはまずい。いったんもどろう」ボクたちは、再びジェットスクーターに飛び乗のった。今度は、ゼマの隣となりにあるクエリスに向かう。

⇩108へ

体力アップの薬を買うため、道具屋に立ち寄った（なぜか道具屋でも薬を売っているのだ）。

○モノメイト 20メセタ（HPをアップさせる）

○スターアトマイザー 50メセタ（HP、TPをアップさせる）

（買った分の値段を持ち金から引き、アイテムリストに記入）

●アメダスに向かう……………↓203へ ●武器店に行く……………↓182へ

シユライムゼレは、口から液体を吐いた。毒か!? ちくしよう、体がしびれはじめたぞ（HPマイナス1）。

「ユース君!」ルドガーがボクを抱えて、近くのガラクタの陰に飛びこんだ。

「ヤツら、もう引き上げたみたいよ」アーミアがガラクタのすき間から様子をうかがった。

「ユース、大丈夫?」ネイがボクの手を握った。

「ああ、なんとかね。——それより、本当に怪物はもう行ったのか? まだその辺にいるんじゃないのか?」

ガタンと、何かが落ちる音がした。すかさず武器をかまえるボクたち。

「ま、待^まっておくれや！ わいは、怪物やおまへんで」ガラクタの山のとつぺんから、大きなネズミが顔を出した。
 なんだ、モタビアンか。

159

アメダスからパセオにもどったボクたちは、ネイの吊^{とむら}いをした。本人の希望^{きぼう}どおり、モタビアの大地にもどしたのだ。

それが終わると、詳^{くわ}しい報告^{ほうこく}をしにモタビア総督^{そうとく}のいるセントラル・タワーを訪^{おとず}れた。
 おや、何か玄関^{げんかん}が騒^{さわ}がしいぞ。

「た、大変^{だいぜん}だあ！」いきなり、入り口の所でわめいているタワーの職員^{しよくいん}と出くわした。

「湖^{みずうみ}の水があふれる！ アメダスで事故^{じこ}があつて、本当なら雨になる水が全部湖に流れこんでしまったんだ。このままだと、モタビアは水びたしになるぞ！」

なんだって!? ——ボクたちは、急いで総督の部屋^{へや}にあがった。

「ユーシス君、大変なことになった。アメダスがつい先ごろ爆発^{ばくはつ}してしまったのだ」

もしや、ネイ・ファーストが死んだ後、使われなくなったエネルギーが急にアメダスのシステムに流れこんだためでは……。ボクは、アメダスであったことを総督に説明した。

「そうか……。しかし、バイオモンスターの件が片づいたと思えば、いきなりこの騒^{さわ}ぎだ。

せめてダムが開けられれば、最悪の事態は避けられるのだが、あいにくコントロールが効かないのだ。誰かが直接開けに行かなければ」

「ボクにそれをやらせてください！」

「うむ……しかし……」総督は、顔をくもらせた。「実に残念なことだが、パルマ政府はマザーブレインを狂わせた犯人として、キミたちの名前をあげた」

「な、なぜです!? いったい、どうして!?」

「わからん……わからんが、逮捕命令が出ているのは事実だ。もはや、わしの——人間の力ではどうにもならん。セキュリティシステム——ロボット警察は、やつきになってキミたちを探している。今、目立つことをするのは危険だ」

「でも、家でじつとしてたつて、捕まってしまうことに変わりありません。それだったら、ボクはダムを開けに行きます。……それにこの事件の背後にも、何かか潜んでいるに違いありません。モタビアを破滅させようとする何かか。ボクは、それを突きとめたい！」

「そうか。ならば何も言うまい。気をつけてな」

⇩194へ

160

ボクらは、大樹の陰で一休みすることにした。

「ちよつと！ ルドガーさん、人のヒップに触るのお止めになつて！」

「ああ？ 私は何もしてないが……」

「うそ！ むつつりスケベってあなたのこというんだわ。ほら、この手はなあに？」

「ア、アーミアさん！ 逃げろ！」

なんと、アーミアがルドガーの手だと思っていたのは大木の根で、しかもそいつはバイオモンスター、ネオニルソニアだったのだ！

「このスケベモンスター！ お礼はさせてもらおうわよ！」

アーミアがスライサーをかまえた。

ネオニルソニア 12 + バトルP (1のG)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓ 1 4 3 へ ●下 …… ↓ 1 1 2 へ

161

ライト・セーバーが、ボクの肩をかすめた！ 焼けつくような痛みが走った！ (HPマ
イナス3)

「運のいいヤツだね。だが、今度は逃がさないよ！」

ネイ・ファーストがまた跳んだ！

ネイ・ファースト 14 + バトルP (1のG)

ユーシスたち 戦闘P (現在の戦闘Pから3を引く) + バトルP (2のD) で戦います。
 ●敵よりPが上 ↓ 207へ ●下 ↓ 237へ

162

T字路に出たが、東側の通路は途中で行き止まりになっている。

●東に進む (キーチューブを持っている場合のみ) ↓ 233へ
 ●西に進む ↓ 135へ ●北に進む ↓ 193へ

163

進んで行くうちに、ボクたちはT字路に出た。

●北に進む ↓ 53へ ●南に進む ↓ 209へ
 ●西に進む ↓ 117へ

164

「よし、テクニックを使うんだ！」

ボクは力を振り絞り、ナフォイエの呪文を唱えた。

ゴ———！ 正義の炎は、魔剣リビングブレードを包みこむと、アツという間にドロ

ドロにしてしまった(TPマイナス4。200メセタ入手)。

「さあ、長居は無用、早くここを抜け出そう！」

●B地区へ行く……………↓12へ ●C地区へ行く……………↓22へ

●左のビルへ行く……………↓280へ

165

ロボット警察の切札——アーミーアイ。

それは、大小のドームを2個、はり合わせたようなメカだった。下部の小さなドームを回転させ、床から1メートルほどの所に浮かんでいる。

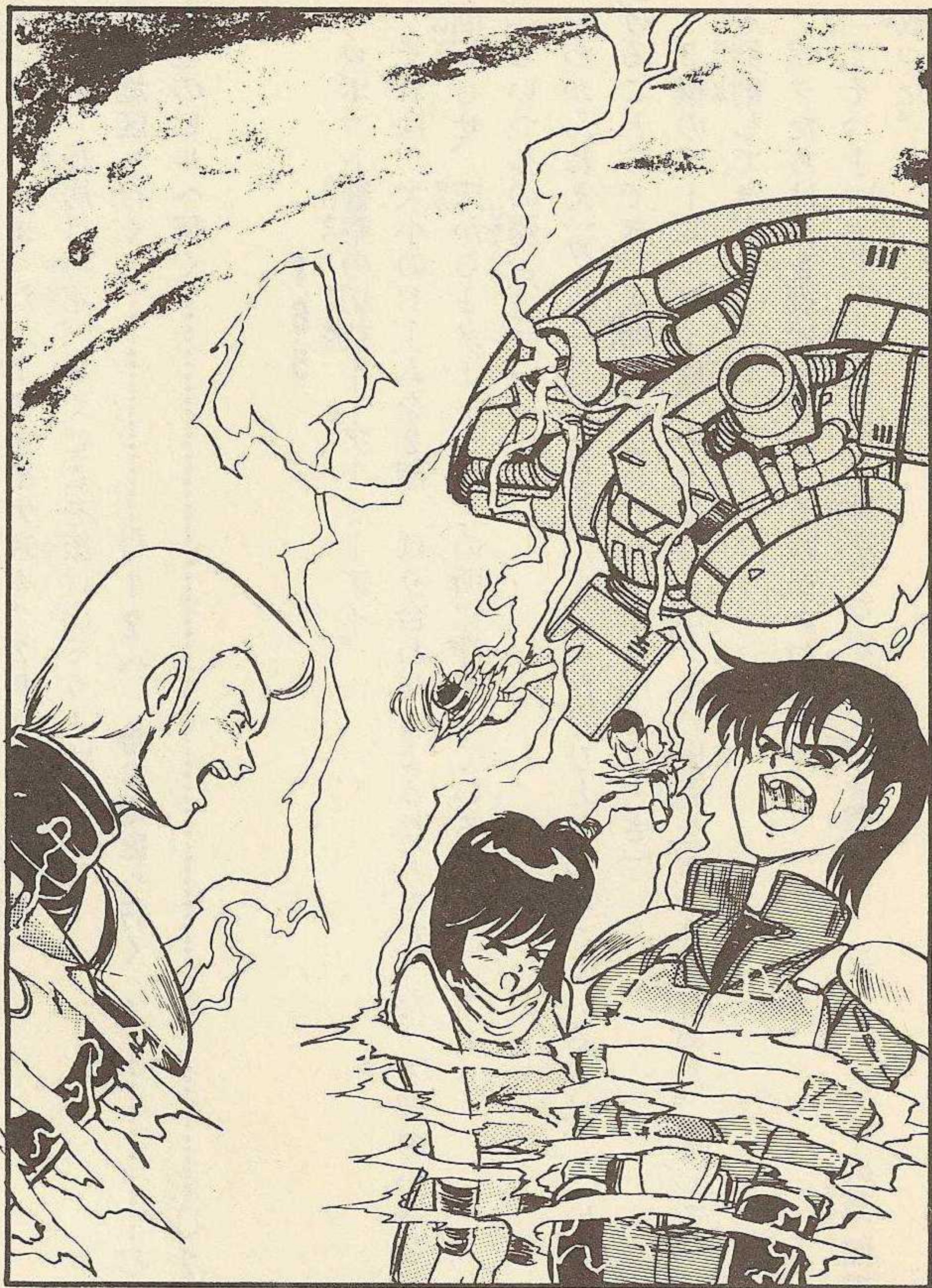
「こいつらの弱点は？」

「わかんねえ」カインズは、首を振った。「ただひとつわかっているのは、こいつらから逃げることでできた人間は、ひとりもいねえってことさ」

3機のアーミーアイは、ゆっくりとボクらの周囲をまわりはじめた。そして、レーザーを発射してきた！

ボクたちは身を投げ出して、それをかわした。

「くそっ！」ルドガーが、床を転がりながら、銃を撃った。アーミーアイの表面で火花が散った。



165●アーミーアイはプラズマリングを飛ばしてきた。それは、ボ
クらの体をくくり、自由を奪った。逃げられないぞ！

さらに、アンヌのメス、アーミアのスライサーが、敵ロボットを直撃ちよくげき！

よし！ ボクは満身まんしんの力をこめて、剣けんを振り降おろした！

だが——これだけの攻撃こうげきを受けても、アーミーアイは倒たおれなかった。こいつら、いったい何なにでできているんだ!?

驚おどろくボクたちに向むかって、アーミーアイはリングを飛ばしてきた。それは、ボクらの体をくくり、自由じゆうを奪うばった。

「ちっ！ プラズマリングだぜ。こりゃ、も……うダメ……」

カインズの声は途中とちゆうでとぎれた。ボクたちは、アーミーアイの出ですガスに眠ねむらされてしまった。

↓250へ

166

「せっかくマルエラリーブが手に入いったんだ。こんなところで死しんでたまるか！」

バーンウルフとレプタイルカイト 13 + バトルP (1のE)

ユースたち 戦せん闘P + バトルP (2のI) で戦たたかいます。

●敵よりPが上 …………… ↓221へ ●下 …………… ↓184へ

ボクたちは、ダイナマイトを使った。一瞬のうちに、鋼鉄製のドアがけし飛ぶ。

「何かいるわ！」

爆煙の中でうごめく大きな影。トカゲをずんぐりさせたようなバイオモンスター、キャリアだ！ そいつは、飛び散った破片もものともせず、ボクたちに向かってきた。

キャリア 10 + バトルP (1のF)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のI) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓60へ ●下 …………… ↓86へ

道具屋に金を払い、ボクたちは潜水艇を手に入れた(マイナス150メセタ)。さっそく

湖までくり出し、出発する。

「島まであと3キロ……。待って、何か近づいてきたわ。たくさんいる！」ソナーを操作していたアンヌが言った。

「バイオモンスターか？ よし、ライトをつけるんだ」

潜水艇の頭にある水中ライトが、前方を照らした。湖底からエビの化け物——シー

シザースどもが浮上してくるのが見えた。

シーシザース多数 11+バトルP (1のE)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP (2のI) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓113へ ●下 …… ↓188へ

169

ルドガーが、パンツアアントに向けて銃を発射した。銃声とともに、土ぼこりが舞う。怪物アリの姿は消えていた。

「地中に潜ったか！」

グラスアサツシンのほうは、ボクめがけてまっしぐらに襲いかかってきた！ 3メートルもの高さから巨大なカマを振り降ろしてくる。

ガチッ！ ボクは、その攻撃を剣で受け止めた。グラスアサツシンのカマをはねのけ、胴体を切りつけた。怪物は奇怪な声をあげて跳びすさった。

後退しながらも、グラスアサツシンは、カマを投げてきた！

うわっ！ 鋭い刃が、ボクの肩をかすめた。防具が裂け、血がふきこぼれた。かすめただけでこの威力だ。もし、まともに喰らっていたら…… (HPマイナス2)。

アーミアが前に出たところを狙って、怪物はもうひとつのカマを投げてきた。「危ない！」

だが、彼女はすつと首をそらすだけで、その攻撃をかわした。

「わたくしの前でそんな技を使うのは、10年早くてよ」

アーミアの手から、三日月型をした刃物が飛んだ！ スライサーだ！ その必殺の武器は、一撃でグラスアサツシンの首を切り落とし、彼女の手にもどってきた。

振り向けば、ちようどルドガーとネイが地中からパンツアアントを引きずり出し、しとめたところだった（戦闘Pプラス1、プラス50メセタ）。

↓190へ

170

ミゾランガンマは、頭をぐるぐるまわしながら、ビームを発射！ クモのような足をうごめかし、ボクたちめがけてゆつくりと近づいてくる。

接近戦にもちこむしかない。ボクは捨身の戦法で、ヤツの足元に転がりこんだ。細い金属の足を剣でなぎはらった。

ミゾランガンマの大きな頭はバランスをくずし、自分の胴体にビームを浴びせた。火花を散らし、くずれ落ちる。

振り向くと、ルドガーとカインズが共同で、バンブーを片づけたところだった。そのバンブーの残骸をどかすと、ダムのコントロール装置が姿を現わした。

●カードを持っている……………↓200へ ●持っていない……………↓231へ

アーミアの投げたスライサーをかわし、カイトカインドが急降下！ ヤツの鋭い爪が、ボクたちを襲った！（HPマイナス）

くそ、このボートの上じゃ、ろくに反撃もできやしない。

突然、ボートがぐらりと揺れた。シーシザースの体当たりだ。

「大変！ 浸水してきたわ！」

「このままじゃ、不利だ！ 引き返そう」

怪物どもの攻撃を受けつつも、ボクたちはなんとか岸にたどり着いた。

⇩197へ

「やつと見つけたぜ。きれいなねーちゃんと、悪いヤツらをやっつけてまわってるってのは、あんただろ。なんで、オレに声をかけねえんだ」と、赤い服の男が言った。

「あなたは？」

「オレ？ ああ、いけね、自己紹介を忘れていた。オレはカインズ・ジ・アンっていうんだ。ホントはエンジニアになろうと思ってたんだけど、オレの触った機械はみんな壊れちまいやがる。しかたがねえから、今はジャンク屋よ。ねとねと、じめじめの生き物は勘弁してもらいたい、メカをぶち壊すのなら任せてくれよ！」

ここでカインズは、ちらりとアンヌやアーミアのほうを見た。

「誤解ごかいのないよう言っておくけど、オレは紳士しんしだからな。女の子も安心あんしんして旅たびができるぜ」
やれやれ、よくしゃべる男だな。でも、メカ相手の戦いには、十分戦力じゅうぶんせんりょくになりそうだ。
カインズを仲間なかまにしたボクたちは、ダムたてものの建物たてものに突入とつにゅうした。もちろん、中はとてつもな
く広い。早く、コントロール装置そうちにたどりつかなくては……。まず最初さいしょのL字路じろを、

●南に進む……………↓258へ ●西に進む……………↓235へ

173

ビジョンスフィアが稲妻いなずまを落とし、エムゴフエンサーが針はりを放ってきた！

ボートの上では逃のがれようがない。ボクたちは一方的こうげきに攻撃された（HPマイナス1）。
飛び去る怪物かいどうどもに、ルドガーが銃じゆうを撃うつたが、それは焼け石やいしに水みづだった。
さんざんな目にあいながらも、何とかボクたちはウーゾ島じょうりくに上陸した。 ↓227へ

174

T字路に出た。いったい、アメダスのコントロール室はどこにあるんだ？

●南に進む……………↓193へ ●北に進む……………↓205へ
●西に進む……………↓153へ

175

L字の曲がり角に出た。

●南に進む …………… ↓ 229 へ ●東に進む …………… ↓ 130 へ

176

「行き止まりか……」

誰も口にくそ出さないが、あせっていた。

「ねえ、この取っ手みたいなのなにかしら」

アーミアが壁からつきでた小さなノブのようなものを、引っぱった。すると、そこは金庫こになっており、その中には、ダムを開けるための制御カードせいぎよが入っていた（カード入手。ただし、初めてここに来た人のみ）。

カードを手に、ボクらはさっきの十字路じゆうじろまで引き返した。 ↓ 198 へ

177

ボクたちの見ている前で、ネイとネイ・ファーストは戦いはじめた。

ね、姉さんあねだつて!? ネイは、もともと自分と一緒いっしょだつた姉と戦おうというのか! ボクたちは、その異様な迫力いはりよくを前にして動けなかった。かたきをやつと見つけたルドガーに

しても、銃をかまえようとしなかった。

ネイとネイ・ファーストは、1秒たりとも同じ所にいなかった。猛スピードで跳び、鋭い特製の爪で互いの喉笛を狙う。並の人間では捕らえることができない超高速の戦い！空中でふたりが激突！ネイ・ファーストの右手から、クロールが弾け飛んだ。さらに着地の体勢をくずすファースト。

すかさずネイのクロールが、ファーストの喉を貫いた！ やったぞ！

だが——突然、ネイは体をくの字に曲げた。彼女の背中から、光る剣が飛び出していた。ネイ・ファーストが死際に、ライト・セーバーを突き立てたのだ！

「ネイ!!」ボクは、血まみれの彼女のもとに駆け寄った。

「こ、これで良かったのよ……。もともとわたしたちは、同じ存在。たとえば、わたしが勝つたとしても、ファーストを殺すことは自分を殺すことなの……」

↓136へ

178

たちこめたガスのため、3メートル先でさえかすんで見えない。

ボクらは用心深く、奥へ奥へと進んだ。

しばらくすると、その白いもやの中に、うつすら銀色に光る物が見えてきた。それは諸刃の剣だった。

● 剣を拾う^{ひろ} ↓ 228へ ● 拾わない ↓ 251へ

179

「さて、これからどっちに行こうか？」

● ゼマの隣^{とな}りにあるクエリスへ ↓ 108へ

● アメダスへ（ボートを持っている場合のみ可能^{かのう}） ↓ 144へ

180

進んで行くと、T字路^{じろ}に出た。早く放水^{ほうすい}しないと、モタビア中が水びたしになるぞ。

● 南に進む ↓ 155へ ● 東に進む ↓ 258へ

● 北に進む ↓ 235へ

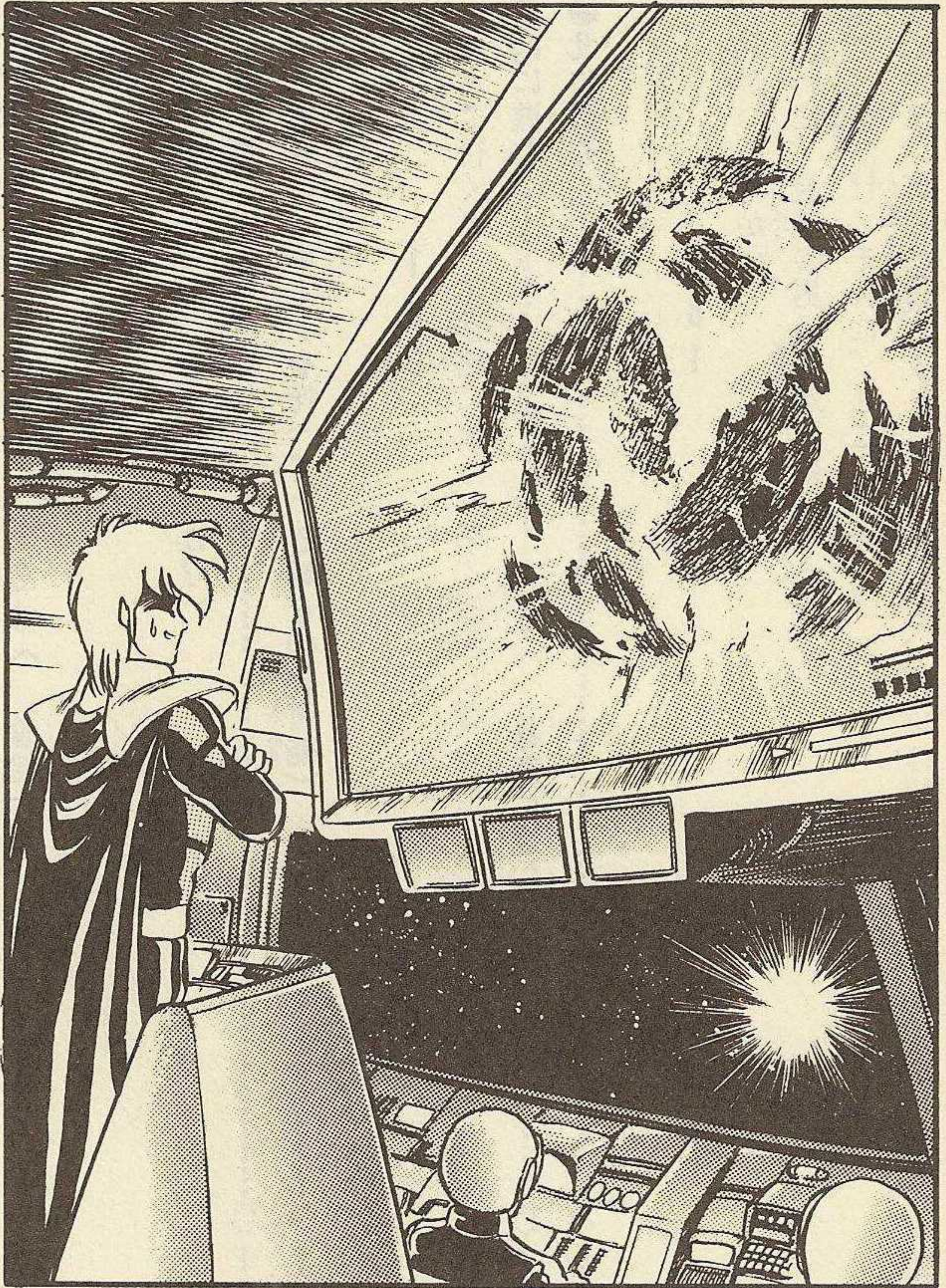
181

「気がついたか」

ふいに、金髪^{きんぱつ}の男の姿^{すがた}が目に入った。

「だ、誰^{だれ}だ!? それに、ここは!?」

「オレは、宇宙海賊^{うちゅうかいぞく}のタイラー。ここは、オレの船の中だ。キミらは、『ガイラ』に閉じこ



181●スクリーンに映っていた青い星が砕け散った。何千年もの間、アルゴル太陽系の中心だったパルマ星の最期だ……。

められていたんだろ。ちよūdど近くを通りかかって良かつたよ。キミの仲間たちも今、再生装置にかけている。じきに目覚めるだろう」

「そうだったんですか……運が良かつた」

「たしかに、運は良きそうだな。おまけに、これからショーが始まるころだし……」
 タイラーは、壁のスクリーンを指さした。そこには、青々とした星——パルマ星が映っていた。だが、それは次の瞬間、こつぱみじんに砕け散った!!

「パルマ星の最期だ。我々の祖先が生まれた星。そして、何千年もの間、アルゴル太陽系の中心地だった星のな」

ボクは、たつた今日にした光景が信じられなかつた。

「な、なぜ、パルマが？」

「星全体にエネルギーを供給していた反応炉が、おかしくなったのさ。何か月も前から小さな事故が重なっていたのに、誰も危険だとは思っていなかった。マザーブレインに任せれば大丈夫と考えていたんだ」

「ここもマザーブレインが……」

「そういえば、マザーブレインを狂わせた犯人がいるとか。ユーシスという男だそうだけど」突然入ってきた女がそう言った。

こいつら、ボクを売る気か!?

↓127へ

アメダスには何が待ち受けているかわからない。装備を追加するため武器店を訪れた。

○ストームギア 50メセタ (頭の防具)

○セラミックシールド 60メセタ (セラミック製の盾)

○レーザーソード 60メセタ (レーザー剣)

(買った分の値段を持ち金から引き、アイテムリストに記入。ひとつ買うごとに戦闘PP
ラス1)

●アメダスに向かう……………↓203へ ●道具屋に行く……………↓157へ

ポリツアイは、ヒザから小型ミサイルを発射してきた!

慌ててボクたちは、床に伏せた。ズガンという音とともに、背後から爆風が押し寄せ
てくる。くそ、なんて物騒なヤツだ。

ロボットは、再び発射の体勢をとった。すかさずアーミアが、スライサーを投げた。ま
さに飛び出そうとするミサイルの弾頭を切断! ポリツアイは自爆した!

「まったく、場所を考えて武器を使って欲しいものね。——さて、どちらに行きます?」

●西に進む……………↓180へ ●北に進む……………↓204へ

184

ビリビリビリ!

「うわあああ!」(HPマイナス1)

バーンウルフに斬りかかったはいが、ヤツの電撃をくらってしまった。
そのうえ、頭上からはレプタイルカイトの猛火が迫る。

●TPが6以上ある……………↓149へ ●5以下……………↓213へ

185

今度はT字路に出た。

●東へ進む……………↓202へ ●南へ進む……………↓110へ

●北へ進む……………↓263へ

186

「ことは一刻をあらそうんだ。できれば、このままいつきに登ってしまいたいんだけど」
「お嬢さんがた、肩を貸そうか?」ルドガーが手をさし伸べる。
「……ちよつとジョークを言っただけなの。こんな坂道、なんともないわ。さ、行こう」
アンヌが強がる。その横でアーミアもうなずく。

普通の女の子ならとうにギブアップしているはずの、けわしい山道。頼もしいレディたちだ。

「ネイ、キミは大丈夫？」

「あたしは……。普通の人間じゃないから平気よ」

彼女は笑顔で答えてくれたが、横顔には、ちよつときびしそうな影が浮かんでいた。ともかくボクらは頂上をめざした（HPマイナス1）。
⇩201へ

187

「ふふふ、もうおしまいかい？ あっけないねえ」

「くそ、そう簡単にやられてたまるか！」

ボクたちは体勢を立て直した。要は、あの爪に注意すればいいんだ。

⇩141へ

188

潜水艇対バイオモンスター！ と、かつこ良くいききたいところだが、この潜水艇には武器は装備されていなかった。悔しいが逃げるしかない。

「うわっ！」シーザーズの体当たりをくらって、ボクたちはそれぞれの持ち場から吹っ飛ばされた。それが何度も続く。

死ぬ思いでクエリスにたどり着いた時には、潜水艇は浸水のためにもう使い物にならなくなっていた。くそー、150メセタ損した。またなんとか対策を考えなくちゃならない。とりあえず、ボクたちはライブラリイにもどることにした。

⇩35へ

189

「いくぜ、いきなりプロセダんだ！」

カインズは、対メカ用のテクニクを使った（TPマイナス2）。

「見たか、この威力！」

「何が威力よ、敵はピンピンしてるわ」

「ゲッ！ 失敗だ」

いくら威力のあるテクニクだろうと、失敗しては意味がない。慌てふためいているうちに、トレーサーのレーザーをくらってしまった。ピンチ！（HPマイナス1）だが、好運がボクたちを救った。ちょうど起こった爆発のどさくさに紛れて、ボクたちはトレーサーから逃れることができたのだ。

角にあったハシゴを上り、上のデッキに出た。

⇩287へ

ゼマ市内に到着^{とうちやく}。さっそくライブラリイに足を運^{はこ}んで、アメダスの位置^{いち}を調べてみた。

「アメダスはと……なんだこりや。ドーナツ湖^このど真ん中？ どうやって行くんだ？」ボクはスクリーンに映^{うつ}った地図^{ちず}の前で首をかしげた。

なにか、ボートのような物が必要^{ひつよう}だ。しかし、テレポート・サービスが普及^{ふきゆう}している現在^{げん}、乗り物^のなんか持っている人がいるのだろうか？

「乗り物か……。昔、このゼマにはボートどころか宇宙船^{うちゆうせん}まであったのにのう」

司書^{ししょ}の老人^{ろうじん}が、ボクたちの話を聞いて出てきた。

「宇宙船ですって？」

「さよう。このゼマには、かつて宇宙空港^{うちゆうくうこう}があつたのじゃ。昔^{むかし}はあちこちに宇宙空港^{うちゆうくうこう}があつて、数多くの宇宙船がパルマ、モタビア、デゾリスの間を飛びまわっていた。だが、10年前、宇宙船同士が衝突^{しょうとつ}するという大事故^{だいじこ}があつて、それ以来マザーブレインは宇宙船の飛行^{ひこう}を禁^{きん}じた。今飛んでいるのは、無人^{むじん}の貨物船^{かもつせん}だけじゃよ」

「10年前の宇宙事故……」

「あれは、初めてアルゴル太陽系^{たいようけい}の外へ向かうはずの調査船^{ちやうさせん}じゃつた。長い旅^{たび}になるため乗員^{じやういん}は家族^{かぞく}ぐるみで乗りこみ、中には子どももいたそうじゃ。しかし、乗員^{じやういん}は全員^{ぜんいん}死亡^{しぼう}。痛ましい事故^{いたましいじこ}じゃつた。——どうなされた？ 顔色が悪いようだが」

「い、いや、大丈夫だいじょうぶですよ。どうもありがとう、それじゃ」

ボクたちは、司書ししょに礼れいを言いって外そとに出いた。

●武器店ぶきてんに行く……………↓152へ ●道具屋どうぐやに行く……………↓126へ

●街で聞きこみをする……………↓104へ

191

「この地下、なにもニヤイ。ニヤがいは無用むようニヤン」

「キレイなネエちゃん、アンヨカジカジしたいニヤン」

マジックハットをかぶったボクの耳にネコたちの声が聞こえてきた。

ネコたちに別れを告つげると今度は……………。

●東に進む……………↓94へ ●南に進む……………↓321へ

192

フエイリアはすごい生命せいめい力りきをもった怪物かいぶつだった。ルドガーの銃撃じゆうげきをくらっても、ひるむことなく飛びかかってきた。

ふいを突つかれたボクは、ヤツの棍棒こんぼうをくらった(HPマイナス2)。打うたれた肩かたがズキズキと痛む。なんてバカ力だ。もし防具ぼうぐがなかったら、今ごろ……………。

フェイリアの背後はいごから、ネイとアンヌが攻撃こうげきした。クローとメスが、ヤツの背中せなかに突つき刺ささった。怪物かいぶつが声をあげて振り向ふいた。

今だ！ ボクは下からフェイリアの胸むねを貫つらぬいた！ 急所きゅうしよを突つかれたバイオモンスターは、今度こそもんどりうって倒たおれた。

フェイリアの倒れたあたりに、円筒形えんとうけいのカギが落ちていた（キーチューブ入にゆうしゆ手。アイテムリストきんゆうに記入きいゆ。2回いこう目以降かんけいは関係ありません）。

この先、どっちに行こうか。

●東に進む …………… ↓ 115 へ ●北に進む …………… ↓ 175 へ

193

気のせいか、ネイの顔色が悪いようだ。彼女は何でもないと首を振ふるが…………。やがて、T字の分かれ道に出た。

●東に進む …………… ↓ 252 へ ●南に進む …………… ↓ 162 へ
●北に進む …………… ↓ 174 へ

194

「何も、あなたたちまでついて来ることはないのに」

「いまさら何を言うんだ。危険はお互いさまじゃないか」ルドガーがボクの肩を叩いた。
 「そうよ。それに総督の話だと、わたしたちにも逮捕命令が出ているみたいじゃない。こ
 うなったら、真犯人をわたし自身で捕まえるしか手はないわ」と、アンヌ。

「みんな、ありがとう」

「礼は事件が解決してからだ。それより、もつと急ぐぞ。ぼやぼやしていると、洪水が始
 まってしまおう」

ところが——まるで、ボクたちの動きを予期していたように、ロボット警察の手が伸び
 てきた。

ダムが見えてきた所で、ボクたちは円錐形の小型ロボットどもから襲撃を受けたのだ！
 「捜査ロボットのホイッスルよ！」アーミアが叫んだ。

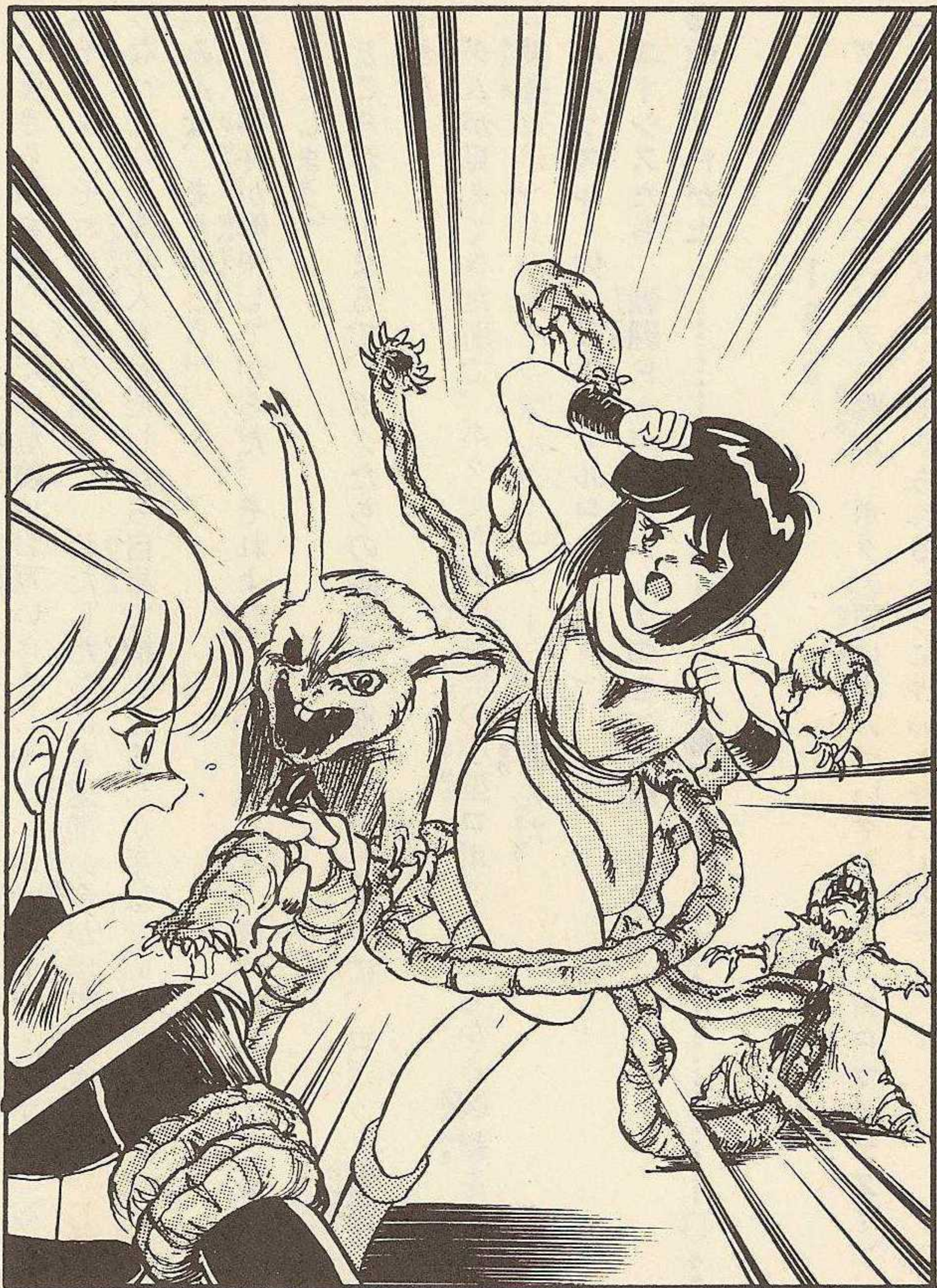
ホイッスル4体 13 + バトルP (1のA)

ユーススたち 戦闘P + バトルP (2のE) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 219へ ●下 …………… ↓ 245へ

195

ダーティ・アンゴラの腸が、ボクの肩に噛みついてきた！ (HPマイナス2)
 「くそお、こんなところでやられるわけにやいかないんだ」



195●ゾンビウサギ——ダーティ・アンゴラの腸には、^{ちよう}牙が生えていた。それが、ボクやアンヌの体^かに噛みついてきた。

剣を持ち直すと、思いきり床を蹴ってジャンプ！

ヤツの脳天に、剣を垂直に突き立てた。

ダーティ・アンゴラは声ひとつあげることなく、立ったままこと切れた。

「片づいたようね」

アーミアの声に振り向くと、床にダーティ・アンゴラの死体がいくつも転がっていた。

みんな、肩で息をしているものの、なんとか無事だったようだ（戦闘Pプラス1）。

「みんな、ケガはない？」

アンヌの問いかけにボクらはうなずいた。そのとき、

「ミヤウーン♡」と、ネコの鳴き声。

見ればボクの足元に、愛らしい白いネコがすり寄ってきてるじゃないか。

さて、どうしたものだろう？

●マジックハットを使う …… ↓ 3 4 7 へ ●マジックハットを使う …… ↓ 3 6 9 へ

●どちらの帽子も持っていない …… ↓ 3 1 2 へ

196

もたもたしている間に、さらにガスは濃くなり、息さえできなくなってきた。ガスの毒で動けなくなったボクらに、魔剣リビングブレードが迫る。

ごめん、ネイ。キミが命をかけて守ってくれたのに……。

END

197

「あれ、バイオモンスターどもは追^おつてこないぞ」

「あたしたちを追い返したことで満足^{まんぞく}したんじゃないの」

「弱^よつたな。なにか別の手を考えなくちゃ、アメダスに近づけもしない」

ボクたちが考えこんでいると、水^{みづ}辺^べを何^{なに}者^{もの}かが歩いてきた。ネズミを大きくして立たせたような外^{がい}見^{けん}。この星^{ほし}の原^{げん}住^{じゅう}種^{しゅ}族^{ぞく}、モタビアンだ。

彼は、大きな化石^{かせき}のような物^{もの}を引きずっていた。本^{ほん}で見たこと^{こと}がある大^{だい}昔^{せき}の生^{せい}き物^{ぶつ}——
シャーキンの化石^{かせき}みたいだ。

「やあ、今日^{けふ}は大^{たい}漁^{りょう}でんな。こんな^{こんな}にぎ^ぎよう^{よう}さん^{さん}ゴ^ゴミ^ミが落^おちて^ている^{いる}なんて」

「こ^こら^らこ^こら、ボク^{ボク}たち^{たち}はゴ^ゴミ^ミじ^じゃ^ゃな^ない^いぞ」

「冗^{じょう}談^{だん}や、冗^{じょう}談^{だん}。——あ^あん^んさ^さん^んら、濡^ぬれた^たま^まま^まじ^じゃ^ゃカ^カゼ^ゼひ^ひく^くで。わ^わいら^らの住^す処^かで^で体^{てい}を乾^{かわ}か^かした^{した}ほ^ほう^うが^がい^いい^いで」

「住^す処^かつて^て？」

「こ^この^の近^{ちか}く^くに^にあ^ある^るゴ^ゴミ^ミ捨^すて^て場^ばや」

198

十字路じゅうじろに出た。

「よし、こつちだ！」

●東へ進む

.....

●西へ進む

.....

●南へ進む

.....

●北へ進む

.....

199

アーミアのスライサーが、ビジョンスファイアを切り裂さいた！
 破裂はれつし、海上かいじょうに落下らつかした。

球体生物きゅうたいせいぶつは風船ふうせんのように

もう1匹！海面かいめんをはうようにエムゴフエンサーが迫せまってきた。

怪物かいぶつは曲かげた尻しりから針はりを発射はつしゃ！ボクはそれを弾はじき返し、さらに突つつこんでくるヤツの
 胴体どうたいを真まつ二つにした（戦闘せんとうPプラス1。プラス40メセタ）。

何とか敵を片かづけたボクたちは、ウーゾ島じょうりくに上陸じやうりくした。

200

コントロール装置そうちの差しこみ口にカードを入れた。まもなく、ダムロックがはずれ、
 水の流ながれる音が聞こえてきた。

↓227へ

「やった！ これで、大洪水だいこうずいになるのを防ふせいだぞ！」

「ユーシス君、喜よろこんでいるヒマはないようだ！」

ルドガーの声に振ふり向き、ボクは足をすくませた。巨大きよだいな浮遊ふゆうメカが3機、ボクたちを包圍ほういしていたのだ。

「こいつらは、アーミーアイか！ ロボット警察けいさつの切札きりふただぜ。ちくしよう、こんなものま
で乗のり出してくるとはよ！」カインズが叫さけんだ。

アーミーアイ3体 18 + バトルP (1のB)

ユーシスたち 戦闘せんとうP + バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 165へ ●下 …………… ↓ 212へ

201

ついにボクらは、ウーゾ山の頂上ちやうじやうを極まめた。そして、そこには…………。

「博士はかせに見せてもらったのと同じ木だ…………。」

そう、マルエラリーブが青々とした葉はを広げ、ボクらを待まっていたのだ。

苦勞くろうして登のぼってきたかいがあつたというものだ。ボクらは、さっそくその葉をとると、
バッグに詰つめこんだ。

「よし、これで博士に酸素ガムを作ってもらえるぞ」

だが、安心するのは早かった。

ガオオオオン！

燃えるようなたてがみを持った、バーンウルフが襲いかかってきたのだ。おまけに、

「ユーシスくん！ 上！ レプタイルカイトだ！」

ルドガーが叫ばなければ、ボクは空からきた化け物の爪に引き裂かれていただろう。

●Dにチェックがある …… ↓105へ ●ない …… ↓166へ

202

L字路だ。行くかもどるか……。

●西へ進む …… ↓185へ ●北へ進む …… ↓101へ

203

いよいよアメダスに出発だ。ボクたちは酸素ガムを噛んで、ドーナツ湖に飛びこんだ。好運なことに、島に到着するまで敵に会うことはなかった。島の水中部分に開いた洞窟の中に入っていく。その奥は水中ドックになっていた。

水から上がり、近くにあった昇降リフターで上の階に出た。さっそく通路が2本あるが。

●西に進む …… ↓175へ ●南に進む …… ↓153へ

204

L字の曲がり角に出た。コントローラそうち装置はどこだ？

●南に進む

.....⇩258へ

●西に進む

.....⇩235へ

205

L字の曲がり角に出た。

●東に進む

.....⇩223へ

●南に進む

.....⇩174へ

206

「いくぜ、いきなりプロセダひっさつんだ！」

カインズは、対メカ用の必殺ひっさつテクニックを使った。トレーサーは、瞬しゆん間的かんてきに粉こな々こなになつた（TPマイナス2、戦せん闘とうPプラス1）。

「見たか、この威力いりよく！」

さすがカインズ。たいしたものだ。

ボクたちは、角でハシゴを見つけた。それを使い、上のデッキに出た。

⇩287へ

207

突然、ネイ・ファーストが横に吹っ飛んだ。

ルドガーの銃撃だ！

「どうだ、モンスター！ どう理由をこねようと、おまえが私の妻と娘を殺したことはない。かたきを討たせてもらおうぞ」

「ちっ！ なまいきな人間が！」ネイ・ファーストは、ユラアと立ち上がった。

ヤツの執念は、すさまじかった。アンヌのメス、アーミアのスライサーを受けても倒れなかった。ライト・セーバーを振りかざし、ボクめがけて突進してきた。

だが——こつちだつて負けるわけにはいかないんだ！

光の剣を紙一重でかわし、ボクはネイ・ファーストの胸を貫いた！ ネイのかたきだ！

(戦闘Pプラス1、TPプラス2、プラス120メセタ)

↓136へ

208

用心しながらボクたちは、部屋の中に入った。

やはり誰もいなかった。椅子がいくつかひっくり返っていた。床一面に本が散らかつている。何者かが荒したのか、それともここにいた人間が慌てて出ていったという感じだ。

開けっぱなしの窓からは、雪が舞いこんできていた。

「あれは……?」

アンヌが奥の本の山の中で、何かを発見したようだ。

↓277へ

209

通路の奥で、ぽつかりと開いた大穴を見つけた。

「上下にロープが伸びている。反重力を使った昇降リフターじゃなくて、旧式のエレベーターの跡だな。昔、同じ物を見たことがある」と、ルドガー。

「ねえ、このロープを使って地下に降りられるんじゃない」ネイが名案を口にした。さつそくボクたちは、実行に移した。ロープを伝って降りていくと、ちようど十字路のど真ん中に着いた。

●東に進む

……………↓76へ

●西に進む

……………↓148へ

●南に進む

……………↓48へ

●北に進む

……………↓109へ

210

「グフェフェツ！」

ハングリーエイプが、よだれをたらしながら体当たりをしてきた。ふいをつかれ、ボクは道路に押し倒されてしまった。

ボクを押さえつけたまま、ヤツは顔を近づけてくる。牙きばでボクのノドをかみ切ろうってわけか。させるか！

こん身の力をこめて、ボクはハングリーエイプの体をはねのけると、剣けんを敵の目に突きたてた！

「ギフエフエフエー！」ハングリーエイプは、一声吠ほえ、ドウツと倒れた。

「クク、なかなかのラブシーンだったぜ、ユーシス。ヤツアあんたに気があつたりして」
「じよ、冗談じょうだんじゃないですよ、カインズさん！」

さあ、先を急ごう（戦闘せんとうPプラス1、50メセタ入手）。

↓253へ

211

「ミキヤキヤ！」

「ウニヤラ！」

「フー！」

カオスソーサラーに苦戦くせんを強しいられていたボクらの前に、ネコの大群たいぐんが現われた。10匹や20匹なんてものじゃない。

「ニヤゴ！（さがってて下さい！）」

ニヤウを先頭せんとうに、ネコの集団しゅうだんはカオスソーサラーに襲おそいかかった。



211●ニヤウの連れてきたネコの大群たいぐんが、カオスソーサラーにおそ襲いかかった！ さすがの魔道士まどうしもひとたまりもなかった。

腕にかじりつくものもいれば、顔を引つかくもの……。さらにネコの数は増え、次第にカオスソーサラーの体が見えなくなっていく。

しばらくして、ネコがさあつと去ると、そこには、バラバラになった骨と、紫のマントが落ちているだけだった（50メセタ入手）。

「ありがとう、キミのおかげで助かったよ」

ニヤウを抱き上げて、あごの下を軽くなでてやると、彼女(?)はゴロゴロいって、ボクの頬をなめてくれた。

そして、ボクの腕からするりと抜け、仲間とともにどこへともなく去っていった。

さあ、この荒れ果てた無人のビルを……。

●1階をそのまま進む …… ↓306へ ●地下へ下りる …… ↓292へ

212

ロボット警察の切札——アーミーアイ。

それは、大小のドームを2個はり合わせたようなメカだった。下部の小さなドームを回転させ、床から1メートルほどの所に浮かんでいる。

3機のアーミーアイは、ゆっくりとボクらの周囲をまわりはじめた。そして、レーザーを発射してきた！

「うっ！」何発かくらい、ボクらは床ゆかに転ころがった（HPマイナス2）。

「くそっ！」ルドガーは、横っ飛びして銃じゆうを撃うった。アーミーアイの表面ひょうめんで火花ひばなが散ちった。さらに、アンヌのメス、アーミアのスライサーが、敵ロボットを直撃ちよくげき！ よし！ ボクは満身まんしんの力をこめて、剣けんを突つき上げた！

だが——これだけの攻撃こうげきを受けても、アーミーアイは倒たおせなかつた。こいつら、いったい何なにでできているんだ!?

驚おどろくボクたちに向むかって、アーミーアイはリングを飛ばしてきた。それは、ボクらの体をくくり、自由じゆうを奪うばった。

「ちっ！ プラズマリングだぜ。こりゃ。も……うダメ……」

カインズの声は途中とちゆうでとぎれた。ボクたちは、アーミーアイの出ですガスに眠ねむらされてしまった。

↓250へ

213

「長引けば不利ふりだ、テクニクを使おう！」

ボクはシビレる体をなんとか立て直すと、グラブトを使った。

ぼてっ！ 異常いじような重じゆう力りきを生み出すグラブトに耐たえきれず、アツという間にレプタイルカ

イトは地面ちめんに叩たたきつけられた。巨大きよたいな押し花おしならぬ、押し翼竜よくりゆうのたきあがりだ。

しかし、バーンウルフのほうはしぶとく、足を地面にめりこませながらも、なおも電流でんりゅうを放ってくる。

「セイツ！」ボクはヤツの背せに飛び乗ると、その額ひたいに剣けんを突きたてた！

ガオーン！ バーンウルフは一声上げると、その場にドウツとくずれおちた。

苦戦くせんではあったが、みんななんとか無事ぶじなようだ（TPマイナス2、HPマイナス2）。
さあ、博士はかせのもとへ急いで帰ろう！

⇩243へ

214

……暗闇くらやみの中に、怪物かいぶつの姿すがたが浮うかびあがった。筋肉きんにくと機械きかいを融合ゆうごうさせたようなメタリッ

ク・ブルーの巨体きよたい。

そして、その悪魔あくまのような怪物かいぶつを相手あいてに戦たたかう少女。

だが、怪物かいぶつの力はあまりにも強大きょうたいだ。剣けん1本で戦たたかう彼女は、じわじわと追おいつめられていった。

ボクは、すぐ近くでその戦たたかいを見ていた。怪物かいぶつのうなり声、彼女の息いきづかいがじかに伝わってくるような近ちかさだ。しかし、少女しょうじょを助けようにも指ゆび1本動かすことができない。

——ああ、また同じ夢ゆめを見ている。しかし、この夢は、いったい何を意味いみするんだ!? ああ、あの怪物かいぶつは!? 少女しょうじょは!? だれか教えてくれ!!

ボクの意識は、再び闇の中に落ちていく。

↓181へ

215

先制攻撃をかけたのは、ネイ・ファーストだった。

ファーストの左手から飛んだ爪が、ボクたちに突き刺さった！（HPマイナス3）

（ここでモノメイトを使うと、1個につきHPプラス2。スターアトマイザーを使うと、1個につきHPプラス5、TPプラス2）

●HPが6以上……………↓187へ ●5以下……………↓237へ

216

角にでたとところで、ボクの足に1枚の紙がまとわりついた。

『★さびしい単身赴任生活をなぐさめるにはペットが最適！——ペットの店ウニヤララ

ハウス♡

★あなたもかわいいペットとお話をしませんか？——マジックハットならミキヤキヤ

シャポーへ。デザインも豊富にそろってます。

※最近、マジックハットの類似品が出まわっております。ご注意ください』

それは5年前の新聞広告の切れはしだった。

さて、この角を、

●東に進む …………… ↓ 249へ ●南に進む …………… ↓ 268へ

217

L字路だ。ここを……。

●東に進む …………… ↓ 239へ ●北に進む …………… ↓ 155へ

218

「アンヌ！」

力のない彼女が、真つ先に宇宙へ飲みこまれていった。カインズ、アーミア、ルドガ―も続く。

「うわっ！」ボクもついに力つきた。アツという間に意識を失ったボクの体は、絶対0度の宇宙を漂った。

END



「先手必勝だ！ ボクたちは、ホイッスルが警告の決まり文句を吐く前に攻撃した。」

「ば、ばか者ドモ、何ヲスルカ！ 逮捕スルゾ!!」

「やれるものなら、やってみろ！」

ヤツらが戦闘体勢に入る前に、全機とも地面に叩きつけてやった。

「ザコ敵とはいえ、あつけないね。さあ、早くダムへ——うわっ！」

足元に鋭いビームが突き刺さり、ボクたちは弾き飛ばされた。横倒しになっていたホイ

ッスルがふわりと浮き上がった。くそ、まだ生きているヤツがいやがった！

そのホイッスルのビーム発射口が青白く光った。

「抵抗シタナ。フフフフ……ブチ殺シテクレルワ——グエ！」

いきなり、ホイッスルがバラバラになつてくずれ落ちた。

「最近のロボットは、たちが悪くていけねえな。おまえさん方も気をつけな」

ホイッスルの残骸の間から、赤い服を着た男が現われた（戦闘Pプラス1）。

彼がやったのか？

↓172へ

ブーンと鈍い音とともに、ロボットのトレーサベースが現われた。

「みんな、レーザーに気をつけるんだ！」

しかし、空中を自由自在に駆け攻撃してくるヤツに、どう戦ったらいいんだ！

トレーサベース 19 + バトルP (1のG)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のD) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 289へ ●下 …………… ↓ 319へ

221

ボクはバーンウルフの放電を避け、ヤツの背中に飛び乗った。

ウルフは燃えるようなたてがみを逆立て、振り落とそうと必死だ。

「落とされてたまるか！ とどめだ！」

ボクは、ソードでヤツの首をかき切った。

首を失ってもなおバーンウルフは暴れ続けていたが、数分後、マルエラリーブに体当た

り！ ドウとくずれおちた。

ヤツの背中から降りて振り向くと、ちようどルドガーがレプタイルカイトを撃ち落と

たところだった (戦闘Pプラス1、TPプラス1、60メセタ入手)。

「さあ、早く博士のもとにマルエラリーブを届けよう！」

↓ 243へ

222

ボクらの攻撃は、サットマンの円形のボディにすべて弾き返されてしまう。

「こうなりや、運を天にまかせ……」

ボクは、ヤツの正面に立つと、愛剣で飛んできたビームを受け止めた。

ビームは反射し、サットマンの体を直撃！

爆発に巻きこまれないように、このL字路をボクらは……。

●東に進む

……………↓101へ

●南に進む

……………↓185へ

223

またL字の曲がり角に出た。

●南に進む

……………↓252へ

●西に進む

……………↓205へ

224

ズル、ズルルル。不気味な音をたて、デホが現われた。

球状のヘッドから、無数のコードが伸び、タコのような形態をしたロボットだ。

デホ 14 + バトルP (1のD)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のH) で戦います。

225

「まずは目を狙うんだ！」

ボクはジリジリつとヤツとの間合いをつめていった。

よし、今だと思った瞬間！

ボワーアアアア！

アーキドラゴンが火を吹いた！！

「うわちちちちち！　そういうの使えるんだったら、最初っから教えといてほしいよな！」

なんてぼやいてるヒマはない。

炎に追われて逃げまどうしかない。

まさか、このまま丸焼きにされるのを、手をこまぬいて待っているわけにはいかないし。

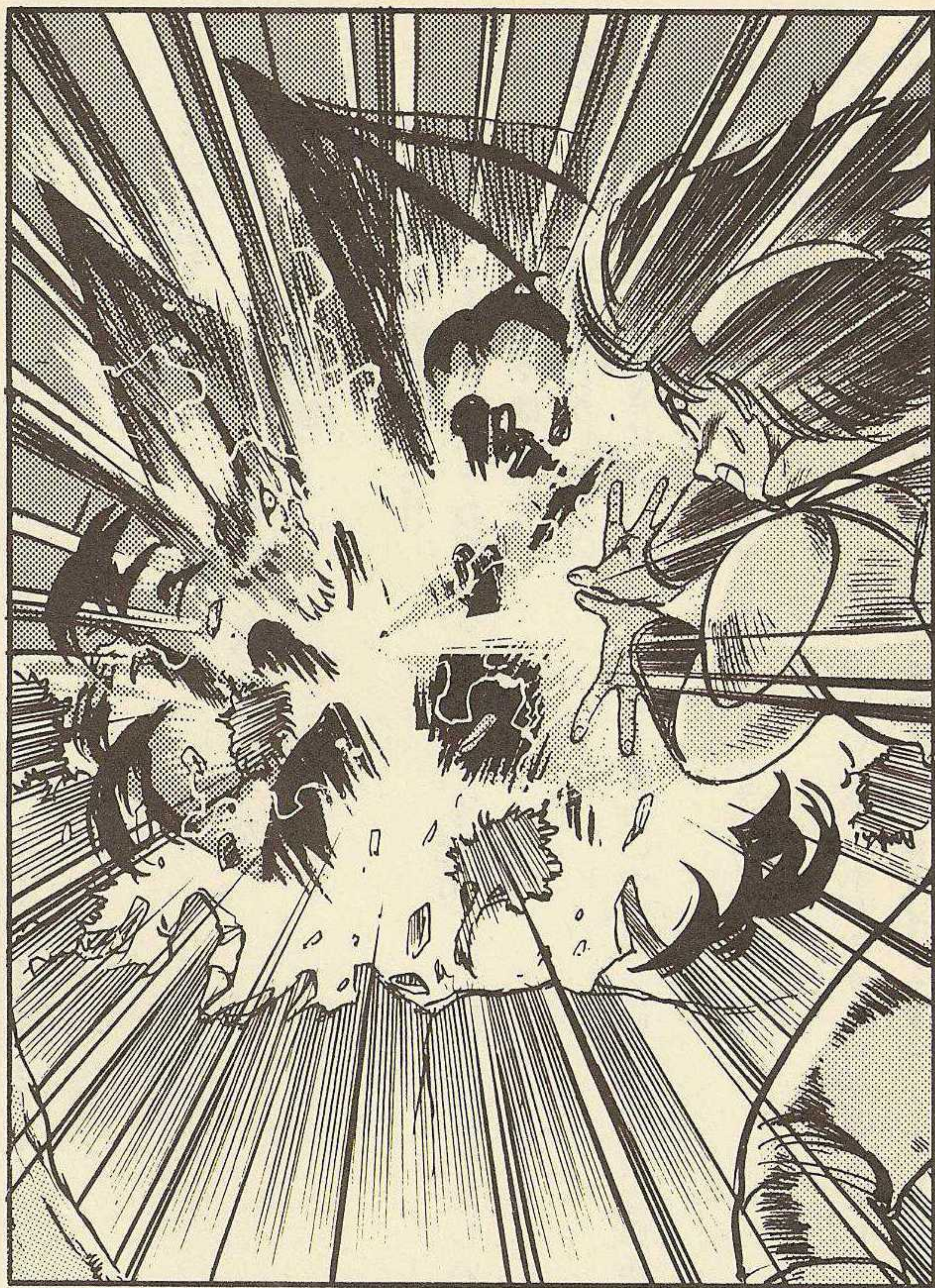
「そうだ、テクニクを使おう」

ボクは必殺のテクニク——メキドをアーキドラゴンに放った。

「ぎやいいいいいいいい！」

メキドのエネルギーはすさまじく、一瞬にしてアーキドラゴンを爆破してしまった。

「ふう、恐ろしい敵だったな」(TPマイナス5、HPマイナス2)



225●メキドだ！ ボクは、必殺ひつきつのテクニックをアーキドラゴンに
放った。さしもの強敵きょうてきも一瞬いつしゆんのうちに吹っ飛んだぞ！

炎ですすけた顔をふきながら、さっきの別れ道までもどると、左の裂け目へと進んだ。もう、敵が待ち受けていることがないよう、祈りながら。

⇩ 325へ

226

次にボクらを待ち受けていたのは、宙に浮いた殺人メカ、バンリーダーだった！

バンリーダー 18+バトルP (1のE)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP (2のF) で戦います。

●敵よりPが上 ……………⇩ 279へ ●下 ……………⇩ 308へ

227

ウーゾ島——千年ほど前は、大陸と陸続きにあり、砂漠だったともいわれている。

「これがウーゾ山か。かなり傾斜が急だな……」

ボクらは頂上ちようじようにあるといわれるマルエラリーブめざし、急斜面きゆうしやめんを登りのぼはじめたが、

「何か乗り物のりものとかないのかしら？ 足が棒ぼうのようだよ」

「アンヌ……。こんなところところに乗り物なんかあるわけないでしょ？」

アーミアがアンヌをたしなめる。が、彼女もかなり苦しそうだ。

ちようど目の前に、大きな樹きが立っている。葉はも茂しげっており、一息ひといきつくにはよさそうなの

場所だが……。

●一休みする …………… ↓160へ ●休まず登る …………… ↓186へ

228

「すごい剣だな」ボクはその剣を拾い上げた。

すると、それはまるで意志でも持ったように、ボクに斬りかかってきた！

「しまった！ 魔剣リビングブレードだったのか！」（戦闘Pマイナス1）

リビングブレード 19 + バトルP（1のC）

ユーシスたち 戦闘P + バトルP（2のH）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓260へ ●下 …………… ↓339へ

229

角を曲がったところで、怪物が待ちかまえていた。棍棒を持った茶色の巨人、フェイリ

アだ！

フェイリア 16 + バトルP（1のC）

ユーシスたち 戦闘P + バトルP（2のA）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓248へ ●下 …………… ↓192へ

230

バンの左右から突き出したガトリング砲が火を吹いた！

横つ跳びでそれをかわすアーミア。彼女の投げたスライサーは弧をえがき、バンのセンサーを切り落とした！ 目標を見失ったバンの砲火は、味方のヘビースルジャーを捕らえた。同志打ちだ！

カインズは、狂ったように撃ち続けるバンの後ろにまわりこんだ。エンジンに穴を開け、あっさりと動きを止める。ボロボロになったヘビースルジャーにとどめを刺すのは、もつと簡単だった。

「さあ、早くカードを探さなきゃ。どっちに行く？」

●北に進む …………… ↓263へ ●東に進む …………… ↓202へ

231

「しかし、この装置はどうやって操作するんだ？」

「ここにカードの差しこみ口がある。どうやらコントロールは、カード式のような」

「それじゃ、まずカードを探さなきゃ」

そこに突然、巨大なロボットが2体も現われた！

歩行戦車型のヘビースルジャーと浮

遊攻撃型のバンだ！

● テクニックを使う (TPが9以上の人のみ) …… ↓ 381へ

● 普通に戦う …… ↓ 283へ

232

「グフェフェツ！」ハングリーエイプが、よだれをたらしながら、体当たりしてきた。完全にふいをつかれた。ボクは剣を落し、道路に押し倒されてしまった。

「ううっ」ヤツの鋭い爪が、肩に食いこむ (HPマイナス1)。

さらにヤツは顔を近づけてくる。牙でボクのノドをかみ切ろうってわけか。させるか！こん身の力をこめて、ボクはハングリーエイプの体をはねのけた。

「ユーシスくん！」

ルドガーが剣を投げてくれた。それを受けとめると、敵の額の目に突き立てた！

「ギフェフェエ！」ハングリーエイプは、一声吠え、ドウツと倒れた。

「クク、なかなかのラブシーンだったぜ、ユーシス」

「じよ、冗談じゃないですよ、カインズさん！マジでやばかったんですからね」

さあ、先を急ごう (戦闘Pプラス1、50メセタ入手)。

↓ 253へ

「この手のカギは、軍隊で見たことがある。たしか、キーチューブといったな」
 ルドガーはさつき拾った円筒を、壁の穴に差しこんだ。すると、壁はゆつくりと上がっていった。

その奥は大きな部屋だった。壁一面にコンピュータの装置が並び、巨大なガラス窓の向こうには太いパイプが何十本も走っているのが見えた。

「ここは？」

「おまえたちが来たがっていたアメダスのコントロール室だよ」

暗がりの中から、女が現われた。ボクはその姿を見て、自分の目を疑った。長い髪、紫色のレオタード、そして尖ったネコのような耳！ ネイにうりふたつだ！

「おまえは、何者だ!？」

「わたしは、ネイ・ファースト。2年前に科学者どもは、人間と動物をかけあわせる実験をしていた。だがその最中に、バイオシステムで事故が発生した。なんでも、予想していなかった大量のエネルギーが送られてきたそうよ。——その事故の後に生まれたのが、このわたし」

「人間と動物のかけあわせだったって？」

「でも科学者は失敗作だと言って、わたしを殺そうとした。けれど、わたしはバイオシステム

テムから動物のDNAデータを引き出して、逃^にげた」

「DNAデータ……ということとは、バイオモンスターを作ったのはおまえだな！」
妻子^{さいし}をバイオモンスターに殺^{ころ}されたルドガーが叫^{さけ}んだ。

「ふっ、そのとおりさ。自分^{じぶん}勝手に自然^{しぜん}をいじり、命をもてあそぶ人間に復讐^{ふくしゅう}するためをやったんだ！——もつとも、わたしの中には、それをジャマするもうひとりのわたしがいたけどね……」

「そ、それはひよつとして……」いやな予感^{よかん}が、ボクの頭をかすめた。

「そう。あなたたちがネイと呼^よんでいる、その娘^{むすめ}のことよ！ あなたたちは、仲間^{なかま}だと思^{おも}っているかもしれないけど、本当はほかの醜^{みにく}いモンスターと同じなのよ」

「違^{ちが}う！ 違^{ちが}うわ！」ネイが叫^{さけ}んだ。「わたしは、ネイ・ファーストの中にいるのがつらくて分裂^{ぶんれつ}したのよ！ モンスターを作^{つく}って復讐^{ふくしゅう}するなんて……。わたしは、そんなあなたを認^{みと}めるわけにはいかないわ！」

「生意気^{なまいき}な！ このわたしと戦^{たたか}おうとでもいうのか、ネイ！」

ネイ・ファーストの背後^{はいて}に、オーラのようなものが浮^うかび上がった。それは、怒^{いか}り狂^{くる}う彼女^{じしん}自身の顔^{かほ}となった。

「しかたがないわ。わかって、姉^{あね}さん！」

ネイ・ファースト 13+バトルP(1のE)

●ネイ 戦闘Pせんとう (現在の戦闘Pから5を引く) + バトルP (2のJ) で戦います。
 ●敵よりPが上 …………… ↓ 1 7 7 へ ●下 …………… ↓ 1 2 0 へ

2 3 4

現在のTPにバトルP (1のD) を足すと?

●12以上 …………… ↓ 2 0 6 へ ●11以下 …………… ↓ 1 8 9 へ

2 3 5

L字の曲がり角に出た。

●南に進む …………… ↓ 1 8 0 へ ●東に進む …………… ↓ 2 0 4 へ

2 3 6

「うにやらら!」「みーみー」「ゴロニャーゴ!」

ネコがうじゃうじゃいるL字路じろに出た。

●マジックハットをかぶる …………… ↓ 1 9 1 へ ●マジックハットをかぶる …………… ↓ 1 2 5 へ
 ●どちらの帽子ぼうしも持っていない …………… ↓ 2 6 9 へ

237

「くたばれ、人間！」

ネイ・ファーストの右手から、光の剣が伸びた！ 普通の剣と違って、ライト・セーバ

ーは間合いがつかめない！

「ぐわっ！」
ボクは腹を貫かれて、床に転がった。ヤツの人間を憎む心が、ボクを破ったのだ。
血の味を覚えたヤツのライト・セーバーは、ほかの仲間にも襲いかかった。人間離れし
たそのスピードに、仲間たちは逃れるすべがなかった……。

END

238

T字路に出た。さてと……。

●東に進む……………⇩282へ ●西に進む……………⇩268へ

●北に進む……………⇩31へ

239

「今度はT字路か……」

みんなの表情ひょうじょうに焦りあせの色が浮かぶ。急がなければ……。

●西に進む……………⇩217へ ●北に進む……………⇩198へ

●東に進む……………⇩278へ

240

「よく来たね、ユーシス君。わたしの名は、ルツ。アルゴル最後さいごのエスパード」

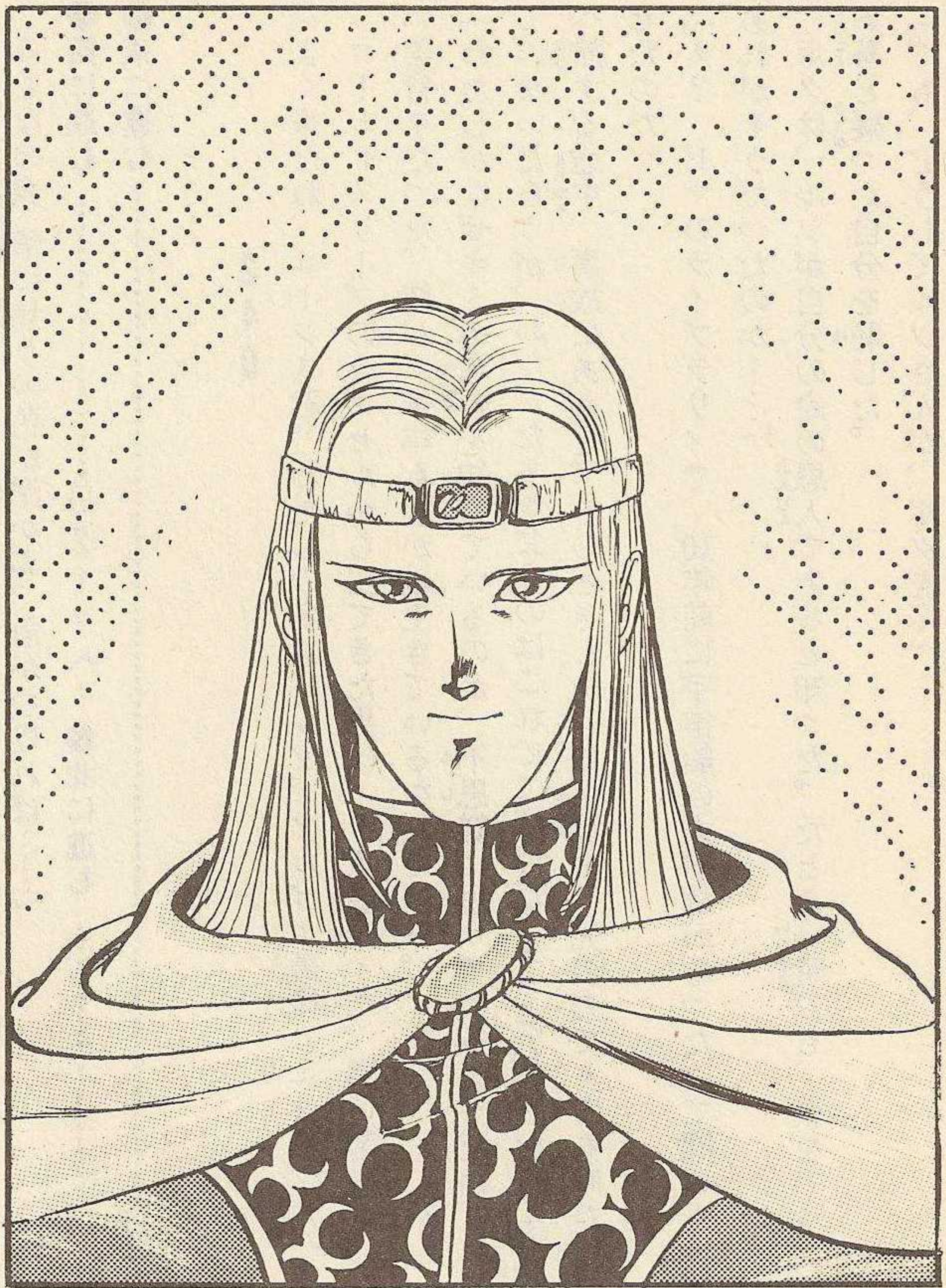
コールドスリープのカプセルから出てきた男は、そう名乗なった。青い髪かみをたらしただすごい美青年だった。彼が、千年も前から生きているなんて……。

「わたしがなぜキミの名前なまえを知っているのか、不思議ふしぎに思っているようだね。キミは覚おぼえていないだろうが、わたしたちが会うのはこれで二度目だ。キミは10歳さいの時、両親りょうしんと宇宙うちゅうへ旅たびする途中とちゆう、事故じこにあつた。そのときわたしは目覚めざめ、光の力でキミを呼よび寄よせて蘇よみがえらせたのだ」

「え？ ゼマのライブラリで、10年前に宇宙船の重大事故があつたって聞いたけど……。あれがそうだったのか……」

ボクは、ルツが自分の命いのちの恩人おんじんであるを知つた。たとえ一時いつときでも、彼をアルゴルを狙ねらう黒幕くろまくと疑うたがった自分を恥はじた。

「でも、どうしてルツさんが、ボクを？」



240●「よく来たね、ユーシス君。わたしの名は、ルツ。アルゴル
最後のエスパーだ」千年間の眠りから覚めた男が言った。

「コールドスリープに入っていたわたしの目を覚ましたのは、アリサの悲鳴だった」

アリサ……？ 聞いたことがある名前だ。とても懐かしい感じがする。

「そう、キミはかつてアルゴルを守るために戦ったアリサの子孫なのだ。そして、キミも見ているだろう。アリサが闇の力——ダークファルスと戦っているあの夢を」

そうか！ ボクの頭の中で、あの『光景』がまざまざと浮かび上がった。彼女がアリサ。ボクの祖先……。

「ダークファルスとは、かつてアルゴルを滅亡させようとした魔物。だが、アリサの前に敗れた。しかし、アルゴルを滅亡させようと企む者は、いなくなったわけではないのだ。ユーシスよ、その邪悪な者に打ち勝つための武器を手にしなさい。ネイ、つまり——にあらずという意味を持つ武器、ネイ・ソードとネイ・シールドを！」

ネイ……。ああ、ボクの妹だった女の子の名だ。まさにその名にふさわしい。

「それらをイクトーの地下迷宮から持ち出すことができたなら、わたしはキミに良からぬ者の企みを話すことにしよう」

「試験というわけですか……。ボクに邪悪な者と戦う力があるかどうか」

「そうだ。もし、やる気があるのなら、まずエアロプリズムを見つけたまえ。それがなくては、ネイの武器は見ることもできない」

もちろん、ボクにやる気がないはずはなかった。

241

ボクは地響きをたてて迫りくるネオ・マンモスに向き直ると、剣を抜いた。

「でかい耳だな。私が掃除してやろう！」ルドガーが横からショットガンをかまえる。

ネオ・マンモス 17+バトルP (1のB)

ユースたち 戦闘P+バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓305へ ●下 …… ↓329へ

242

「くらえ！」

ルドガーのショットガンが火を吹く。しかし、それは丸みを帯びたヤツのボディにすべ
て、弾き返されてしまった。

おまけにそれは、跳弾となってボクらを襲った！ (HPマイナス1)

「こうなりやいちかばちかだ！」

ボクはヤツの正面に立つと、愛剣で飛んできたビームを受け止めた。

ビームは反射し、サットマンの体を直撃！

爆風に巻きこまれないように、このL字路をボクらは……。

●東に進む …… ↓101へ ●南に進む …… ↓185へ

243

「これは、すごい！ 本物のマルエラリーブじゃないか！」
 マルエラリーブを届けると、クニヌ博士は興奮したように叫んで、研究室に消えた。
 しばらくすると博士は、目を輝かせて研究室から飛び出してきた。

「大成功だ！ さあ、これが酸素ガムだ。これさえあれば水の中でも、地上と同じように呼吸ができるよ」(酸素ガム入手。アイテムリストに記入)

ボクらは博士にお礼をいって、再び旅立つことにした。

●武器屋に行く……………↓182へ ●道具屋に行く……………↓157へ

●アメダスに行く……………↓203へ

244

素手のボクたちが、こいつに勝つにはテクニクしかない。しかし、そのパワーも残り
 少なかった。

ボクらがためらっているうちに、ポリツアイSSが先制攻撃を掛けてきた。

「伏せろ！」

スクリーンが爆発し、グチャグチャになった部品が飛び散った。それらが、すごい勢いで外に吸い出されていく。

そ、外だつて！ このバカロボット、ミサイルで壁に穴を開けやがった！

「みんな、何かにつかまるんだ!!」

外は真空だ。すさまじい気圧の差で、室内の空気が外へと流されていく。ポリツアイSも外へ吹っ飛ばされていった。

●HPが10以上 …………… ↓267へ ●9以下 …………… ↓218へ

245

ホイツスルは、いきなりビームを放ってきた！ その1発が腕をかすめた！（HPマイナス1）

「うわっ！ 殺す気か!? 逮捕するんじゃないのか！」

「ヤカマシイ！ 抵抗デキナイヨウニシテ運ブンジャ！」

ロボットたちは、ボクらを包囲した。ビーム発射口が青白く光る。

「クタバレ、反逆者ドモガ。フフフフ……グエ！」

いきなり、1機がバラバラになつてくずれ落ちた。残ったものもすぐに同じ目にあつた。「最近のロボットは、たちが悪くていけねえな。おまえさん方も気をつけな」

ホイツスルの残骸の間から、赤い服を着た男が現われた。

彼がやったのか？

↓172へ

246

バンの左右から突き出したガトリング砲が火を吹いた！　へビーソルジャーも、負けじとビームを発射してくる！

その猛攻撃の前に、ボクたちはまるで身動きできなかつた。

——やがて、ダムが決壊する不気味な音が聞こえてきた。ついに間に合わなかつたか!!
 ロボットもボクたちも、ありとあらゆるものが、圧倒的な流れの中にのみこまれた。
 パセオ、クエリス、ゼマ、そのほかいくつもの都市が大洪水にのまれていった。

END

247

十字路だ。どの方向へ進もうか？

- 東に進む ↓ 3 2 1 へ
- 西に進む ↓ 3 4 0 へ
- 南に進む ↓ 2 2 6 へ
- 北に進む ↓ 2 6 4 へ

248

アーミアの放ったスライサーを、フェイリアはひよいとかわした。
 得意げなポーズをとると、ボクめがけて襲いかかってきた。猛然と棍棒をボクの頭に振

り降ろす！

スイカみたいに頭を叩き割られ、ボクは床に転がら——なかつた。

怪物は不思議そうに、ボクの顔と棍棒を見比べた。棍棒は根元からなくなっていた。

バカめ！ アーミアのスライサーがもどつてくる途中で、棍棒を切り落としたんだよ。

ボクはうろたえているフェイリアの腹を貫いた！ あわれなバイオモンスターは、もん

どりうって倒れた。

フェイリアの倒れたあたりに、円筒形のカギが落ちていた（キーチューブ入手。アイテ

ムリストに記入。2回目以降は関係ありません）。

この先、どっちに行こうか。

●東に進む……………↓115へ ●北に進む……………↓175へ

249

T字路だ。どちらに行こうか。

●東に進む……………↓296へ ●西に進む……………↓216へ

●南に進む……………↓31へ

う……。ここは……？ ボクは、薄闇うすやみの中で目が覚めた。いったい、どうなっているんだ？ アーミーアイに捕つかまったままでは覚えていたのだが。

「ここは、『ガイラ』という人工衛星じんこうえいせいの中だ！ 外は宇宙うちゅうだから、もう逃にげることはできないぞ！ マザーブレインを狂くるわせた罪つみは重い。死刑しけいになるのをここで待まつんだな」

あざ笑うかのような声が、天井てんじょうから降ふってきた。

「宇宙の牢獄ろうごくというわけか。たしかに脱出だつしゅつは無理むりだな」と、起き上がったルドガー。ほかのみんなも、とりあえずは無事ぶじなようだ。

「いや、あきらめるのはまだ早い。マザーブレインのシステムを使って、モタビアを破滅はめつさせようとしているヤツがいるのは間違まちがいがないんだ。それが誰だれかを突つき止められないで、死ぬわけにはいかない！」

それからしばらくした頃ころ——ボクの執念しゅうねんが通じたのか、突然とつぜん、『ガイラ』そのものを揺ゆさぶるような、大きなショックがあつた。不気味ぶきみな警報けいほうサイレンが鳴なりはじめる。爆発ばくはつか？

「しめた、扉とびらのロックが外はずれている。今のうちに脱出だつしゅつだ」

「でも、外は宇宙うちゅうなのよ」

「『ガイラ』のどこかにシャトルがあるかもしれない。それを探さがすんだ！」

牢獄ろうごくを出たボクたちは、赤いライトが点滅てんめつする通路つうろを進んでいった。人工重力じんこうじゅうりよくが働はたらいて

いるため、歩くのに困難こんなんはなかった。やがて、分岐路ぶんきろに出たが。

●右に進む …………… ↓ 294 へ ●左に進む …………… ↓ 272 へ

251

「それはリビングブレードよ！ 剣けんの形をした怪物かいぶつだわ！」

アーミアが叫さけんだのと同時に、それは意志いしでも持ったかのように斬きりかかってきた！
なんとかそれを左にかわし、剣を抜ぬく。

リビングブレード 19 + バトルP (1のC)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のH) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 260 へ ●下 …………… ↓ 339 へ

252

角かどを曲がったとたん、巨大きよだいな獣けものが現あらわれた。

炎ほのおのようなたてがみを持つオオカミ——フレアウルフだ！

フレアウルフ 15 + バトルP (1のB)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のF) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 274 へ ●下 …………… ↓ 151 へ

無人のA地区。画一化された低い建物の中に、ふたつだけ高いビルがある。

「ねえ、ガス……大事故、全員退去……。これなに？」

シルカが拾ったのは、古い新聞の切れはしだった。すでにボロボロで、大見出しの一部しか読み取ることができない。

「とにかく、調べてみよう。あのふたつのノツポのビルから当たってみるか！」

●右のビルに入る …… ↓390へ ●左のビルに入る …… ↓280へ

デホのビームが、腕をかすめた！

くうっ、なんて痛みだ。あと2ミリ、ビームが内側にずれていたら、ボクの手はスツパリと落とされていただろう（HPマイナス1）。

『ユースス……』

ネイの顔が頭をよぎった。そうだ、彼女の死をムダにしないためにも、こんなところでぐずぐずはしてられない。

あのヤツの配線さえ切ってしまえば……。

ボクは姿勢を低くとると、タコの足のように伸びたデホの配線を、切り落とした。

ぐわっしやーん！ デホは、バランスを失いその場にくずれ落ちた。
ふう、なんとか勝利をおさめ、ボクらは……。

●西に進む …………… ↓ 198 へ ●南に進む …………… ↓ 278 へ

255

マザーブレインは、七色のまばゆい光に包まれ、ボクたちの前に立ちふさがった。

マザーブレイン 38 + バトルP (1のF)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 360 へ ●下 …………… ↓ 330 へ

256

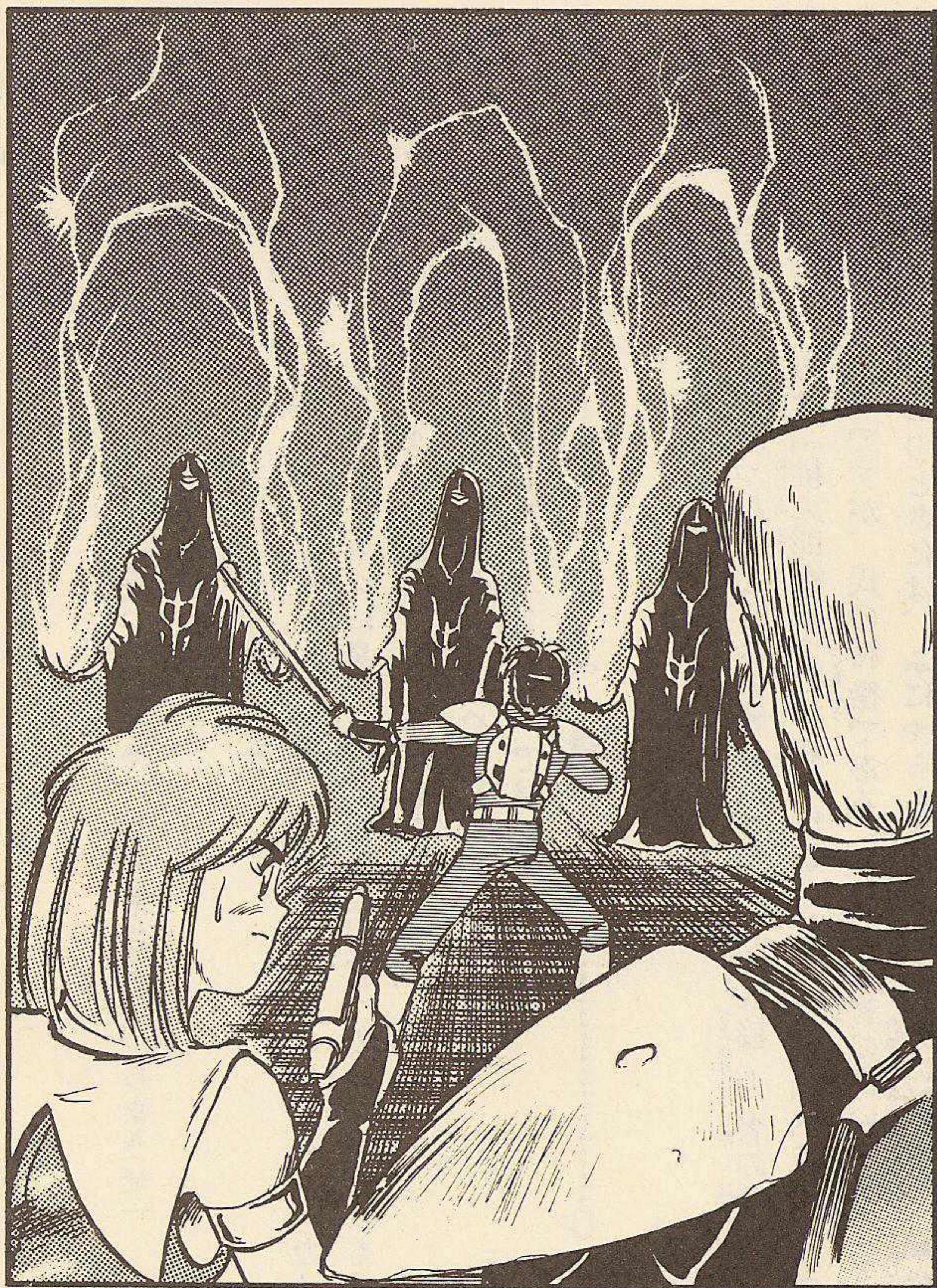
地下だというのに、この迷宮の中はちっとも暖かくはなかった。

モタビア生まれのボクにとって、この寒さはけっこうこたえる。

ここまで温度が低いと「冷たい」「寒い」という感覚とはちよつと違う。むきだしの肌が「痛い」という感じだった。

この寒さにまいてっているのは、みんなも同じようだ。

「ちくしょう、冷えやがるぜ。本当にネイなんとかってあるんだろうな？」カインズが、



256●赤いフードとマントを身にまとった不気味な怪人たち。ギル・ザークは、^{かぎつめ}鉤爪から^{ほうてん}放電し、ボクたちに^{せま}迫った。

白い息を吐きながら言った。

「多分ね」

「多分つてなあ。とにかく早いところ見つけなきゃ、シモヤケになっちまうぜ」

「シモヤケ程度で済むと思っっているのかね」

「なんだって？ え？ 今、言ったのは誰だ!？」

ボクたちは、慌てて顔を見合わせた。今の声は、ボクたちのものではなかった！

薄暗い一角に、赤いフードとマスクに身をまとった怪人が立っていた。それも3人。

「我が名は、ギ・ル・ザーク。おまえたちの命はもらった」

ギ・ル・ザーク 3人 28 + バトルP (1のC)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のF) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 359へ ●下 …………… ↓ 382へ

257

というわけで、ウラ技を使ったあとがきの続きです。ここでは協力者の橋爪啓氏の紹介をしませう。氏とは以前『桃太郎電鉄』で一緒に仕事をしました。『桃鉄』と本書『PS II』ではえらい違いのようですが、氏の特徴である「ヘンな擬音の使い方」はここでも見ることができまます。『桃鉄』のときには、ふにやらんこ(女の子の胸に触る音。編集からプ

リリンにしなさいとクレームがついて直された)、プフフーイ(おならの音)、レロレロウツチュウ、ツー(キスの音らしい)、ズボリンコ(穴あなに落ちる音)、グニヨグニヨのベツタラン(塩辛しおからになる音)、ベトベトのドロロンバーイのプーン(カブの腐くさる音)などがありました。本書でそんなノリの所があれば、それは氏の書いた項目こうもくです。たぶん。

258

通路つうろに追手おつてのロボットが現われた! スマートな人型ロボット——ポリツアイだ!

ポリツアイ 13+バトルP(1のH)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP(2のF)で戦います。

●敵よりPが上……………↓183へ ●下……………↓276へ

259

突然とつぜん、角かどの所で床ゆかが裂さけた! 赤い炎ほのおが噴ふき上がる。

「キングレムレスよ! この下に潜ひそんでいるんだわ!」シルカが叫さけんだ。

キングレムレス 27+バトルP(1のG)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP(2のA)で戦います。

●敵よりPが上……………↓309へ ●下……………↓357へ

リビングブレードの猛攻を右に左にかわし、チャンスを待った。

敵の動きが止まった。今だ！

「トオ！」わが愛剣は、見事にリビングブレードを粉碎！（200メセタを入手）

だが、喜ぶのは早かった。どうやらあたりにたちこめていたのは毒ガスだったらしい。

「い、息が苦しい……、早くここから出るんだ……」

ボクはルドガーに背負われるようにして、なんとかそのビルを抜け出した。

●B地区に行く……………↓12へ ●C地区に行く……………↓22へ

●左のビルに行く……………↓280へ

ボクらは階段を上り、上の階へとやってきた。

階段を上りきったそこは、L字路になっていた。ここを……。

●西へ進む……………↓238へ ●北へ進む……………↓296へ

ヴィーン！

ダークサイドのライト・セーバーと、ボクの剣が火花を散らした。
 鏢ぜり合いにもつれこんだのはいいが、押されぎみだ（HPマイナス2）。

●HPが18以上 …………… ↓55へ ●17以下 …………… ↓284へ

263

「侵入者、発見。止まれ、止まらナイト撃ッゾ」

サットマンがボクらの前に立ちはだかった。円筒をいくつも重ねあわせて作られたロボ
 ツトだ。

ボクらはとつさに立ち止まったが……。

ギユワイーン！ 突如、サットマンは人型ロボに変形、足から小型ミサイルを撃つてき
 た！ ボクらの周囲でそれらは炸裂した！

「このウソつきロボ！ 止まったのに撃つてくるんだもんな！」

「ウルサイ。止まッテモ、止まらナクテモ、指令ハヒトツ、殺ス！」

サットマン 14 + バトルP (1のA)

ユーシスたち 戦闘P (2のF) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓222へ ●下 …………… ↓242へ

264

「L字路に出た。」

●西に進む

.....⇩220へ

●南に進む

.....⇩247へ

265

こんな所でムダな力を使うことはない。

ちようど起こった爆発のどさくさに紛れて、ボクたちはトレーサーから逃れた。角にあったハシゴを上り、上のデッキに出た。

⇩287へ

266

ネオ・マンモスの振り上げた足をかいくぐり、正面のビルに逃げこんだ。

「ふう、なんとか踏みつぶされずにすんだな。でも、これまたさびしいビルだな」

「ねえ、これなにかしら」

アンヌが拾ったのは、アウクバルとアルテプラノの地図だった（地図入手）。

「よし、これさえあれ——!!」

ズズーン！ 地震か!?

ビル全体が激しく左右に揺れ、床と壁に亀裂が走った。

⇩293へ

穴あなの向むこうは、絶対ぜったい0度の宇宙うちゅうだ。

ボクは、必死ひつしになつてパイプの切れはしにしがみついた。腕うでがちぎれそうなくらい痛い。ここでこうしていても、いずれは死しんでしまうわけだが、ボクは最後まで抵抗ていこうした。頑張がんばれば、万にひとつでもチャンスがあるはずだ。ほかのみんなも同じ考えのようだった。部屋の空気へやもほとんどなくなり、ボクの意識いしきは除々じょじょに薄うすれていった……。 ↓214へ

「まあ、かわいいウサギさんたち♡」

アンヌの言葉ことばに振り返ふると、そこには確たしかにウサギが数匹。さてよ、そいつらは!

「アンヌ、そいつから離はなれる!」ボクが叫さけぶのとほぼ同時に、

「キキキー!」ウサギたちが牙きばをむきだしにして、飛びかかってきた。

「ちっ、ダーティー・アンゴラか!」

ルドガーがショットガンをかまえる。全員戦闘態勢ぜんいんせんとうたいせいだ!

ダーティー・アンゴラは、自らの腹はらを引き裂さくと、腸ちようをボクめがけて投げつけて来た!

その腸の先には鋭い牙きばが! スプラッター怪物かいぶつめ!

ダーティー・アンゴラ 17+バトルP(1のA)

ユーシスたち 戦闘P十バトルP(2のJ)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓291へ ●下 …………… ↓195へ

269

「ニヤーニヤー！」

ネコたちが足にすり寄^よってきた。連れていってやりたいが、そうもいかない。ごめんよ……。心でわびつつボクらは進んだ。

●東に進む …………… ↓94へ ●南に進む …………… ↓321へ

270

「はははははははははははは!!」

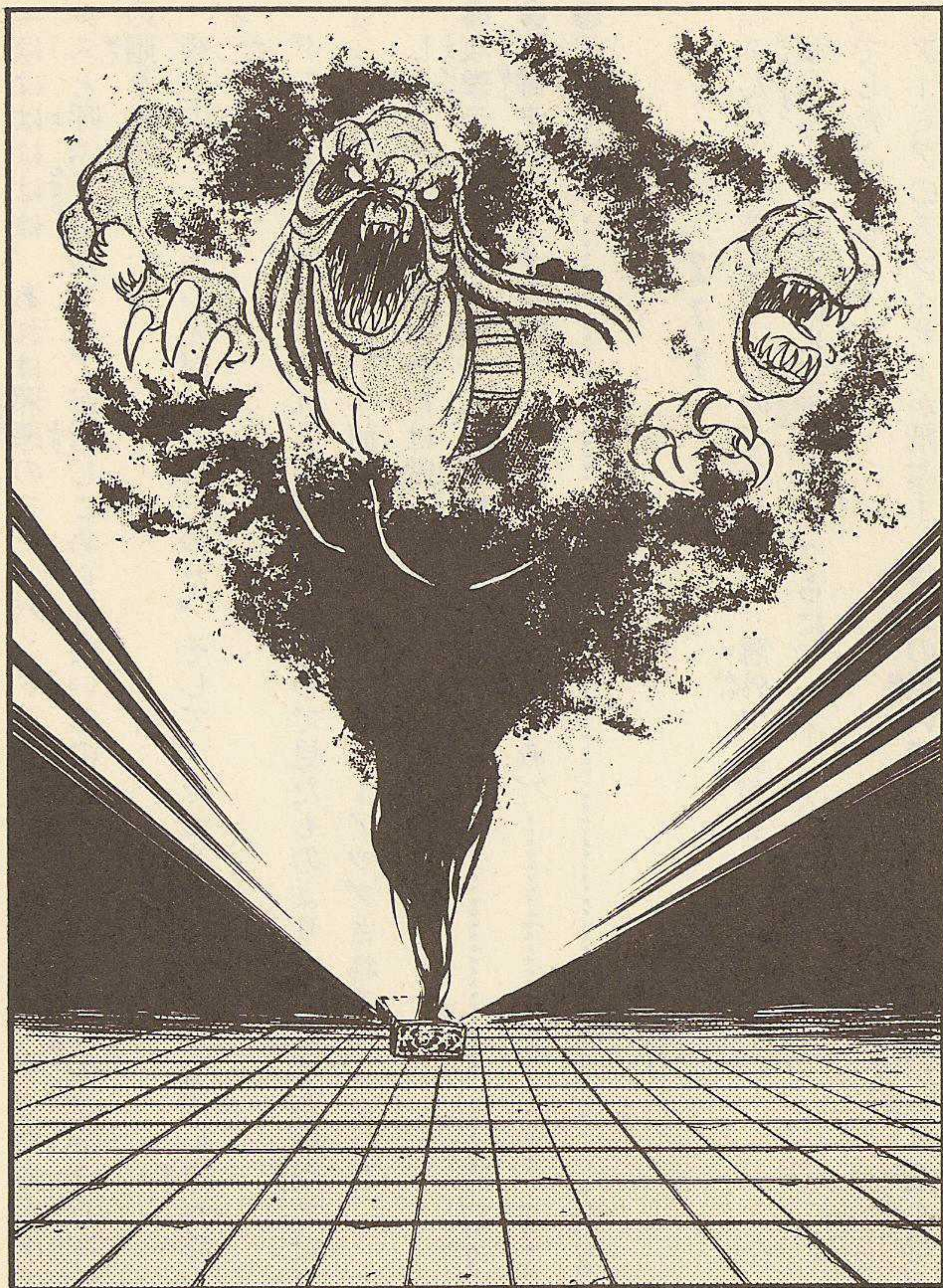
「何者^{なにも}だ!？」

「ははは、ここまで来れる人間^{にんげん}がいたとは思わなかったぞ。まずは誉^ほめてやろう。だが、ここまでだ。まもなく、キミたちには死んでもらう」

「なんだと！」

「ユーシス、あれ」アーミアが広間^{ひろま}の中央^{ちゆうおう}にある箱^{はこ}を指さした。

箱が、ゆっくりと開きはじめた。



270●^{はこ}箱の中から^{きよだい}巨大な影が^{かげ}浮かび^う上がった。凶悪な怪物の姿に実^{きようあく}体化する。千年前よりパワーアップした^{かいぶつ}ダークファルスだ!! ^{すがた} ^{じつ}

「ははははははは、あれは邪悪じあくのワナ、パンドラの箱だ！ 中には、キミたちがダークファルスと呼ぶ災いわざわのすべてが封じこめられているのだ！ これは我々われわれの世界からキミたちへの贈り物だ！」

箱の中から、赤い光がほとばしった。そして、その光の中に巨大な黒い影かげが浮かび上がった。

ダークファルス!! それは、ボクが夢ゆめの中で見たものよりも、はるかに巨大きよだいだった。顔も3つに増えている。千年前より、はるかにパワーアップされているようだ。

しかし、今のボクたちには戦うしかない道はない！

● 攻撃こうげきテクニクを使う (TP10以上の場合のみ) ↓ 3 2 2 へ

● 防御ぼうえきよテクニクを使う (TP6以上の場合のみ) ↓ 3 5 4 へ

● 武器ぶきで戦う ↓ 3 0 7 へ

271

「みんな！ 首だ!! このでのヤツは、意外いがいに首がもろいんだ！」

頑丈がんじょうなクーリー61に苦戦くせんするボクらに、カインズが叫ぶさけ。

「でしたら、私が！」

アーミアのスライサーが飛ぶ！ 彼女の狙い通りねら、クーリーの首が弾け飛んだ。

さて、このL字路を……。

●西に進む……………↓249へ ●南に進む……………↓282へ

272

「きゃっ！」

「いてて、何だこりゃ！」

先頭せんとうを歩いていたらアンヌとカインズが、いきなり飛び跳はねた。床ゆかに電流でんりゅうが流れていたのだ（戦闘せんとうPマイナス1）。

これはまずい。ボクたちは、通路つうろを引き返した。

↓294へ

273

「あれは何かしら？」ネイがパイプのすき間から、白い大きな箱はこを見つけた。

「コンテナだな。野盗やとうどもの物か？」

●カギがある……………↓39へ ●ない……………↓71へ



フレアウルフは尻尾しつぽの先から放電ほうでんした！ 青白い光がネイの足元あしもとで弾けはじ、彼女はもんどりうって倒れたたお。

「こい、おまえの相手はボクだ！」

怪物かいぶつは振り向きむぎさま、跳びかかとってきた。勝負しょうぶは一瞬いつしゆん！ ボクは満身まんしんの力をこめ、フレアウルフの頭たまを叩き斬きった！ 怪物は血ちを噴ふき上げ、その場ばにくずれ落ちた。

「大丈夫だいじょうぶかい、ネイ」ボクは妹いもうとを抱だき起こした。

「ええ」彼女はにっこりと微笑ほほえんだ。

この先、ボクたちは、

●西に進む

.....⇩193へ

●北に進む

.....⇩223へ

剣けんで何度も叩たたき落としても、スニファイラビットは、次から次へと牙きばの生はえた内臓ないぞうを投げつけてくる。

「痛いたっ！」そのうちのひとつが、肩かたにかみついてきた！（HPマイナス2）

なんとかそれを振り落としたものの、ボクの右手にはいく筋すじもの血ちがしたたり落ちる。が、しばらくすると、ウサギたちの攻撃こうげきが鈍にぶりだした。そう、内臓を投げすぎて、投げる

ものがなくなってしまうたらしい。

「……なんかマヌケな展開だなあ……」

「ユース、勝ったからいいんだよ！ それより、こいつらの金、いただこーぜ」(50メセ
タ入手)

とにかく、先を急ごう。

↓378へ

276

ポリツアイは、ヒザから小型ミサイルを発射してきた！

まったく予想外の攻撃だった。慌てて床に伏せたが、背後からの衝撃をまともにくらってしまった。飛んできた弾片が、ボクたちの背中を打った(HPマイナス1)。

ロボットは、再び発射の体勢をとった。すかさずアーミアが、スライサーを投げた。まさに飛び出そうとするミサイルの弾頭を切断！ ポリツアイは自爆した！

「まったく、場所を考えて武器を使って欲しいものね」

ジャマ者を片づけたボクたちは、L字路を、

●西に進む

……………

↓180へ

●北に進む

……………

↓204へ

277

それは帽子ぼうしだった。

その帽子のタグには、マジックハットと書かれていた（マジックハット入手。ただし、2回目以降いこうは関係かんけいありません）。

さっきの通路つうろにもどると、今度は……。

●南に進む …………… ↓ 238へ ●北に進む …………… ↓ 249へ

278

L字路じろに出た。そこには、昇降リフターしやうこうもあった。

●西に進む …………… ↓ 239へ ●北に進む …………… ↓ 224へ

●リフターに乗る …………… ↓ 299へ

279

ガトリング砲ほうの雨あられをかいくぐり、カインズがヤツに飛び乗った！そして、目にもとまらぬ早業はやわざで、バンリーダーを解体かいたいしはじめたじゃないか。

「よし、みんな伏ふせる！」そう言いってカインズが飛び降りた瞬間しゆんかん、バンリーダーは物凄ものすごい爆発音ばくはつおんを上げ、砕くだけ散ちった。

まるでギャグだな……。とにかく敵を倒したボクらは、T字路を、

- 東に進む……………↓342へ ●西に進む……………↓333へ
- 北に進む……………↓247へ

280

主を失ったそのビルのフロアーを見てまわるが、特になんの異常もみられない。

「リフターで上の階に行ってみる？」

アンヌがリフターを見つけた。が……。

「なんでえ、これ壊れてて動かねえぜ。おっと、オレが壊したんじゃねえぜ！」

「ホホ、カインズさん。誰もそんなこと言っただけでなくってよ。とにかく、上に行きたければ、階段でどうぞってことね。それとも、ほかへまいりますか？」

アーミアが首を傾け、ボクにたずねた。

- 上の階に行く……………↓261へ ●右のビルに行く……………↓390へ
- B地区に行く……………↓12へ ●C地区に行く……………↓22へ



「なんだ、行き止まりじゃないか——うわ！」

振り返ったボクらの目の前に、首をもたげたアーキドラゴンが現われた。

こいつは強敵だ！

テクニックで戦うか、それとも武器を使うか？（テクニックで戦うにはTPが14以上でなければなりません）

●テクニックで戦う……………↓225へ ●武器で戦う……………↓338へ

L字路に出た。そこには、さつき上ってきた階段があった。

さて、このまま降りて別のビルに行くか、さらにこのビルを調べるか。

●西に進む……………↓238へ ●北に進む……………↓296へ

●別のノッポビルに行く……………↓390へ

ボクたちは、ロボットども相手に戦闘体勢をとった。

ヘビースルジャーとバン 17+バトルP（1のC）

ユーシスたち 戦闘P+バトルP(2のJ)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 230へ ●下 …………… ↓ 246へ

284

カツシーン!

なんてことだ、ダークサイドのライト・セーバーに、剣を弾き飛ばされてしまった!
頭上にヤツの邪剣が光る! ああ、みんな、後のことはたのんだぞ!

END

285

カインズとアンヌの投げた刃物が、ダークファルスの額に突き刺さった!
アーミアのスライサーが、ヤツの右の首を切り裂く! 怪物の頭が、ゴロンと転がった。

やったか!

突然、落ちたヤツの頭が、宙に浮き上がった。

どういうことだ?

ダークファルスの頭が無数に現われ、消えていった。

そして、視界が真っ赤になったかと思うと、再びもとの状態にもどっていた。ちぎれた



285●いったいどういうことだ!? ダークファルスの顔が^{むすう}無数に現
われては消えていく。幻覚^{げんかく}を見せられているのか……?

はずの怪物の頭は、いつの間にかまたくつついていいる。

幻覚でも見せられたのか？

ほかの仲間も同じものを見たのか、口を開けて呆然といった顔をしている。何か様子が変だ。

ダークファルスは、不気味な表情でボクを見おろしているが……。

●テクニックで攻撃 …… ↓337へ ●様子を見る …… ↓370へ

286

ウーゾ島に向かって出発。ボクらは、ひとかたまりになって泳ぎはじめた。

島まであと1キロくらいに近づいた時。ボクは、アンヌの姿がないのに気づいた。

「ユーシス、大変よ！ 囲まれている！」ネイが叫んだ。

波間のいたるところにエビ茶色の怪物の姿が見えた。バイオモンスターのシーシザースだ！ アンヌもこいつらにやられたのか！

シーシザースどもは包囲をせばめてきた。アーミアのスライサーもルドガーの銃も水中では効果がない。ヤツらの攻撃の前にボクたちは、ひとたまりもなかった。

くそ、遠回りをしてでも乗り物を手に入れておくんだった。

END

そこは、『ガイラ』のコントロール室だった。

巨大なスクリーンに、アルゴル太陽系の各惑星の運行図が表示されている。ルドガーが装置を操作し、『ガイラ』の現在位置をスクリーン上に映した。

「大変だ！ パルマ星に向かっているぞ！ もう時間がない」

ボクたちは、コントロール室を調べた。どこかに、軌道を変えるシステムはないのか!? ガチャン。部屋に金色のロボットが入ってきた。ポリツアイSSだ！

「無駄だ。ココデ、オ前タチハ死ヌノダ」

●TPが8以上……………↓303へ ●7以下……………↓244へ

「いや……まだですが」

「ならばもう一度、迷宮の中に入りたまえ。言っておくが、この先待ち受けている『敵』に比べれば、この地下迷宮の怪物などかわいいものだぞ」

たしかにそうかもしれぬ。ボクたちは、ルツの迫力に押されるように、再び降りていった。最初の曲がり角を、

●南に進む……………↓355へ ●西に進む……………↓328へ

289

「かたまってたんじゃやられる、散るんだ！」

トレーサベースの目を欺くため、ボクらはそれぞれの方向から攻撃を開始した。さすがのトレーサベースのレンズでも、6つの目標は追いきれない。

「今だ！」ボクはヤツのスキをついてその真下に潜りこみ、剣を突き立てた！

ジ、バチバチ、ドガーン！

バラバラになったトレーサベースの破片が、ボクの頭上に降りそそいだ。

この後、L字の曲がり角を、

●東に進む ↓ 264 へ ●南に進む ↓ 340 へ

290

またT字路だ。

●東に進む ↓ 259 へ ●南に進む ↓ 334 へ

●北に進む ↓ 320 へ



ボクはダーティ・アンゴラの腸ちようをかわすと、床ゆかを蹴けって、ジャンプ！
 ヤツの脳天のうてんに剣けんを垂直すいちよくに突つき立てた。

ダーティ・アンゴラは声ひとつあげることなく、立ったままこと切れた。

「片づいたわね」アーミアの声に振り向くと、床にダーティ・アンゴラの死体がいくつも転ころがっていた（戦闘Pプラス1）。

「みんな、ケガはない？」

アンヌの問いかけにボクらがうなずいた。そのとき、

「ミヤウーン♡」とネコの鳴なき声こゑが。

見ればボクの足元に、愛あいらしい白いネコがすり寄よってきてるじゃないか。

どうやら、ただのネコのようなだ。

●マジックハットを使う……………↓347へ ●マジックハットを使う……………↓369へ

●どちらの帽子ぼうしも持っていない……………↓312へ

薄暗うすぐらい地下ちかに下りると、深くガスがたちこめていた。

奥おくの方へと通路つうろは伸びているようだが……………。

- 奥に進む……………↓178へ
- 左のビルに行く……………↓18へ
- B地区に行く……………↓12へ
- C地区に行く……………↓22へ

293

パオーン!

なんと、ネオ・マンモスが、仲間を呼び寄せてきたのだ! ビルに体当たりしてる。

- TPが6以上……………↓323へ
- 5以下……………↓351へ

294

「この人工衛星、どこかに流されているみたいよ」

「どこかに、軌道をコントロールする装置があるはずだ。それを探すんだ」

だが、そんなボクらをジャマするように、ロボットが現われた。円錐形の小型ロボット、トレーサーだ。

ボクたちは、武器を取り上げられてしまっているが……。

- テクニクで戦う……………↓234へ
- 逃げる……………↓265へ

マザーブレインが、もう一度同じ攻撃こうげきをすることはわかっていた。だが、それをかわすことはできなかつた。全員ぜんいん足をやられ、身動みうごきすることさえできなかつたのだ。

まともにエネルギー波をくらつたボクたちは、その瞬間しゆんかん、心臓しんぞうを止めていた……。

END

「へえ、産業さんぎやうロボットだぜ、クーリー61だつてよ。なんかまだ使えそうだな」

そこには、黄色のごつついロボットがあり、カインズが興味深きようみぶかそうに見回している。

ギユイン！ 突如とつじよ、ヤツの目に光が走り、巨大きよだいなマニピュレーターが、カインズを弾はじき飛ばした！

「うわあ！ くっそお、スクラップにしてやらあ！」

クーリー61 17十バトルP（1のJ）

ユーシスたち 戦闘せんとうP十バトルP（2のF）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 271へ ●下 …………… ↓ 317へ

T字路だ。

297

●西に進む

..... ↓ 3 2 1 へ

●南に進む

..... ↓ 3 8 8 へ

●北に進む

..... ↓ 9 4 へ

298

L字の曲がり角に来た。

●西に進む

..... ↓ 2 5 6 へ

●北に進む

..... ↓ 3 5 5 へ

299

「うわあ！ ここは遊園地かあ？」

リフターは乗ったとたん、急降下。むしろ落ちているといったほうがいいぐらいのスピードで、ボクらをさらに下のフロアーへと運んだ。

リフターを降りたところは、L字形に通路が曲がっていた。

●西に進む

..... ↓ 2 6 3 へ

●南に進む

..... ↓ 2 0 2 へ

ボクらは、アルテプラノに向かつて、クレバス（氷の裂け目）の谷底を進んだ。

「ありや、こんなところで人と会うとはねえ」

人なつつこそうな顔をしたデゾリアンが話しかけてきた。

「ボクらは、ある男を探してモタビア星からやってきたのです」

「おお、このクレバスの奥に、聖なるお方が眠っておられるときくズラ。気をつけてな」

聖なるお方……？ とにかく、いよいよここでマザーブレインの謎を握る男と会えるかもしれないと思うと、自然と心臓の音が早くなる。

クレバスがふたつに分かれたところに出た。どちらかに進まねばならない。

●左へ進む …………… ↓ 325 へ ●右へ進む …………… ↓ 281 へ

よし、いつきに片をつけてやる。

ボクは、切札ともいえる攻撃テクニックを使うことにした。

「くらえ、ダークファルス！ ——メキドだ！」

ヴォ——ン!! すさまじい音とともに、ダークファルスの巨体がオレンジ色の光に包まれた！ そして、爆裂した！



301●くらえ、メキドだ！ ダークファルスの^{きよたい}巨体がオレンジ色の
光に^{つつ}包まれた。そして、^{ぼくれつ}爆裂！ ——だが、ヤツはまだ……。

一撃必殺いちげきひつさつの攻撃こうげきテクニク、メキド。こいつのすさまじい破壊力はかいりょくの前には、さすがのダークファルスもまいったようだ。

もつとも、このテクニクは使ったほうも、負担ふたんが大きい。いわば捨身すてみの戦法せんぽうなのだ。これにくたばってもらわないと、こつちが困こまる（TPマイナス5、HPマイナス2）。

「ひゃーっ！」

カインズがすつとんきような声をあげた。

「どうした？」

「ま、まだ生きているぜ、あいつ！」

「何っ！」

爆煙ばくえんの中から、ゆらりとその姿すがたを現わすダークファルス。体を引き裂さかれているというのに、いったいなんてヤツだ。

「みんな、今度こそとどめだ！」

ボクたちは、ダークファルスを包囲ほういし、いつせいに攻撃した。

ダークファルス 29 + バトルP (1のB)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のE) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 391へ ●下 …………… ↓ 361へ

302

ルツに教えられ、ボクはイクトリーの地下迷宮にたどり着いた。ルドガーたちも一緒だ。
 「まさか、千年前からユース君の運命が決まっていたとはな」
 「ボクはしかたがないけど、あなたたちまで、危険につきあうことはないのに」
 「何を言ってるのよ、また。ここまで来て事件の黒幕を見ないで帰ってんじゃないでしようね」と、シルカ。

「そうだそうだ。きつと、あんたの御先祖のアリサって娘は、美人だったに違いねえ。そのためにも、オレは戦うぜ」などと、カインズも訳のわからんことを言う。

「よし、わかった。みんなで、アルゴルを守ろう！」

こうしてボクたちは、イクトリーの地下迷宮に足を踏み入れた。

氷の階段を下りると、通路は2方向に分かれていた。

●西に進む

.....

↓328へ

●南に進む

.....

↓355へ

303

「ナガージ！」

対ロボット用のテクニクが、ポリツアイSSに炸裂！（TPマイナス2）
 全身から火花を散らし、ロボットは転倒した。だが、その瞬間、すさまじい衝撃がコン

トロール室を揺るがした。

ポリツアイSSに内蔵ないぞうされていたミサイルが、誘爆ゆうばくしたのだ！ ボクは、再び意識いしきが遠のいていった……。このまま、パルマ星に激突げきとつして死ぬのか……。
↓214へ

304

L字の曲がり角に出た。

●東に進む …………… ↓348へ ●南に進む …………… ↓328へ

305

ガガーン！

ボクがネオ・マンモスの足に斬きりつけたのとほぼ同時どうじに、ルドガーの銃じゆうがヤツの耳を撃うち抜ぬいた！ 弾丸だんがんは右耳みぎみみから左耳ひだりみみへ貫通かんつう。

ネオ・マンモスはズズーンと音をたて、その巨体きよたいを横たえた（戦闘せんとうPプラス1、TPプラス1。1000メセタ入手）。

「なるほどね。でかいヤツほど、もろいところはもろいってわけだ」

「ねえ、こんな物を見つけたわよ」

近くのビルに逃にげこんでいたアンヌが、なにやら紙きれを持って駆かけてきた。

「これは地図ちずじゃないか。アウクバルとアルテプラノか……。ここに行けば、きつと手掛てがかりが得えられるぞ！」(地図入手)

と、先がやや見えたとところで、Eにチェックはあるか？

●ある ↓129へ ●ない ↓353へ

306

「おい、これ見ろよ、流出りゅうしゅつガスに注意ちゅういだつてよ。この辺、ヤバイんじゃないの」
カインズが古い新聞ふるしんぶんを拾ひろって読み上げた。

そこで、ボクらはこのビルを出ることにした。

●左のビルに行く ↓18へ ●B地区に行く ↓12へ

●C地区に行く ↓22へ

307

「くらえ！」

ルドガーは、ダークファアルスの顔に弾たまを撃うちこんだ。アーミアもスライサーを投げた。
だが、ダークファアルスは、うめき声ひとつ上げなかった。逆さかにビームを口から放ち、ボクたちを床ゆかに叩たたきつけた(HPマイナス2)。
↓375へ

「うわあ！」

敵のガトリング砲から放たれた弾が、ボクの足をかすめた！（HPマイナス1）

さらに、ヤツのヘッドが開き、ビーム砲が現われた！

とつさにボクは、足元に転がっていたコンクリートの破片を、ビーム砲の発射口めがけて投げつけた！

ヴオオオオ、チュドーンンンン！

異物によつて出口をふさがれたビームは、バンリーダーを自爆へと追いこんだのだ。

「まるでマンガだね……」アンヌがあきれたようにつぶやく。

なにはともあれ敵をやり過ぎしたボクらは、T字路を……。

●東に進む……………↓342へ ●西に進む……………↓333へ

●北に進む……………↓247へ

炎が地をはい、向かってきた！

「ちっ！」横っ飛びでかわし、ルドガーが床の裂け目を撃った。

怪物がひるんだスキを狙って、シルカがナイフを突き立てた！ ほかのみんなも攻撃を

かける。——ふいに、キングレムレスの姿すがたが消えていた。
あつさりと怪物を撃退げきたいしたボクたちは、

●南に進む …………… ↓ 379へ ●西に進む …………… ↓ 290へ

310

アウクバルに向かうボクらの行く手を、スニファイラビット4匹がさえぎった。
「アーン、もう！ 毛皮けがわは間まにあつてるわよ！」

アーミアがイラついたようにスライサーをかまえる。

スニファイラビット 19バトルP (1のD)

ユースたち 戦闘Pせんとう + バトルP (2のA) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 332へ ●下 …………… ↓ 275へ

311

突き当たりの所に4つの人影ひとかげが現われた。

みんな、長い髪かみを垂たらし、長いマントをはおっている。

「あなたたちは？ ルツさんみたいな格好かつこうをしてるけど (顔おだけ不細工おさいくだな)」

「わたしは、モツ」

「ハツ」

「タン」

「スナギモ」

なんなんだ、こいつらは？

「おや、『なんなんだ、こいつらは』と言いたそうな顔をしていますな」と、モツ。

「あんたらは、エスパーか？」

「とんでもない。わたしらはルツ様のようになりたいたいと思って、この地下迷宮ちかめいきゆうで修行しゆぎやうを積つんでいるだけです。どうです、仲間なかまになりませんか」

「い、いえ、けっこうです」どうもうさん臭くさい連中れんちゆうだ（Fをチエック）。
T字路じろの所にもどったボクたちは今度こんど、

●西に進む …………… ↓ 3 3 4 へ ●北に進む …………… ↓ 2 5 9 へ

3 1 2

「ミヤウン」とネコはすり寄よると、そのまま走って行ってしまった。

ボクらはビルの外へ出た。今度はどこへ行こう？

●B地区に行く …………… ↓ 1 2 へ ●C地区に行く …………… ↓ 2 2 へ

●右のビルに入る …………… ↓ 3 9 0 へ

313

「おらおら、治療ちりようするんかせんのか、はつきりせんかい！」

どうもこの医者いしゃは、かなり荒あつぽいようだ。指をペキバシ鳴ならしながらの応対おうたいに、ボクらはちよつとためらった。おまけに料金がべらぼうに高い。

○60メセタでHPプラス2 ○120メセタでHPプラス4 (どちらかひとつだけ選えらぶことが出来る。治療しなくても可か)

めまいを感じつつ病院を後にした。

●武器店に行く……………↓366へ ●アルテプラノに行く……………↓300へ

●デゾリアンに話しかける……………↓384へ

314

アーキドラゴンはボクをくわえると、ゴツゴツとした岩肌いわはだめがけて叫たきつけた。薄うすれゆく意識いしきの中で、ボクは夢ゆめの中に出て来る少女の、悲しげな顔を思い浮うかべていた。

END

(ただし、TPが14以上ならば、↓119へ。さあ、ユーシスの運命うんめいはいかに?)

「ここにありません」ボクは、ネイ・シールドを掲げて見せた。

「でも……ネイ・ソードのほうはまだ」

「見つからないので、もどってきたと」

「はい」

「そうか、見つからないか」ここで、ルツは小さく笑った。そして、長いマントの下から何かを取り出した。

「見つからないのも、ムリはない。ネイ・ソードは、ここにあるのだから」

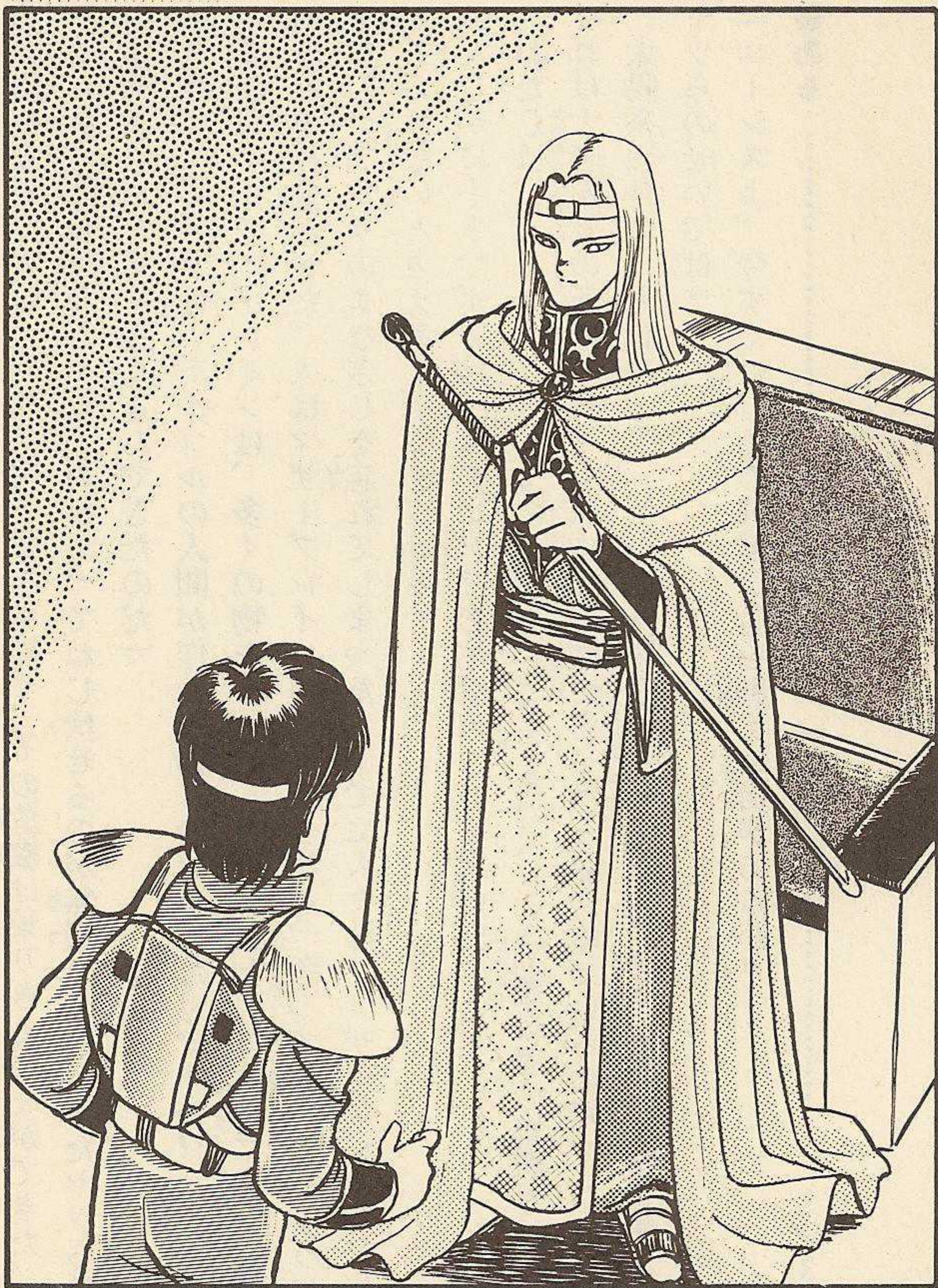
「ああ！」

「だまして悪かった。キミを試したのだ。勇気あることも大事だが、ただがむしやらに前進するだけでは本物の勇者にはなれないからね。だが、さすがにアリサの血をひく者だけのことはある。光の力と闇の記憶を受け継ぐ資格があると認めよう」

ボクは、あらためて、ルツからネイ・ソードを受け取った（ネイ・ソード入手。戦闘Pプラス5）。

「それでルツさん、アルゴルを狙う者について、お話ししてくださるはずでしたが」
ルツはうなずいた。

「千年前、アルゴルの滅亡を企む者は、邪教の仮面をかぶり、ダークファルスという悪の



315●「キミに光の力と闇の記憶を受け継ぐ資格があると認めよう」ルツはそう言い、ボクにネイ・ソードを渡してくれた。

力を送りこんできた。アリサたちのおかげで、その危機は乗りきることができた。しかし、ヤツらはあきらめなかった。力によってねじ伏せるのが無理だとわかったヤツらは、今度はマザーブレインを送りこんできたのだ」

「マザーブレインは、アルゴルの人間が作った物じゃなかったんですか!？」

「そうだ。マザーブレインは、多くの物を作り出し、我々にとって本当に必要な物が何であるかを見失わせた。人はマザーブレインの作り出す物を、争って奪いあうようになり、やさしいアリサのままざしを忘れてしまった。すでに人々は、マザーブレインなしには生きていけないときえ考えはじめている」

「たしかに……」ボクは、モタビアでの生活のことを思い出した。

「わたしは、マザーブレインやダークファアルスをもたらした邪悪な者の出所を知っている。それは太陽系外の所で、我々の滅亡への歴史をじつと見つめているのだ」

太陽系の外？　もしや、そこに行くはずの調査船——ボクの両親が事故を起こしたのもヤツらのせいでは？

「ユースよ。今すぐに、その邪悪な者を倒す自信があるか？」

●ある …………… ↓ 336 へ ●ない …………… ↓ 365 へ

立ち上がろうとしたとたん、さらに1発くらった。
 情け容赦のない攻撃が続く。仲間が次々にビームの餌食になつていった。
 「くそっ！」ボクは、最後の力を振り絞って飛び上がった。

だが、その一撃もあつけなく、受け止められてしまった。ついにボクは、
 ダークファールの巨大な鉤爪に捕らえられた。

く、こんな所で死ぬなんて！

ボクは、その最期の瞬間に仲間たちの顔を思い浮かべた……。

END

ガガガガガッ！

クーリー61の撃った弾が、ボクの剣を弾きとばした！（HPマイナス！）
 それを拾おうとしたものの、手がしびれて言うことをきかない。

「首を狙うんだ！」カインズが叫ぶ！

ドヒュッ、ドヒュッ、ドヒュッ！

ルドガーのショットガンが、見事にクーリーの首に命中。それは、ガツシヤーンと音を

たて、ボクの足元に転がった。

さあ、このL字路を……。

●西に進む……………↓249へ ●南に進む……………↓282へ

318

突然、ボクの持っていたエアロプリズムが光りはじめた。その神秘的な光に照らし出され、今までなかったはずの箱が姿を見せた（エアロプリズムを失う。リストから消す）。

箱の中には、アルゴルの紋章の入った立派な盾が入っていた。これが、ネイ・シールドか！（ネイ・シールド入手。戦闘Pプラス3）

「ついにやった。あとは、ネイ・ソードだけ……。いったい、どこに？」

角の所に地上へ通じる階段がある。いったん地上に出るか、さらに迷宮内を探るか？

●階段を上る……………↓343へ ●引き返す……………↓334へ

319

トレーサベースの放つレーザーは、的確にボクらを追いつめた！ くそう、逃げるのに精一杯で、手も足もでない（HPマイナス1）。

「へーい！ 鬼さんこちら！」

突如、カインズが大声をあげて敵の前に飛び出した。そうか、おとりになつてくれよう
 っていうんだな。トレーサベースの冷たいレンズがカインズを捕らえた瞬間、ボクはヤツ
 のすきをついてその真下に入りこみ、剣を突きたてた！

ジ、バチバチ、ドガーン！

バラバラになつたトレーサベースの破片が、ボクの頭上に降りそそいだ。

このL字路をどちらに進もうか。

●東に進む ↓ 2 6 4 へ ●南に進む ↓ 3 4 0 へ

320

T字路に出た。

●南に進む ↓ 2 9 0 へ ●東に進む ↓ 3 6 7 へ

●西に進む ↓ 3 5 5 へ

321

十字路に出た。

●東に進む ↓ 2 9 7 へ ●西に進む ↓ 2 4 7 へ

●南に進む ↓ 3 4 2 へ ●北に進む ↓ 2 3 6 へ

3 2 2

ボクたちは、それぞれのテクニクで攻撃した。

火炎を出すナフオイエ！ 重力場を発生させるグラブト！ ビームを発するグラン

ツ！ 次々とダークファルスに炸裂する！（TPマイナス4）

だが、ヤツはなんとという怪物なんだ。これだけの攻撃をくらいながら、まだくたばらな
いなんて！

↓ 3 7 5 へ

3 2 3

「テクニクを使うんだ！」

ボクらは、シュネラの呪文で動きをすばやくした。そして、ネオ・マンモスの群れから
逃げだした（TPマイナス3）。

● Eにチェックがある …… ↓ 1 2 9 へ ● ない …… ↓ 3 5 3 へ

3 2 4

いきなり、床全体に衝撃が走った！ ふいを突かれて、ボクら全員がダメージを受けた。

これは!?（HPマイナス3）

● HPが15以上 …… ↓ 3 9 5 へ ● 14以下 …… ↓ 2 9 5 へ

分かれ道を左に進むボクらの目に、白亜の宮殿が現われた。

この中に、ボクらが探し求めていた答がある……。

息をのみ、そつと入り口の扉に手をかけた。

中は広々とした大理石のフロアーが広がっており、その中央にフードをかぶった男たちが、何かを囲むように立っていた。いいようもない厳肅な雰囲気にもまれ、ボクらはだまっただま、静かに進んだ。

彼らが囲んでいたのは、コールドスリープ（冷凍睡眠）用のカプセルだった。

「よくぞいらつしやいました」

静寂を破ったのは、彼らのほうだった。

「あの、ボクらは……」

「存じております。ここに、かつてアルゴルを救うため戦った、尊いお方が眠っておられます。戦いが終り平和な時代になったとき、王にアルゴルの未来を託され、コールドスリープにつかれましたのです。そう、この地に再び危機が起こったときに目覚めるようにと……。マザーブレインというものがこの世に現われたとき、この方は排除されそうになった。そのとき、この方にお仕えしていた私たちの先祖は、このカプセルごと、この地に逃げのびてきたのです。それから私たちは代々、この方をお守りしてまいりました。この方は10年

前と、3年前に一度目覚められました。私達がこうして無事でいられるのも、そのおかげです。そして、昨日、この方は私たちにこうおっしゃった。『もうすぐユーシスという青年がやってくる。そのとき私は真に目覚める』と……」

ボクたちの目の前で、コールドスリープのカプセルは、ゆっくりと開きはじめた。

↓240へ

326

ボクはカオスソーサラーが発した稲妻をよけると、ヤツの懐深く飛びこみ、その左胸に剣を突きたてた（戦闘Pプラス1、50メセタ入手）。

さて、荒れ果てた無人のビルをボクらは……。

●1階をそのまま進む …… ↓306へ ●地下へ下りる …… ↓292へ

327

ボクたちは、ダークファルスを包囲し、いつせいに攻撃した。

ダークファルス 34 + バトルP (1のJ)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のC) で戦います。

●敵よりPが上 …… ↓391へ ●下 …… ↓361へ

328

進んでいくと、T字路じろに出た。

●南に進む……………↓256へ ●北に進む……………↓304へ

●東に進む……………↓380へ

329

ブワシイイ!

くそお! ネオ・マンモスの鼻に、足あし払いをくっつけてしまった(HPマイナス1)。

ボクを踏ふみつぶそうと、ヤツが足を上げた瞬間しゆんかん、

ガガーン! ルドガーの銃じゆうが、ヤツの耳を撃うち抜ぬいた! 弾丸だんがんは右耳みぎみみから左耳ひだりみみへ貫通かんつう。

ネオ・マンモスはズズズーンと音をたて、その巨体きよたいを横たえた(戦闘Pプラス1、TP

プラス1。1000メセタにゆうしゆ入手)。

「なるほどね。でかいヤツほど、もろいところはもろいってわけだ」

「ねえ、こんな物を見つけたわよ」

近くの町に逃にげこんでいたアンヌが、なにやら紙きれを持って駆かけてきた。

「これは地ち図ずじゃないか。アウクバルとアルテプラノか……。ここに行けば、きつと手掛てがかりがえられるぞ!」(地ち図ず入手)

と、先がやや見えたとところで、Eにチェックはあるか？

●ある …………… ↓129へ ●ない …………… ↓353へ

330

マザーブレインは、得意とくいのエネルギー波攻撃こうげきに出た！ ボクたちは、一瞬いつしゆん早く気づいて飛び上がった。この攻撃は、タイミングよく床ゆかから離れれば安全あんぜんだ。

だが、敵はそのことも読んでいた。ボクらが空中くうちゆうにいるうちに、ビームを発射はつしゃしたのだ。時間差攻撃じかんさこうげき！ これでは、逃げにようがない！

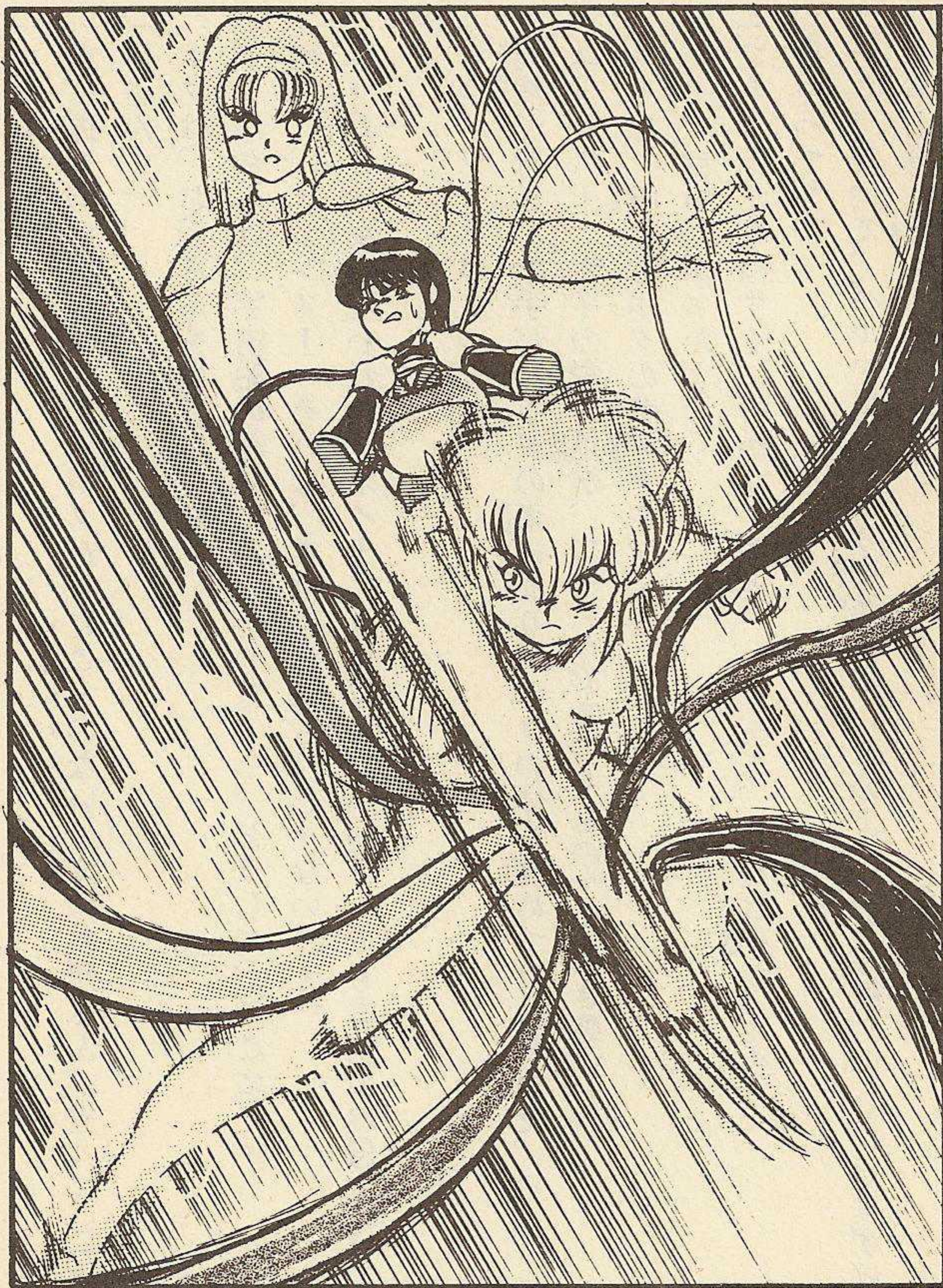
ボクたちは、ビームに叩たたき落とされ、さらにエネルギー衝撃波しょうげきはを浴びあせられた！（HP マイナス5）

●HPが15以上 …………… ↓360へ ●14以下 …………… ↓295へ

331

いかん！ これは、マザーブレインの心理攻撃しんりこうげきだ！

そうわかっていても、これは強力だった。ボクは、仲間なかまたちから引き離はなされ、女神像めがみぞうの体内——宇宙うちゆうに吸すいこまれていった。デゾリス、モタビアと、体ひとつで飛行ひこうし、気がついた時にはパルマ星の宇宙空港うちゆうくうこうに立っていた。



331●アリサがよこしてくれたネイ。彼女たちのおかげで、ボクは
マザーブレインの心理攻撃しんりこうげきから逃れることができた。のが

「ユーシス！」

声に振り向けば、そこにはボクが見たことのないはずのお母さんが立っていた。

「母さん！」

ボクは、お母さんを抱きしめた。

「でも母さんは、宇宙船の事故にあっただって……。どうして、ここに？」

「待って、ユーシス！ それは、本物のお母さんじゃないわ！」

ネコ耳の少女が現われた。ネイ！ ネイじゃないか！ でも本物のお母さんじゃないって？

「ちっ、ジャマが入ったか」

突然、母さんの手がコードの束になり、ボクの体を締めつけはじめた。ぐっ、喉が！

「ユーシス！」 ネイの鋭い爪が、『母さんであったもの』を引き裂いた。

ネイは、咳こむボクの背中をさすってくれた。

「ネイ、会いたかったよ」

「でも、わたしはすぐに行かなくちゃ。ユーシス、これは夢なのよ」

「夢だった？」

「そう。だって、パルマ星は、もう爆発しているのよ。こんな所にいられるはずはないわ。

——早く目を覚ましてね」

そう言うと、ネイは迎えにきたもうひとりの少女と消えていった。あの栗色の髪の少女は……。夢の中の彼女——アリサ……。

——ボクは、再び、現実の世界にもどった。マザーブレインの心理攻撃に勝ったのだ。アリサがよこしてくれた、ネイによつて。

「よし、全員、ヤツの心理攻撃から脱出できたぞ！ いつきに逆襲をかけるんだ！」ルドガーが叫んだ。

- メキドで攻撃（TP14以上の場合のみ使える）……………↓383へ
- シフトで戦闘力アップ（TP6以上の場合のみ使える）……………↓393へ
- 武器で攻撃……………↓255へ

332

ギヤイイーン！

牙の生えた内臓を投げつけてくるスニファイラビットが、悲鳴をあげた。

そう、アーミアのスライサーが、片っぱしからヤツらの耳を切り落としたのだ。意外にあつさりと片がついた（戦闘Pプラス1、TPプラス1、50メセタ入手）。

「さあ、アウクバルに急ぎましょ」

まるでなにごとにもなかつたかのように、アーミアが涼しい顔をして言う。↓378へ

333

Eにチェックはあるか？

●ある……………↓386へ ●ない……………↓358へ

334

T字路じろに出た。

●西に進む……………↓363へ ●東に進む……………↓379へ
●北に進む……………↓290へ

335

「あの、ボクらはマザーブレインの謎なぞを握にぎる人物を探たずねているんですが……………」

「おお、そのお人だったら、アルテプラノにいるズラ。そうだ、クレバス(裂け目)があつて、それを左のほうに進むと会えるズラ」

「それは本当ですか？ ありがとう！」

「そんなに強く手を握にぎっちゃいやズラン」

思わず手をとったボクに、デゾリアンが頬ほおを染そめながら言った。

…………と、とにかくゆくりよく有力じようりよくな情報じようほうを得えることができたわけだ。

- 病院に行く……………↓356へ ●武器店ぶきてんに行く……………↓372へ
- アルテプラノに行く……………↓300へ

336

「もちろん、あります！」

「ならば、わたしはキミにアルゴルの未来みらいを託たくす。タイロンとミヤウの霊れいも、キミたちの戦いを見守みまもつてくれるだろう」

「タイロンとミヤウ？」

「千年前、アリサやわたしとともに戦った仲間なかまだ」

仲間か。そうだ、ネイの魂たましいもボクたちを見ていてくれるに違ちがいない。

「よし、では行け!! アルゴル太陽系たいようけいの外まで！」

↓385へ

337

「ナフオイエだ！」

ところが、この炎ほのおを出すテクニクは不発ふはつに終わった。使うのに必要ひつような神経しんけいの集中がで
きなかったのだ。

そのスキを突つかれ、ダークファルスのビームをくらってしまった（HPマイナス1）。

ふいにボクは、自分が弱気よわきになつてゐることに気づいた。

ほかのみんなも自信じしんをなくしたような顔をしてゐる。

妙みょうだ。もしや、怪物の精神攻撃せいしんこうげきをくらつてしまつたのでは……？

く、くそっ！ ボクは、できる限りかぎの気力きりよくをこめ、ネイ・ソードをかまえた。

↓399へ

338

アーキドラゴン 26 + バトルP (1のJ)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のE) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓364へ ●下 …………… ↓394へ

339

ボクは、右に左にと攻めせてくるリビングブレードの刃はをかわし、チャンスを待まつた。

が、どうしたというのだろう。足がもつれ、うまくよけられない。おまけに目までかすんでくるじゃないか

そうか、この辺いったい一帯にたちこめてゐるこの白いガスに毒どくが……。

●TPが12以上 …………… ↓164へ ●11以下 …………… ↓196へ

340

「I字路じろに出た。さらにここには、地上へと続くリフターがある。」

- 東に進む ↓ 2 4 7 へ ●北に進む ↓ 2 2 0 へ
- リフターに乗る ↓ 3 6 2 へ

341

いきなり、ダークファルスがビームを放った！ 3つの口からの同時攻撃どうじこうげき。よけきれるもんじゃなかった（HPマイナス5）。

（スターアトマイザーを使えば、1個につきHPプラス5、TPプラス2。モノメイトを使えば、1個につきHPプラス2）

- HPが18以上 ↓ 2 8 5 へ ●17以下 ↓ 3 1 6 へ

342

「I字路じろに出た。どの方向に進もうか。」

- 東に進む ↓ 3 8 8 へ ●西に進む ↓ 2 2 6 へ
- 北に進む ↓ 3 2 1 へ

外に出て驚いた。迷宮の入り口の所に、なんとルツが立っていたのだ。

「ユース君、ネイ・シールドは持ってきたかね？」

●持ってきた……………⇩315へ ●持ってきていない……………⇩288へ

「あの、ちよつといいですか……………」ボクらはデゾリアンに話しかけた。

「なんら、オメーら。新興宗教のモンモン教かや？」

「よそものがなにしにきたズラ、話すことはなんにもネエダ」

「ジャマズラ。どいてくんな」

「オラたちの星に来てでっかい穴を掘つとつたパルマ人は、毒ガス事故にあつたズラ。い

い気味ズラ」

なんとかボデイランゲージで話そうとしたが、デゾリアンはみんな一様にぶつきらぼうで、ボクらはなにひとつ情報を得ることはできなかつた。

しょうがないので、とりあえず……………。

●病院へ行く……………⇩313へ ●武器店へ行く……………⇩366へ

●さらにデゾリアンに話しかける……………⇩384へ

ボクたちの前に、あわ淡い光につつ包まれた女が現われた。背後はいごの彫刻ちようこくから伸びた光線こうせんが、ホログラフイかなんかの立体映像りつたいえいぞうを結むすんでいるらしい。

やはり、これがアルゴルを自由じゆうに操あやつっているマザーブレインなのか!? ボクは、この女のかもしだす妖あやしい雰囲気ふんいきに押おしつぶされそうになった。——いかん! 今、ボクたちの肩かたにはアルゴルの未来みらいがかかっているんだ。のまれてはいけない。

「おや、おまえたちは、わたしを壊こわすつもりなのかい?」

女は、まるでボクの心を読んでいるみたいと言った。

「だけど、そんなことはできやしないよ。だってわたしは、おまえたちにとって、守まもり、慈いづくしみ、育ててきた母親と同じですもの。——わたしのかわいいアルゴル。これからわたしは、この子の手を引いて破滅はめつへの道を歩いていくのよ」

「何っ!」

「おほほほ、さあ、ここからお帰り。おまえたちにできることなど、何もないのだから」

「いや、ある! それは、マザーブレインを壊こわし、アルゴルに再び平和へいわをもたらすことだ」
マザーブレインの像ぞうは、唇くちびるに薄笑うすわらいを浮うかべた。

「くっくっくっ……。なんておバカさんなの。わたしを壊したら、世界中がパニックおちいに陥おちいるわ。わたしがいないと、アルゴルの人は何もできないのよ。それでも言うのなら、壊



345●ボクたちの前に、^{あわ}淡い光に^{つつ}包まれた女が現われた。これがアルゴルを自由^{じゆう}に操^{あやつ}っているマザーブレインなのか!?

しなさい」

もちろん、この答はルツに送りだしてもらおう時から決めていた。

「勝負だ、マザーブレイン！」

「そう、ならばこちらも容赦しない！」

立体像が消え、代わりにさらに巨大な像が浮かび上がった。4本腕の女神像——長い髪はコードのように背後へと伸びている。そして、一番驚くのは、その色彩だった。冷たいメタリック・ブルーのダークファルスと対照的で、まばゆいばかりに七色の光を放っているのだ！——こいつは、ただの映像じゃないのか!?

マザーブレイン 35 + バトルP (1のA)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のD) で戦います。

● 敵よりPが上 …………… ↓ 395へ ● 下 …………… ↓ 324へ

346

「止めるんだ！」

ボクは、シルカの腕を取った。

「離せ！」

うっ！ ボクの腕に鋭い痛みが走った。シルカにナイフで切られたのだ (戦闘Pマイナ

スー)。

くそ、シルカやルドガーを傷つけるわけにはいかない。
こうなれば、ダークファルスを倒すしか、みんなを正気にもどす手はないのか。
ボクは、ネイ・ソードをかまえ、怪物と向かい合った。

↓399へ

347

モジックハットをかぶって、ネコを抱き上げた。が……。

「ミギヤギヤギヤギヤ！ ウニヤランコ！」

「うわあ！」いきなりひとの顔を引つかきやがった！ ネコはボクの腕をスルリと抜け、
どこへともなく走り去ってしまった(戦闘Pマイナス)。

「ずいぶんと男前が上がったことよ」

十文字に傷ついたボクの頬を見て、アーミアがクスクスと笑っている。

なんとかこのビルから無事(?) 出ることができた。さて、今度はどこへ行こう？

●B地区に行く……………↓12へ ●C地区に行く……………↓22へ

●右のビルに入る……………↓390へ

348

L字の角の所で、ボクたちは宝箱たからばこを見つけた。開けてみると、大きな宝石ほうせきが出てきた。これがルツの言っていたエアロプリズムだ（エアロプリズム入手。ただし、2回目の人は関係かんけいありません）。

●南に進む……………↓367へ ●西に進む……………↓304へ

349

バリバリバリ！

カオスソーサラーの稲妻いなずまが、剣けんを直撃ちよくげき！ とたんにボクの体は金縛りかなしばにでもあったように動かなくなってしまった（HPマイナス1）。

「まかせろ！」ルドガーのショットガンが火を吹ふくと、敵の頭は吹ふっ飛んだ（戦闘せんとうPプラス1、50メセタ入手）。

荒れ果あはてた無人むじんのビルをボクらは……………

●1階をそのまま進む……………↓306へ ●地下へ下りる……………↓292へ



アーミアが、戦闘力を上げるシフトのテクニクを使った（TPマイナス2）。
 とたんに、体の中にパワーがみなぎり、神経がとぎすまされたようになる（戦闘Pプラス2）。

よし、いくぞ！

↓327へ

「と、とにかく戦おう！」

「マジ？ マジ？ ムワジイ？ オレ、パスしたいなあ」

カインズの叫びも、もつともなことだった。なにせ、1匹でもご遠慮願いたい相手だつてのにそれが束になつて迫つてきているんだ。

「だが、戦うしかなさそうだ！」

八方をふさがれ、意を決したようにルドガーが銃を抜いた。

ネオ・マンモス 23 + バトルP（1のH）

ユースたち 戦闘P + バトルP（2のI）で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓392へ ●下 …………… ↓374へ

352

突き当たりの所に4つの人影ひとかげが現われた。さっきのヘンな4人組——モツ、ハツ、タン、スナギモだ。

「やあ、また会いましたな。ところで、お探しのものは見つかりましたか？」と、モツ。あれ、さっきそのことを話したっけ？ こいつらは本当にエスパーなのか？

「それにしても妙みょうですなあ。ネイ・シールドはともかく、ネイ・ソードはここにはありませんぞ。ここで10年も修行しゆぎやうしているわたしが言うのですから間違まちがいありません。それを探せとは……」と、スナギモが言った。

え？ どういうことだ？ もっと詳しく聞きこうと思ったが、その時には彼らの姿すがたは消えていた。まったく、気ままなヤツらだ。

T字路じじろの所にもどったボクたちは今度、

●西に進む……………↓334へ ●北に進む……………↓259へ

353

アウクバルとアルテプラノ——。そこに行けば謎なぞが解とけるのだろうか？
考えていても始まらない。とにかく、行ってみよう。

●アウクバルに行く……………↓310へ ●アルテプラノに行く……………↓300へ

354

「デバンド！」アンヌは、**防御**のテクニックを使った（TPマイナス2）。
空気密度の違う見えない壁を作り、ボクたちの前方にバリアーを展開する。
ダークファルスが口から吐くビームは、すべてこのバリアーが散らしてしまった。

↓375へ

355

氷の通路を進んでいくと、T字路に出た。

- 東に進む……………↓320へ ●南に進む……………↓298へ
- 北に進む……………↓380へ

356

「ハ―イ、痛い痛い痛い飛んでけー、しませうね」
異様（医用？）に明るい病院だ。

- 30メセタでHPプラス2 ○60メセタでHPプラス4（どちらかひとつだけ選ぶこと）
- 武器店に行く……………↓372へ ●アルテプラノに行く……………↓300へ
- デゾリアンに話しかける……………↓335へ

357

炎ほのおが地をはい、向かってきた！ 不意ふいを突つかれたルドガーの足が、一瞬いつしゆん火に包つつまれた！

(HPマイナス2)

「くっ！」氷こおりの床ゆかを転ころげまわり、火を消すルドガー。彼は起おき上がると、床の裂さけ目を撃うつた。

怪物かいぶつがひるんだスキを狙ねらって、シルカがナイフを突つき立てた！ ほかのみんなも攻こうげき撃をかける。——ふいに、キングレムレスの姿すがたが消えていった。

「大丈夫だいじょうぶですか、ルドガーさん」

「心配しんぱいするほどの傷きずじゃないさ」

●南に進む……………↓379へ ●西に進む……………↓290へ

358

「おっと、行き止まりだ、引き返そう……………ん？……………なんか、人数たが足りないような……………」

「シルカだ！」ボクらはいっせいに声をあげた。

「カインズ、さっきまで彼女、あなたの後ろ歩いてましたわよね……………」

「アーミア……………、そんなこと言ったって……………シルカ！」

「(ズルツ)……………とにかく、ここにいてもしょうがない。さっきのどこまでもどろう。シル

カのことだもの、きつと無事でいてくれるさ」(Eをチエック)

ともかくT字路に引き返し、今度は、

●東に進む …………… ↓ 342 へ ●北に進む …………… ↓ 247 へ

359

ギ・ル・ザークたちは、鉤爪になった手を前に突き出した。そこからほとばしる電光！
後ろの壁が砕け散った！

だが、その時ボクの体は空中にあった。ヤツらの真上から、剣を振り降ろす！
最初のヤツが、真つ二つになって倒れた。

残りの2人もルドガーとアーミアが片づけた。

「ふう、少しは、体が暖かくなったかな。…………どつちへ行く？」

●北に進む …………… ↓ 328 へ ●東に進む …………… ↓ 298 へ

360

「バイオモンスター事件も、もとはと言えはおまえが黒幕だったんだな！」ルドガーがい
つにない強い口調で叫んだ。

「くたばれ！」ルドガーの銃口が火を吹いた。

「それに、犯人をわたしたちに仕立てようとしたのもね」

「やり口が汚いわよ！」

アンヌとアーミアが、同時に攻撃する。

「アメダスを破壊して、洪水を起こそうとした」

カインズが、女神像の髪を切った。

「そして、パルマ星を破壊した！ 何十億もの人がいたパルマを！」

シルカが、いつの間にか手に入れていたクリスタファイールドで、グラブトのテクニクを使った。すさまじい重力場が、マザーブレインを押しつぶそうとした！

「この、生意気な人間めら！」

マザーブレインは、再びエネルギー波攻撃に出た！

そうはいくか！ ボクは、いち早く飛び上がった。ネイ・ソードをこん身の力をこめて振り降ろす！

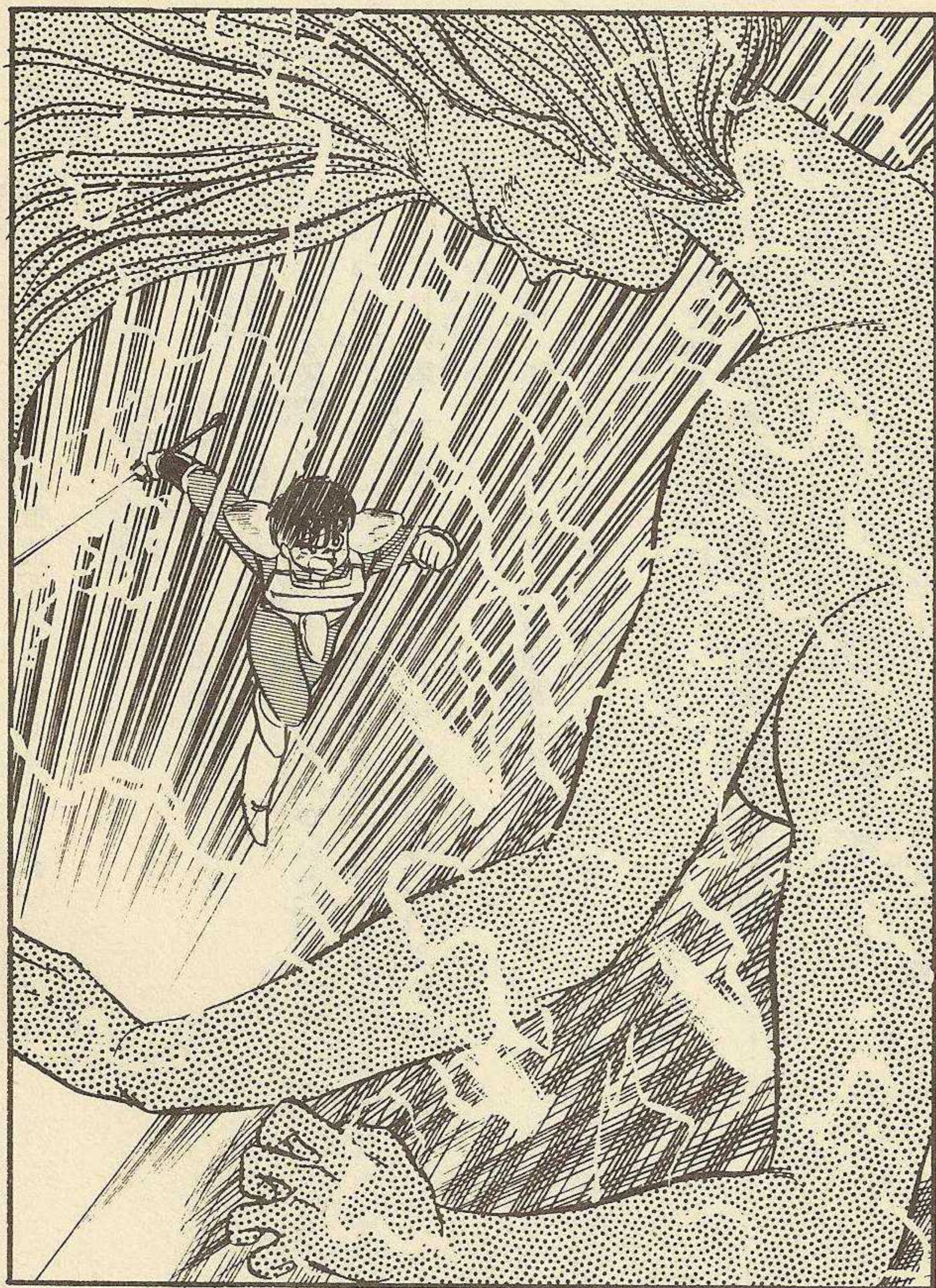
「ネイと両親のかたき！ 死ねえ!!」

ネイ・ソードは、女神像の胸を貫き、背後の壁に突き刺さった！

「ぎゃあああああああ——っ!!」

女神像は消滅し、マザーブレインは完全に機能を停止した。

やった！ アルゴルは、ついにマザーブレインの支配から解放されたのだ。



360●マザーブレインはエネルギー^{は こうげき}波攻撃に出た。そうはいくか！
ボクは、いち早く^と跳び上がった！ とどめだーっ!!

でもこれで、マザーブレインがコントロールしていたアメダスやバイオシステムは、みんな役に立たなくなっている。何もかも失ってしまったアルゴルには、これから辛くて悲しい生活が待っているだろう。

けれどもボクは、新しいアルゴルに希望の光が宿っているのを感じていた。

「さあ、モタビアにもどろう。すべては、これから始まるのだから……」

ボクたちは、この宇宙船の脱出ボートを探しに歩きはじめた。——だが。

「ユース、待ちなさい！」

ルツの、いつになくこわばった声が、ボクたちの頭に飛びこんできた。

「その船の中には、まだ何者かがいる！ もどってきてはいけない！」

「な、何だって!？」

↓ 376へ

361

ダークファルスがビームを放った！ うわっ！ 電撃を受けたようなショックを受け、

ボクは床に倒れた（HPマイナス5）。

（スターアトマイザーを使えば、1個につきHPプラス5、TPプラス2。モノメイトを使えば、1個につきHPプラス2）

●HPが17以上 …………… ↓ 391へ ●16以下 …………… ↓ 316へ

362

リフターが開き、ボクらは再び地上へもどった。今度はどこに行こう。

●A地区へ行く……………↓111へ ●B地区へ行く……………↓12へ

363

エアロプリズムを持っているか？

●持っている……………↓318へ ●持っていない……………↓389へ

364

アーキドラゴンは、ボクらを焼き殺すつもりらしい。とがった口から、紅蓮の炎を吹きつけてくる。

が、それがヤツには災いした。なんと炎にあおられて巨大な氷塊が溶け、ヤツの上に落ちてきたのだ！

ボクは剣を逆手に持ちかえると、氷塊で動けなくなったドラゴンの額に、ソードを突きたてた（戦闘Pプラス1、TPプラス2）。

ボクらは、先ほどの分かれ道までもどると、今度は左の道を進んだ。 ↓325へ

今までの戦いで受けたダメージがまだ残っている。ボクは、正直しやうじきにそう言った。「なるほど……。ならば、わたしは、キミたちのために祈いのりを捧ささげよう」

ルツは、天に向むかって両手を掲かかげた。

「アルゴルの神かみよ！ この者たちに、勇気ゆうきと力を授さずけてください！」

たちまちボクの体の中にパワーがみなぎってくるのがわかった。ほかの仲間なかまたちも同じようだった。ボクたちは、互たがいに顔を見合わせた（HPプラス5、TPプラス2）。

「今度はどうだ？ 自信じしんはあるか」

⇩ 336へ

「ヒュー！」

武器店ぶきてんに入ると、思わず口笛くちぶえを吹ふいてしまった。

なぜって？ 異常いじように高いんだ。これが……。。

○ラコニアソード 700メセタ

○ラコニアシールド 600メセタ

（買った値段ねだんを持ち金から引いて、アイテムリストに記入きにゆう。ひとつ買うごとに戦闘Pプラス1）。ここちも懐ふところにすきま風を感じつつ、店を出た。

●病院へ行く……………↓313へ ●アルテプラノへ行く……………↓300へ
●デゾリアンに話しかける……………↓384へ

367

どこからか風が入ってくるらしく、足元に飛んできた粉雪がまとわりつく。
L字の角に来たボクたちは、

●西に進む……………↓320へ ●北に進む……………↓348へ

368

「愛する者を失うことの悲しみを、おまえたちにも味わわせてやる！」
ルドガーが、地球人たちに弾丸をばらまいた。将棋倒しのように、ヤツらは総くずれになっ
ていく。

「ちくしよー、オレたちのアルゴルをメチャクチャにしやがってよ！」

カインズのナイフが、逃げまどう地球人の背中に突き刺さった。

アーミアやシルカたちも、残るすべての力を使って戦った。炎や竜巻、剣や銃が宇宙船

の中を地獄にかえた。

だが、地球人の数は、ボクたちの20倍以上。やがて、現われた砲兵ロボット部隊の前に、

ボクらはひとり、またひとりと倒れていった……。

「くそ、おまえだけは！」

ボクは、傷にもめげず、地球人のリーダーに喰らいついたら！ 満身の力をこめて、背中に剣を突き刺す！

その時だった。砲兵ロボットの一撃が、ボクとその男をまとめて吹っ飛ばしたのは!!
——宇宙船『ノア』の大爆発は、遠くモタビアの街からでも見る事ができたという。

UNHAPPY END

369

ボクはマジックハットをかぶると、ウニヤウニヤすり寄ってくるネコを抱き上げた。

「わたしの名前はニヤウ。昔は人間に飼われてたんだけど捨てられてしまったの」
「そうか……かわいいそうに。がんばって生きるんだよ」

ボクはそのニヤウの頭をそつとなでると、フロアーに降ろしてやった。
しかし、ニヤウは人恋しいのか、そのビルを出ても、ちよこちよこことボクらの後をついてくる。旅は道連れ、かわいいお供は大歓迎さ。とりあえず今度は？

- B地区へ行く …………… ↓ 12へ
- C地区へ行く …………… ↓ 22へ
- 右のビルに入る …………… ↓ 390へ

突然、シルカが仲間の荷物をあさりはじめた。

「おい、どうしたんだ!？」

「うるさいわね! ジャマをするんならぶち殺すよ!」

ダークファルスを前にして、何をやっているんだ。いくら本業が泥棒だからって、こんなところで……。

うわっ、ルドガーさんまで!

これは、ただごとじゃない。もしや、ダークファルスの精神攻撃か? さっきの幻覚の時に、悪の心を植えつけられたのでは。

こうなつては、メチャクチャだ。あつちでは、臆病風に吹かれたカインズとアンヌが逃げだそうとしている。

●仲間を止める ……⇩346へ ●ダークファルスを攻撃 ……⇩399へ

カオスソーサラーは、その指先から稲妻を放ってくる!

カオスソーサラー 18 + バトルP (1の1)

ユーシスたち 戦闘P + バトルP (2のB) で戦います。

●敵よりPが上……………↓326へ ●下……………↓349へ

372

「お兄さん、決まっとするだね、いい得物が似合いそうズラ。安くしとくズラン」
 武器店は値段も良心的で、店員の態度も気持ち良かった。

○ラコニアソード 400メセタ

○ラコニアシールド 300メセタ

（買った値段を持ち金から引いて、アイテムリストに記入。ひとつ買うごとに戦闘Pプラス1）お次はどこだ。

●病院へ行く……………↓356へ ●アルテプラノへ行く……………↓300へ

●デゾリアンに話しかける……………↓335へ

373

アーミアの放ったスライサーが、女神像の髪を切断！ そのとたん、女神像の姿がわずかに揺らいだ。
 あの像は、完全な映像というわけじゃないんだ。なんらかのエネルギーによって形をたもっているようだな。

「おのれ、ござかしいマネを！」

女神像の目が、ビームを発射した！はっしや アーミアとルドガーに命中するめいちゆう（HPマイナス2）。
アーミアは左肩ひだりかたを押さえて、うずくまった。

「アーミアさん！」

「大丈夫よ、心配しないで」

「ユース君、今度はあの像の背後はいごを攻撃だ！」と、ルドガーが叫んだ。さけ ↓139へ

374

ズドドドドド!

無謀——それは今のボクたちのためにある言葉ことばだった。
剣けんを抜いたぬはいいが、あっさりとネオ・マンモスに踏ふみつぶされてしまったのだ。

END

375

ダークファルスは、ユラアーツとボクたちに近づいてくる。

この怪物かいぶつ相手に、どうやって戦あいてえばいいんだ!?

ダークファルス 32 + バトルP (1のE)

ユーシスたち 戦闘P+バトルP(2の1)で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓285へ ●下 …………… ↓341へ

376

ボクたちは、ルツの声に誘導されて、宇宙船の中を進んでいった。キャットウォークのような細い階段通路を降りると、広間に出た。

「な、何だこれは!？」

ボクは、そこまで来て、自分の目を疑った。

さつき、マザーブレインと戦った所より広い所だ。そこには、何百人という人間がいたのだ! 赤や黒のマントをはおった無表情の男たちが!

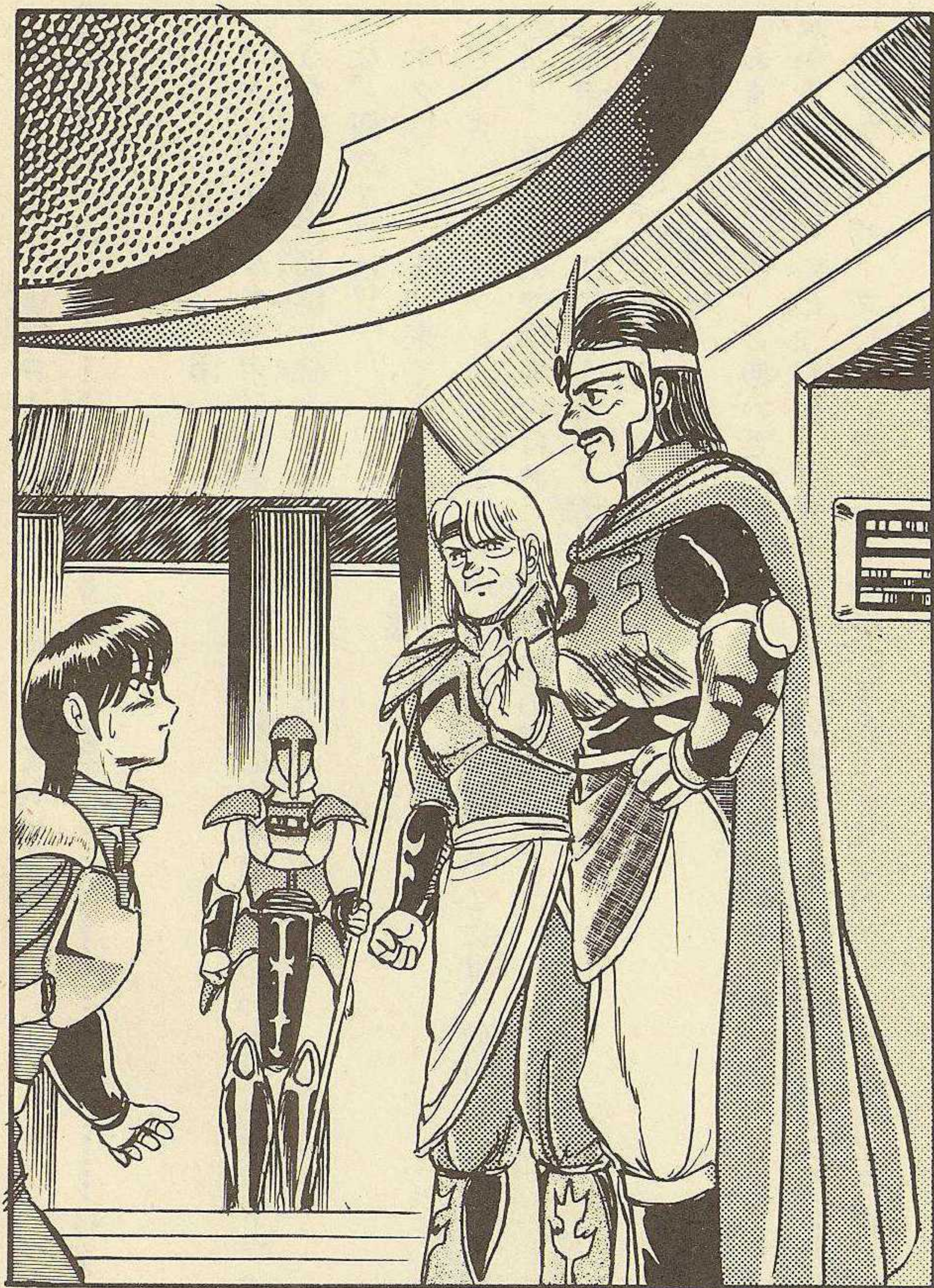
「宇宙船『ノア』にようこそ、坊やたち」

中央に立つリーダーらしい男が、重々しい声で言った。

「おまえたちは!？」

「おまえたちとは、ごあいさつだな。キミらは、我々を敵だと思っているようだが。——良かろう、我々にとっても、マザーブレインを壊したキミらは憎むべきかたきだ」

「そうか、マザーブレインを作ったのは、おまえたちなのか! おまえたちは、何者なんだ?」



376● 「我々は、アルゴルの人間ではない。我々の故郷は、こきょう銀河に
われわれひときわ青く輝き、かがや高度な文明の花を咲かせた星——ちきゅう地球」

「我々は、アルゴルの人間ではない」ここで、男は上を見上げるような仕草をした。
「我々の故郷は、『地球』という星。銀河にひとときわ青く輝き、高度な文明の花を咲かせた。
我々は、その『地球人』の子孫なのだ」

「地球人だって……!!」

ボクたちは、よその太陽系から来た宇宙人と話しているのだ！

⇩ 387 へ

377

ネイ・ソードの一撃を受けたにもかかわらず、ダークファルスはひるむ様子がなかった。
こいつは、予想以上の化け物だ。
しかし、ここで攻撃を止めるわけにはいかない。

●メキドでいつきにとどめ (TPが14以上の場合のみ) ……………⇩ 301 へ

●シフタで戦闘力アップ (TPが6以上の場合のみ) ……………⇩ 350 へ

●武器で攻撃……………⇩ 327 へ

378

アウクバルは、原住民のデゾリアンが住む、こぢんまりとした町だった。
デゾリアンは、顔こそ紫を帯びてはいるが、あとはボクらとなんら変わるところはない。

ぜひコンタクトをとりたいところだが。

●モジックハットがある …… ↓ 396 へ ●ない …… ↓ 344 へ

379

やがて、ボクたちはT字路に出た。

●西に進む …… ↓ 334 へ ●南に進む …… ↓ 398 へ

●北に進む …… ↓ 259 へ

380

階段のあるL字路に来た。

この階段を上げれば、迷宮の外に出るが…。

●南に進む …… ↓ 355 へ ●西に進む …… ↓ 328 へ

●階段を上る …… ↓ 343 へ

381

バンのガトリング砲が、ガチャンと前方に突き出した。ヘビースルジャーのビーム砲がエネルギー充填を告げる音を発する。

ロボットどもの攻撃が、まさに始まるとういう瞬間。いきなり、ヘビーソルジャーが爆発した！ カインズの対メカテクニク、ギガージだ！

「へへ、オレはきさまらの攻撃を待っているほどお人好しじゃないぜ！」

やるな、カインズ。ボクもすかさず、ギフォイエを使った。強力な火炎が、バンの胴体をぶち抜く！ ボデイに搭載されていた機関砲弾に火がまわり、ロボットはバラバラになって吹っ飛んだ（TPマイナス3）。次は、

●北に進む……………↓263へ ●東に進む……………↓202へ

382

ギ・ル・ザークたちは、鉤爪になった手を前に突き出した。そこからほとばしる電光！かわしそこねたカインズが、後ろの壁まで吹っ飛んでいった（HPマイナス1）。怪人たちは、今度はボクを狙った。

だが、その前にボクは跳び上がった。ヤツらの真上から、剣を振り降ろす！最初のヤツが、真つ二つになって倒れた。

残りの2人もルドガーとアーミアが片づけた。

「いてて……寒いうえにこれじゃ、ぎっくり腰になっちまうぜ」アンヌに助けられて、カインズが起き上がった。心配するほどのことはないようだ。その後、L字の曲がり角を、

●北に進む……………↓328へ ●東に進む……………↓298へ

383

「メキド！」(TPマイナス5、HPマイナス2)

壁から鈍い爆発音が伝わってきた。女神像が一瞬かすれたが、すぐにもとにもどった。だめだ、さすがの最強攻撃テクニクも、エネルギー体にはあまり効果がないらしい。後ろの壁を少し壊した程度だ。

「ほほほほ、そんなちやちな攻撃でわたしに勝てる気？」

「勝てるさ！ 今度は、正面からおまえを倒してやる！」

マザーブレイン 37+バトルP(1の1)

ユースたち 戦闘P+バトルP(2のH)で戦います。

●敵よりPが上……………↓360へ ●下……………↓330へ

384

「あの、ボクらはマザーブレインの謎を握る人物を探しているんですが……………」
ボクらはめげずに、別のデゾリアンに話しかけた。

「ああ？ おお、そいつなら、ウワサに聞いたことあるズラ。確かアルテプラノにおつて、

クレバス（裂け目）を、右に行つた所におるそうズラ」

「そうですか！ どうもありがとう」

ふう、デゾリアンにも、気のいいヤツがいて良かつた。さてと……。

●武器店へ行く……………↓366へ ●アルテプラノへ行く……………↓300へ

●病院へ行く……………↓313へ

385

——次の瞬間、ボクたちは大きな広間のような所にいた。無数にある窓の向こうには、星の世界が広がっていた。

「ここが太陽系の外？ 宇宙船の中なのか？」

「はははははははは!!」

突然、笑い声が広間いっばいに響きわたった。

↓270へ

386

行き止まりだ。まわれー右！ でもって、今度は……。

●東に進む……………↓342へ ●北に進む……………↓247へ

「地球人の……子孫だつて……?」

「そうだ。地球は、我々の暦で2988年に滅びた。巨大になりすぎた物質文明を持って余し、お互いの憎悪と物欲のぶつかりあいの中で滅びたのだ。かろうじて生き残った我々は、この船に乗りこみ、宇宙をさまよった」

「そして、このアルゴルを見つけたつてわけか!」

「この人々は、災いを知らずに暮らしていた。我々には、それがうらやましくもあり、ねたましくもあつた。そして、我々は考えた。アルゴルも地球と同じ方法で滅亡させ、自分たちのものとしようと」

「なんだと!」

「ははは、ここまで話してやったのは、ほんのサービスだ。おまえたちも、星ひとつを破壊する力を持った我々に、逆らうほど愚かではあるまい。おとなしく死んでもらおうか!」

「うるさい! 黙れ!」

次の瞬間、ボクたちは、何百人という地球人めがけて斬りかかっていた……。

最後の敵 37 + バトルP (1のA)

ユースたち 戦闘P + バトルP (2のG) で戦います。

●敵よりPが上 …………… ↓ 400 へ ●下 …………… ↓ 368 へ

388

「あれ、リフターがあるぞ。地上に続いてるんだらうか……」

●リフターに乗る …………… ↓362へ ●乗らずに西に進む …………… ↓342へ

●乗らずに北に進む …………… ↓297へ

389

その先は、行き止まりだった。

「待つて、あそこに階段があるわよ」と、アーミアが言った。

おそらく地上に通じる階段だ。まだふたつとも武器はそろっていないが、いったん地上に出て体を休めようか……。

●階段を上る …………… ↓343へ ●引き返す …………… ↓334へ

390

「キエエエエ！」

ビルに入ったとたん、紫のマントを頭からすっぽりとかぶった怪人が襲いかかってきた！ 魔道士、カオスソーサラーだ。

●ネコが一緒にいる …………… ↓211へ ●いない …………… ↓371へ

ダークファルスは、口をカツと開けた。ヤツがビームを吐こうとしたまさにその瞬間！
ボクの剣が、その口に吸いこまれるように突き刺さった！

「ぐおおおおおおお——っ!!」

ダークファルスの残った口が、叫び声をあげた。初めて耳にした怪物の悲鳴だった。

「今だ!!」

ルドガー、アンヌ、アーミア、カインズ、シルカ——全員が、いつせいに攻撃をかけた！
突然、ダークファルスの体がくずれはじめた。灰のようになり、飛び散っていく。

ついにやったか！（戦闘Pプラス2）

「ほほほほほほ……。それで終わったと思っているの？　かわいいものね」

今度は、女の声が響きわたった。

「あそこだわ」シルカが、壁にある女の顔の彫刻を見つけた。

たしかに、そこから声が出ていた。

「もしか、あれがマザーブレイン!?」

その時、彫刻の目から光線が伸びた！

392

ルドガーの援護射撃を得て、ボクはネオ・マンモスの1頭に飛びのつた。そのボクを目がけて、別のネオ・マンモスが、鼻を振りおろしてくる。とつさにジャンプ、今度は、別のネオ・マンモスにとびうつる。動作の鈍いヤツらは、狙いを定めることができず、ボクを狙って互いに相打ちをはじめた。

「さあ、今のうちに、早く逃げるんだ！」

ちよつとばかりセコイやり方でネオ・マンモスをおかわし、ボクらはビルの外に出られた。

●Eにチェックがある …… ↓129へ ●ない …… ↓353へ

393

アーミアは、戦闘力を引き上げるシフトのテクニックを使った(TPマイナス2)。

たちまちパワーが、体中に満ちてきた(戦闘Pプラス2、HPプラス2)。

よし、いくぞ！

↓255へ

394

アーキドラゴンは、いきなり紅蓮の炎を吹き上げてきた！

「うわっちちっち！」(HPマイナス3)

くうっ、これじゃうかつに近寄れない。どうしたらいいんだ。

●HPが19以上……………↓364へ ●18以下……………↓314へ

395

「跳べ！」

ボクらが空中に飛び上がった瞬間、床全体が赤く光った。マザーブレインが、エネルギーを流したのだ。

「ふう、危機一髪！」

「さあ、今度はこっちの番だぞ」

●女神像を攻撃……………↓373へ ●背後を攻撃……………↓139へ

396

モジックハットをかぶって、デゾリアンに話しかけてみた。

「これは異国のお方。オラたちは、コンピュータにはたよらず、のんびり狩りをして暮らしているズラ。人探しだか……。そういやあ、ほかのパルマ人が居なくなっただちゅうのに、まだ頑固に残っている人々がおると聞いておったが……」

紫色のゴツイ顔をしているが、デゾリアンは素朴で親切だった。さて、今度はどうする？

●病院へ行く……………↓356へ ●武器店へ行く……………↓372へ

●ほかのデゾリアンに話しかける……………↓335へ

397

いかん！ これは、マザーブレインの心理攻撃だ！

そうわかっていても、これは強力だった。ボクは、仲間たちから引き離され、女神像の体内——宇宙に吸いこまれていった。

デゾリス、モタビアと体ひとつで飛行し、気がつくくとパルマ星の宇宙空港に立っていた。

「ユース！」

声に振り向けば、そこにはボクが見たことのないはずのお母さんが立っていた。

「母さん！」

ボクは、お母さんを抱きしめた。

「でも母さんは、宇宙船事故にあっただって……………どうして、ここに？」

「それは、おまえを迎えにくるためだよ」

お母さんはボクの背中にまわした手に力を入れた。それは、人間の力ではなかった。ボキツという、背骨の折れる音が異様に大きく響いた……………。

——コードに絡まったまま死んだボクを見て、アンヌが悲鳴をあげた。ボクは、その声

を最後まで聞くことができなかつた。

END

398

Fにチェックはあるか？

●ある……………↓352へ ●ない……………↓311へ

399

「うおおおお！」

ボクは、ダークファルスめがけ、斬りかかった。

ズサツ！ 胸を斬られたヤツが後退する。

再び振りかぶった時、突然、ネイ・ソードが光を放った。——おや？ 心の中の重くよ

どんだものが、スツと消えていくようだ。

「あれ？ わたし、何をやっているの……？」シルカが、たった今、目覚めたというよう

な声を出した。

良かった。様子がおかしかったほかの仲間たちも、急にハツとした顔になる。

「怪物の精神攻撃にかかっていたんだ。気をつける、また来るぞ！」

↓377へ

「わたしは、あなたたちの行いを決して許さない！」
 アンヌが、グラブトのテクニクで、地球人どもを押しつぶした。地球人は、パニックを起こし、逃げまどいはじめた。

「わたしは、運命の奴隷にはならないわ！ 未来は、自分の手で切り開いてみせる！」

シルカの投げナイフが、逃げまどう地球人どもの首を貫いた。

アーミアやルドガーたちも、残るすべての力を使って戦った。炎や竜巻、剣や銃が宇宙船の中を地獄に変えた。だが、地球人の数は、ボクたちの20倍以上。やがて、現われた砲兵ロボット部隊の前に、ボクらはじりじりと押されていった……。

「くそ、おまえだけは！」

ボクは、あちこちで起きている爆発にもひるまず、地球人のリーダーに食らいついた！ 満身の力をこめて、背中に剣を突き刺す！ おまえのために死んでいった人のかたきだ！ 「ぐわっ！ こ、小娘にしてやられ失敗し……それからコールドスリープで千年。完全な計画のはずだったのに、また失敗するとは……」

男は死んだ。その直後、砲兵ロボットの一撃がすぐ近くで炸裂した！ ボクは爆発に巻きこまれ、意識を失った……。

HAPPY END (エピローグに続きます)

エピソード

……ああ、また夢を見ている。ただし、いつもの夢とは違う。床には怪物——ダークフアルスがぐずれ落ち、もはや動くことはない。そして、その脇には剣を高々とかかげる少女の姿。少女は長い髪をなびかせ、こちらを振り向いた。その顔は、勝利の喜びにあふれている。——アリサ。ボクは、彼女の名を呼んだ。

……ん？　ここは？

「よお、無事だったか。まったくなんてこつたい。1日のうちに2度も——しかも同じ人間を釣り上げちまうとはな。仲間も生きているから気にするな」

タイラーの顔が目に入った。あの宇宙海賊の男だ。

「よくやってくれた。犠牲も大きかったが、これでアルゴルは救われた」

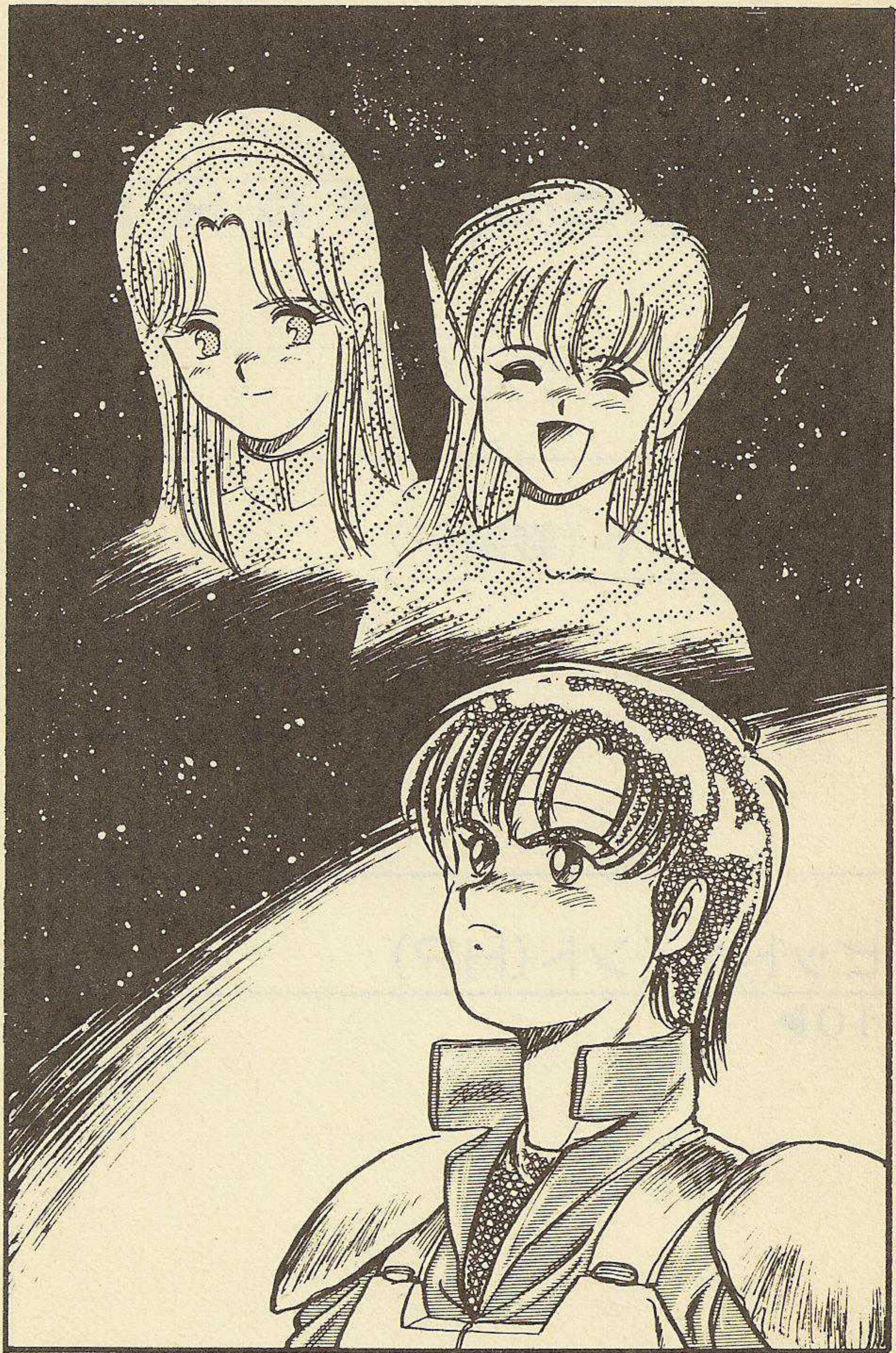
タイラーの後ろから、ルツが現われた。彼がタイラーの船の中に、ボクたちを飛ばしてくれたのだ。

「見たまえ。あの地球人とやらの船が大爆発を起こすぞ」

スクリーンの中が真っ赤に染まり、やがてまた静寂の宇宙空間を映し出した。

これから、アルゴルは新しく生まれ変わる。いや、生まれ変わらしてみせる。星の光に浮かんだアリサやネイの顔にボクは誓った。

エピローグ



行動記録紙

バトルポイント表(バトルP)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1										
2										

戦闘ポイント(戦闘P)

0▶

ヒットポイント(HP)

10▶

行動記録紙

テクニックポイント(TP)

0▶

お金(メセタ)

100▶

アイテムリスト

アルファベット・チェック

A	B	C	D	E	F

あとがき (大出光貴)

『ファンタシースター』(以下P S)の続編ぞくへんが早くも登場とうじようです。続編ぞくへんといつても独立どくりつした話になつていますので、本書を先に読んでも楽しめます。

本書のベースは、セガのメガドライブ用ゲーム「P S II」です。舞台ぶたいは前作から千年後。それだけ話も未来みらい的てき、S Fチックになつています。メガドライブ版ばんは6メガという大容だいようり量りようゲームだけあつて、並なみのR P Gとは大違おちがい。なんといつても、戦闘せんとう時に敵味方てきみかたのキャラクタキャラクターがそれぞれ動くのは感動かんどうもの！ さらにラストがすごいんだけど、まだ終わつていない人のためにここではナイショにしておきます(多分、家庭用T Vゲームの世界でこんなことをやったのは「P S II」が初めてでしょう)。

さて、前回、S Fとファンタジーの合わさつた小説を紹しょう介かいしましたが、もつとほかにも教えて欲ほしいという声をいただきました。今回は1冊だけ。R・A・マカヴォイの『黒龍こくりゆうとお茶を』というモダン・ファンタジー。アクション場面とかはないんですが、ドラゴンの化身けしんである人間にんげんがコンピュータ犯罪はんざいに巻まきこまれるという設定せつていがおもしろいです。ちやうどゲームの中にドラゴンが使われているといったパターンが逆転さやくてんしたみたい。

紹しょう介かいついでに、自分の本のお知らせもします。6月ごろ、忍にん者じやもののオリジナル・ゲームブックを出します。ギャグいっぱい楽しい作品になりそうです。⇩257へ

※大出光貴 1961年、北海道富良野市ふらのの生まれ。好きなものは、星と船とヘンな生き物。

編集部から

バイオモンスターズの謎を探る『ファンタシースターII』いかがでしたか？

キミは見事、謎を解きあかすことができたでしょうか？

当編集部では、今後ともゲームを素材にしたゲームブックを、次々と発表していく予定です。

つきましては、すでに発表しております「ゲームブックシリーズ」を含め、当シリーズに対する御意見、御感想をお寄せいただければ幸いです。また、これからゲームブックにして欲しいゲームの希望などもお待ちしております。

〒162 東京都新宿区東五軒町3番28号（株）双葉社CTR「メガドライブ冒険ゲームブックシリーズ」編集部 ファンタシースターII係まで、あなたの御氏名、御住所、御年令、感想を書いていただいた本のタイトルを明記の上、お寄せ下さい。

お寄せいただいた方の中から抽選で、ゲームブックの最新刊をプレゼントいたします。

企画・構成／スタジオ・ハード 大出光貴

制作／大内めぐみ 木川明彦

文／大出光貴 橋爪 啓

作画／八雲ひろし 徳永 健

©セガ・エンタープライゼス

ファンタシースターII

還らざる時の終わりに

双葉文庫

冒険ゲームブックシリーズ す 02-48

著者 大出光貴

橋爪 啓

制作 スタジオ・ハード

発行者 清水文人

発行所 株式会社 双葉社

〒162 東京都新宿区東五軒町3番28号

TEL 東京(268)5111 (代表)

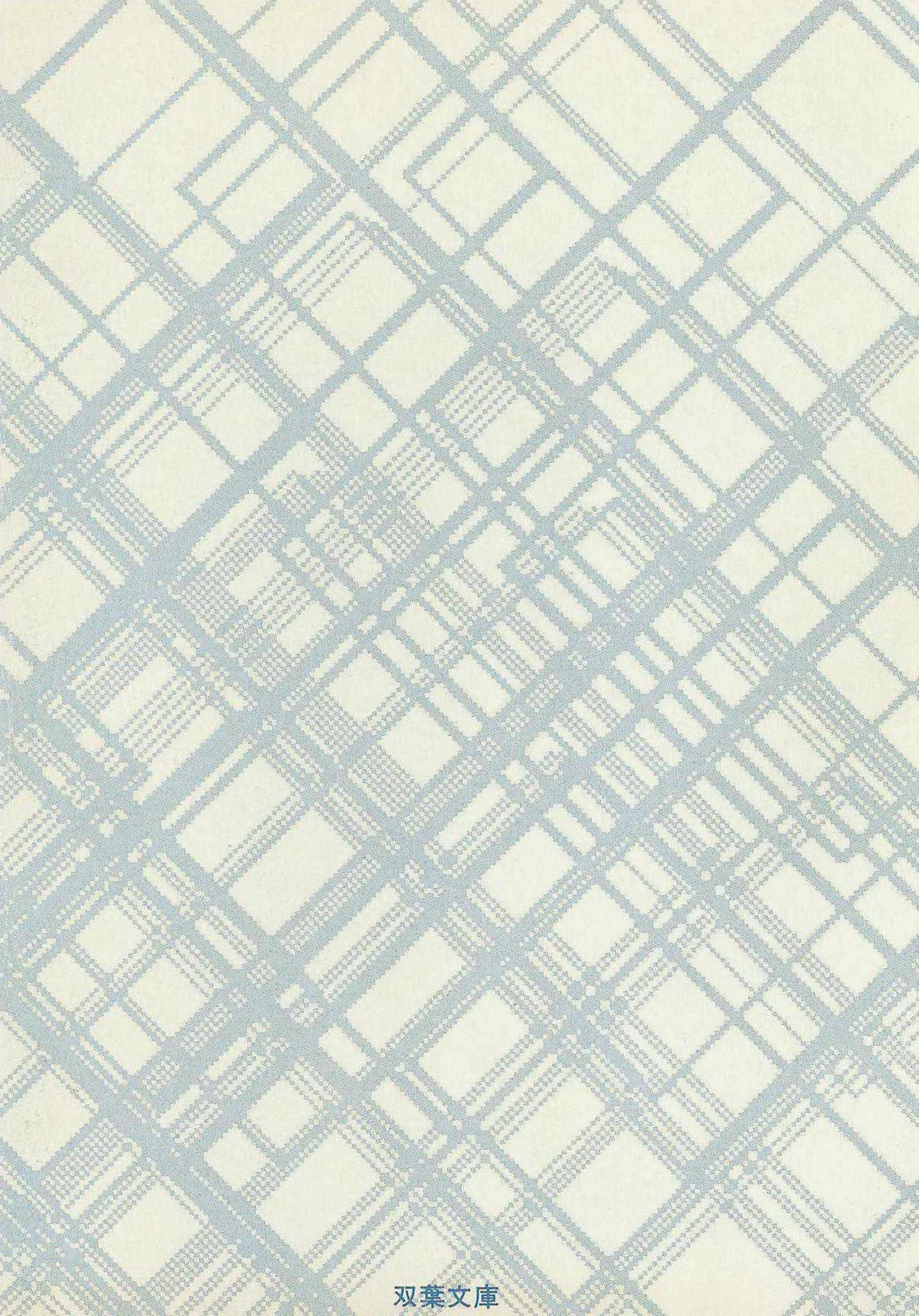
振替 東京 8-117299

印刷製本 大日本印刷株式会社

©FUTABASHA1989©Mitsutaka Ode/ST・HARD 1989 Printed in Japan

ISBN4-575-76102-8 C0193 (落丁・乱丁はお取りかえいたします)

定価・発行日はカバーに表示してあります



ファンタシースターⅡ

還らざる時の終わりに

ストーリー

ラシーク対アリサ。あの壮絶な戦いから、
およそ1000年の月日が流れた。その後アルゴ
ル太陽系はさらに発展し続け、巨大なコンピ
ュータ・マザーブレインが総ての星を管理し、
平和で豊かな暮らしを築き上げるにいたった。

だが、ある日、アルゴル太陽系に不気味な
怪物が出現した。バイオモンスター。バイオ
システムの作り出した悪性動物だ。ヤツらは、
平和な暮らしに慣れきった人々を襲い始めた！

総督から、バイオモンスターの秘密を探る
ように命令されたユーシスは、妹ネイを連れ
てバイオシステムへと旅出った！！